

学校法人神谷学園

東海女子短期大学

自己点検・自己評価報告

1999年度版

まえがき

昭和 38 年「国際的視野を備えた社会性及び創造性と行動力豊かな女性の育成」を建学の精神とし、本学の学則の示す目的は「家政・英文及び児童教育に関する専門の教育を施し、専門的知識・技能を習得させるとともに、教養ある有為な女性を育成する」ことにある。創設時から国際性に着目しての短期大学の設置である。教職員あげて建学の理念の実現に努力しております。

女子教育の先進的・実践的教育内容を設定し、家政系の教育・研究に重点を置き、更により広い視野をもつ女性教育の場としての整備を進め、文系・教育系にわたっての充実を図って参りました。この間地域との結び付きを強く持ち、多くの入学者を迎えることとなり、現在までに 23000 名を越す卒業生を送り、夫々各界で相応の活躍をされております。

しかし、この数年来 18 才人口の減少は急激であり、更には四年制大学への志向も強く、短期大学を巡る環境は極めて厳しい状況にあることは事実で、「短大の在り方」は勿論のこと、過去の教育・研究及び学内の組織・体制の改革は急務で、避けて通ることは不可能の状況にある事は、教職員すべてが自覚するところであります。この事実を厳粛に受け止め、学内の関連委員会に於いて討議を継続しておるところです。

開学以来、学園理事会と教授会は協議を継続し、学内の充実について論議し、各種の改正を図って参りました。沿革に記した認可事項はその結果であります。

自己点検評価実施は、創立以来の継続的实施であります。今回その結果を報告書として発刊することになりました。過去の点検事項はやや個別問題に終始した観があり、ようやく全体的な自己点検評価の第一歩を踏み出した段階であります。引き続き教育水準の維持向上や各活動状況及び地域文化への貢献等についての点検評価を実施し、本学が高等教育機関としての使命を果たすために努力して参りたいと思っております。

東海女子短期大学

学長 高野卓哉

自己点検・自己評価報告

目次

● 沿革	1
● 自己点検評価	3
● 家政学科	4
● 英文学科	13
● 児童教育学科	19
● 管理、運営	24
● 学生の受入れ	34
● 公開講座委員会	40
● 学生生活への配慮	43
● 図書館	70
● 授業科目一覧表	76

本学の沿革

本学の前身は、昭和 20 年開校の岐阜服装学院が、財団法人岐阜洋裁専門学院となり、本科及び研究科をもつことから始まり、36 年学校法人神谷学園(理事長・神谷一三)となり、38 年県内初の私学高等教育機関として、東海女子短期大学が認可された。その後学科・専攻の拡大・充実に努めて現在 3 学科 5 専攻 11 コース、定員(臨時定員を含む) 610 名となった。この経過の概要は

- S38. 1 東海女子短期大学の設立認可があり 初代学長に神谷みゑ子が就任した
家政科(入学定員 50 人)の設置
- 39. 1 家政科 2 部(入学定員 50 人)の増設が認められた
- 39. 2 第 1 部・第 2 部は中学校教諭 2 級普通免許状(家庭)課程として設定された
- 39. 3 家政科第 1 部を被服専攻(30 人)と食物専修(20 人)の両課程に分けた
食物専修課程が栄養士養成施設として指定された
- 40. 1 食物専修課を食物専攻課程と名称変更し 1 部入学定員 50 人を被服専攻 45 人・食物専攻 35 人とすることが認められた
- 41. 1 被服専攻 50 人・食物専攻 130 人とすることが認められた
英文科第 1 部・第 2 部及び初等教育科(各 50 人)の設置が認可された
- 41. 3 英文科は各部共に中学校教諭 2 級普通免許状・初等教育科は小学校及び幼稚園教諭 2 級普通免許状を得させる課程として認定された
初等教育科が保母養成学校に認定された
- 42.1 被服専攻定員 50 人を 70 人・初等教育科定員 50 人を 80 人に変更が認められた
- 42.12 初等教育科の入学定員 130 人となった
- 43.7 家政科 1 部・2 部・英文科 1 部・2 部及び初等教育科は司書教諭の資格を得させる課程として認可された
- 44.9 食物専攻を食物栄養専攻 100 人と生活デザイン専攻 30 人とすることが認められた
- 47.3 東海女子短期大学附属東海第一幼稚園の設立が認可された
- 48.1 初等教育科を児童教育学科とし初等教育専攻 100 人と幼児教育専攻 50 人とする学科・専攻・入学定員の変更が認可された
- 48.2 司書の科目の単位が司書講習の担当科目の単位として許可された
- 49.1 初等教育専攻は小学校教諭 2 級・幼稚園教諭 2 級の各普通免許状、幼児教育専攻は幼稚園教諭 2 級普通免許状を得させる課程として認可された
- 50.4 海外語学研修校として東海女子短期大学ケンブリッジ校を開設した
- 51. 3 英文科第 2 部の廃止が認可された
- 53.2 東海女子短期大学附属東海第二幼稚園の設立が認可された
- 57. 1 英文学科 50 人を 100 人に変更することが認められた
児童教育学科 100 人を 150 人と変更があった
- 59.7 軽井沢研修会館が竣工した
- 59.12 家政学科第二部の廃止が認可された
- 60.12 期間を付して入学定員 220 人の増加(英文学科 100・被服専攻 50・食物栄養専攻 50 及び生活デザイン 20)が許可された(平成 12 年 3 月まで)

- 61.1 栄養士養成施設の学生の定員 100 人を 150 人に変更が承認された
- H2.12 幼児教育専攻の定員 50 人を 100 人に変更することが許可された
- 4.9 ホッケー場が完成した
- 6.3 総合図書館(東海情報コミュニケーション ライブラリー)が竣工した
- 7.4 理事長に神谷哲郎が就任した * 1.18 神谷一三初代理事長死去される
- 7.10 初代学園長に神谷みゑ子が就任した
二代学長に上野良光が就任した
- 9.6 情報館が竣工した
- 10.10 三代学長に高野卓哉が就任した
- 11.4. 62.12 に許可された入学定員のうち英文学科 100 人の減少が認可された

この間の特筆すべき事項として、現理事長神谷哲郎の努力により英国教育科学省の認可を受け、英国ケンブリッジ市郊外に、語学研修校 Cambridge Academy of English を開設した事である。以降研修留学生が派遣され、帰国後は語学力を生かして社会に貢献する人材として活躍し、その他 45 年以降に米国 6 大学との姉妹校盟約もあり、国際交流の実績を積んでいる。また 44 年から学内奨学生制度がスタートし、学業・人物の優秀者やスポーツ・音楽及び美術等に特技・技芸を持つ者の入学があり、各クラブでの中心的存在として活躍し、中でも平成 3.4 年の全日本学生 2 連覇のバドミントン・平成 5 年から 7 年にかけて全日本及び大学王座優勝のホッケー両部を頂点として、西日本学生・東海学生選手権での優勝実績を持つバレー、ソフトテニス、ソフトボールやスキー部を支援している。

東海情報コミュニケーション ライブラリー・情報館の 2 施設が竣工し、短大・大学の共用施設として、前者は図書館本来の機能に、「集う・語らう」を併せて多目的に利用できる最適空間であり、短大・四大の開催する地域への公開講座の会場としても利用され、後者は AV ホール・インターネット アクセスブース・マルチメディア スタディールームに最新機器を設置して、授業以外にも気楽に使用できる施設として多くの利用者を迎えていますし、両者は回線で結ばれ文献検索を可能としています。

自己点検評価

開学以降、学園理事会は教授会との協議の場において、設置目的と建学の精神を結実すべく本学の充実・拡大を図り、学科増・定員増に対応して多くの教員を招聘し、教育・研究の活性化に努力して参りました。

経過としては、各年度の課題を整理し、該当の委員会の立案により解決が図られてきたが、平成 3 年の短期大学設置基準の大綱化により、教育・研究活動等の状況についての自己点検及び評価の実施が明文化されたことを受けて、本学では主任教授会を自己点検運営委員会とし、教務委員会・カリキュラム委員会・学生生活委員会から委員を選出し、検討委員会を構成して検討を開始した。委員会は拡充した学科・専攻・コースの実態把握と、その「在り方」と「資格付与」等についてを対象として論議を重ねた。

その他の事項として

各学科・専攻・コースの検討結果によるカリキュラム改革(増減)

履修の手引きは、「シラバス」を含む形式として作成・学生へ配布

教員の研究業績の収集

学生の受け入れ(入試方法と社会人の受け入れ)

学生の修学や生活に関わる諸事項の改正

学内施設の有効利用(大学・短大の共用施設を含む)

教育組織の更なる充実についての方策

公開講座の開設(生涯学習の機会提供) 等々がある。

その検討結果を受けて、実行可能な事項については、関係委員会から教授会に報告し実施に移された。経営に関連する案件については、理事会と諮り決定することとしている。その一例として、家政学科を名称変更し生活学科とし、衣生活・住生活・食物栄養の 3 専攻とした。更に生活スタイルの多様化への対応を図り、現代生活の専門的領域・関連領域(科学的視点に立った生活科学)を、より深く・広く攻究する専攻科(修学年限 1 年)の設置を申請したことなどがあげられる。これらは 12 年度からの実施で、社会人も受け入れる予定である。また社会的要請として求められる内容を探り、私学として特色ある学科づくりを研究しているのが現状である。

なお、点検評価としては 3 学科の現状と課題や、上記その他に挙げた項目を整理して記述したものである。

家政学科

I. はじめに

家政学科は昭和38年開学時より設けられている本学の基幹となっている学科である。昭和45年度より家政学を衣・食・住の三分野に分け、被服専攻、食物栄養専攻、生活デザイン専攻の三専攻とし、新しい時代にふさわしいそれぞれの専門家また家庭人の育成を目指している。社会や自然等の環境の変化に応じて常に生活を科学的な視点から探求し、どのように生きていくのかを考える学科でもある。最近の生活の進歩に対応し、それぞれの専攻にコンピューターの活用を取り入れた教育を実施するなど、時代に即したカリキュラムの改革も実施してきた。これら社会・経済・生活の変化に伴い、従来の家政学科をより広く社会全体を含めた生活そのものを学ぶ学科への転換が必要とされてきた。そこで平成12年度より学科名を「生活学科」と変更し衣生活専攻・住生活専攻・食物栄養専攻の三専攻とし、更に専攻科「生活科学科」を設置し時代の要望に応じていく計画である。

次にその三専攻について詳しく述べ、平成11年度の各専攻の専門科目の開設表を添付する。

II. 被服専攻

人間生活の要素である衣・食・住、その「衣」の分野である被服専攻は衣生活に関する幅広い知識と技術を習得し、専門性を生かし社会に貢献しうる優れた人材、また新しい時代の家庭生活を築いていくことができる家庭人として、さらには社会人としてフレキシブルに対応できる女性の育成を目標としている。

授業内容としては徹底的な実力養成に重点をおくカリキュラムと実践的指導で応用能力を養う。一例を挙げると姉妹校であるニューヨークファッション工科大学(F. I. T.)教授によるF. I. T.サマーセミナーは1978年(昭. 53)から18年間続けられ、被服科学生とともに地元アパレル業界、高等学校の家庭科教員にも公開した。産学協同のコミュニティカレッジとして、他に類をみないスピードと仕事の展開効率のよいドレーピング、グレーデング、工業用パターンメイキング等のデモンストレーションは学生にとっても大きな魅力となり、想像以上の実力がつき、アパレル業界からも期待をよせられた。それらを集約し、現在も授業科目としてより専門的に取り入れている。

同様に、いち早く導入したアパレルコンピューター支援システムの授業においても、学生はもちろんのこと、社会人、業界人、高校教員にも公開してきた。また、授業以外でも美や芸術への理解をはじめとし、ファッション研修、衣裳展の鑑賞など美的感覚、デザイン感覚の練磨にも努めている。これらの反映として卒業生の中には中学校家庭科教員として活躍している人、また、諸々のコンテストでの入賞、グランプリ獲得、ペーパークラフト作家として世界的なコンクールに入賞するなど、幅広く多くの業績をあげている。

しかし、目まぐるしく変わる時代のなか、従来の被服に固執せず、新しい分野も織り込んで幅広く考え、平成6年にはコース制を導入し、服飾情報コース、厚生テキスタイル情報コースの2コースでスタートした。更に平成9年には服飾情報コースをファッション情報コースに、厚生テキスタイル情報コースを福祉・テキスタイル情報コースにと名称変更し、更に新しい分野としてインターネットコース、建築士・インテリア設計士コースを設け4コースとし、視点を変えながらも、共通する美の本質を追求してきた。

また、時代の流れとともに、学科、専攻の見直しに迫られ、福祉・テキスタイル情報コースは福祉としての位置付けを学園として検討中であり、インターネットコースは衣生活情報コースに吸収、建築士・インテリア建築士コースは住生活専攻の中の住居デザインコースへと名称変更し移行する。これらの改

編により、平成12年度からは被服専攻が衣生活専攻となり、ファッションデザインコース、衣生活情報コースの2コースで新たにスタートし、より専門的に内容を深めるようカリキュラムを組んでいる。

◆旧学科・コース

◆新学科・コース(平成12年4月より変更)

<p>家政学科 ●被服専攻</p> <hr/> <p>ファッション情報コース</p> <hr/> <p>福祉・テキスタイル情報コース</p> <hr/> <p>インターネットコース</p> <hr/> <p>建築士・インテリア設計士コース</p> <hr/> <p>●生活デザイン専攻</p> <hr/> <p>●食物栄養専攻</p>	<p>生活学科 ●衣生活専攻</p> <hr/> <p>ファッションデザインコース</p> <hr/> <p>衣生活情報コース</p> <hr/> <p>●住生活専攻</p> <hr/> <p>住居デザインコース</p> <hr/> <p>生活デザインコース</p> <hr/> <p>●食物栄養専攻</p>
---	--

1. ファッション情報コース

このコースはアパレルが地場産業という地域の中にある短期大学として、開学以来一貫し、被服専攻の名のもとで、アパレル業界のニーズにより一層応えるため、パタンナー、デザイナー、コーディネーターなど徹底した実力主義のカリキュラムを組んでいる。充実した専門科目即ち、デザイン創作、服飾色彩学、ドレーピング等を履修させ、同時に被服構成、ファッションドローイング等実習面の科目も重視し、豊かに表現できる力を高めることに努め、きめ細かい指導を行なってきた。

自らの創意工夫で作品製作にも取り組み、ファッションショーなどで発表する場を設ける。また、コンピューター化に対応できるよう一般情報処理の外、東レのアパレルCAD、マッキントッシュのコンピューターグラフィックスを併用しながら、色と形のバリエーションやパターン展開の可能性を求めるなど創造力と即戦力を養い、オペレーターとしての輩出にも力を注いでいる。

さらに岐阜県商工労働部からの要請で作品を出品したり、大きなコンテストに次々に応募するなど、積極的にとりくみ、よい成績をあげている。就職率もよく(平成10年度88.4%)、アパレル業界、一般事務と、その美的センスを買われ、高く評価されている。

取得資格は中学教諭2種(家庭)、学校図書館司書教諭、図書館司書、社会福祉主事任用資格。

なお、いまの内容をより深め、更に衣生活とは、生活における美とは、といった分野も追求しながら、12年度からはファッションデザインコースと名称変更してスタートする。

2. 福祉・テキスタイル情報コース

このコースでは被服と福祉を複合して学ぶことを目標とし、平成6年度より厚生テキスタイル情報コースの内容を引き継ぎ、福祉・テキスタイル情報コースと名称変更した。

そのねらいは被服一般の基礎にたち、コース専門科目にテキスタイル、家庭医学、高齢者介護演習、老人福祉論、更には、言語表現における手話など実践的な科目も取り入れ、新たな視点で被服を捕らえようとするものである。

このコースに入学する学生は、高校ですでに家政を履修している者も多いので、その科目を削減し、代わりに福祉関係の資格を持つ人が増える社会現象のなかで、特技をもった介護者や、福祉の視点をもったデザイナー、被服技術に優れたリーダーとしての役割が果たせる人材の養成をし、また活躍を期待している。

取得資格はファッション情報コースと全く同様である。

なお、時代の趨勢により福祉の分野を大きく捕らえる必要があり、社会福祉について鋭意検討を加えているところである。

3. インターネットコース

インターネットコースは、1997(平成9)年に、「ファッション界をリードするに十分な知見・技術の取得に留まらず、情報社会で真に望まれる情報機器を駆使し常に新しいトレンドを創造し、時代を先取りしながら未来を切り拓いていくトータルな情報処理能力を身につけた人材を養成する」ことを目的として開設された。

この背景には90年代半ば以降のわが国におけるインターネットを介した情報流通の本格化と、それに対応した情報処理能力を有する人材の育成・輩出が今後急務となるという予測があった。

この目的を実現するために、従来の被服専攻における「被服構成」等の衣服を製作する実技科目の比重を軽くしながら、コンピューターを用いる演習科目、コンピューターの基礎からネットワーク操作に必要な技能・知識を取得する情報教育関連科目を取り入れたカリキュラムの作成・実施を行なった。

さらに上記の基本技能を基礎として、TPOに合った情報の処理・加工を行ない、情報の付加価値を高めるために、CG(コンピュータグラフィックス)やHTML(ハイパーテキストマークアップランゲージ)に関する講義・実習科目を取り入れたものとした。

1998(平成10)年には、コース開設初年度に実施したカリキュラムの反省を踏まえて、若干の見直しと科目名の変更を行なった。

具体的には、ファッションに関する情報処理技能・知識についてより一層の向上を目指すためのカリキュラム修正であった。

入学以前に本格的に服飾の知識・技術を学んだことのない学生が多いにも関わらず、授業に取り組む姿勢は意欲の高いものである。反面実技科目に関しては被服専攻における他コースの学生の到達水準と比較すると全体的にやや低調である。

この点を踏まえた今後の課題は、インターネットのWWW(ワールドワイドウェブ)等のネットワークへのアクセスによって得たファッションに関する動向を分析し、自己のアイデア・センスをより一層高め、製作へと結び付いていけるような構造的なカリキュラムの開発である。

取得資格は情報処理士、インターネット・インストラクター。

なお、平成12年度よりインターネットコースの内容も引き継ぎ、新たに衣生活情報コースとしてスタートする。

4. 建築士・インテリア設計士コース

女性の社会進出や専門資格の多様化によって、家政科本来の、いわゆる家事や生活に関わる教養や実践の枠組みを越えた領域や内容を要求されるようになったのを受けて、「被服」といういささか異質と思われる専攻に組み込まれ、衣と住がともに歩む新しいコースができて3年目となる。

学生は一様に住まいの、特にインテリアデザインに興味と関心をもち、今年度はじめて出た卒業生の中には、工務店、建築の材料店へと就職している者もいる。

建築士受験資格取得上、建築学全般にわたる科目の履修を通して、基礎知識の取得を目指している。しかし、実務への応用までにはまだ、相当のギャップがあることを認めざるを得ないものの、設計、製図などを中心とした演習を通じて、広く、住居に関する知識や、考え方を総合化して、表現することに重

点を置くとともに、成果を他への伝達手法をも体験させている。

そんな中で、豊かな素質や意欲を見せる学生も見られ、設計を職業として希望する者は多いが、残念ながら、現在では実現できていない。しかし、四大への進学などで、期待をつなげている。

取得資格は2級建築士受験資格、インテリア設計士受験資格

なお、見直しにより、平成12年度から住生活専攻の住居デザインコースとして、再発足するが、それを機により充実を図りたい。

被服専攻

授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必 須	選 択	
被服学		2	
家政学概論	2		
被服材料学		2	
服飾デザイン	2		
服装史		2	
ファッションドローイング	2		
被服管理学		2	
民族衣装装		2	
ステンドグラ		2	
被服構成I	2		
小計	8	12	
家庭経済学		2	家庭看護を含む
住居学		2	
保育学		2	
食生活学		2	
栄養学		2	
調理学及び実習		2	
家庭機械及び家庭電気		2	
情報処理演習		1	
プレゼンテーション演習		1	
心理学		2	
社会福祉概論		2	
パターンメイキング		4	
被服構成II		6	
和裁I		2	
和裁II		2	
ファッション情報論		2	
デザイン創作		2	
工業パターン及びコンピュータ実習		2	
ドレーピング		1	
服飾色彩学		2	
ファッションコーディネート		2	
モードクロッキー		1	
小計		46	
家庭経済学		2	家庭看護を含む
住居学		2	
保育学		2	
食生活学		2	
栄養学		2	
調理学及び実習		2	

家庭機械及び家庭電気	2
情報処理演習	1
プレゼンテーション演習	1
心理学	2
社会福祉概論	2
パターンメイキング	4
被服構成Ⅱ	6
ファッション情報論	2
和裁Ⅰ	2
和裁Ⅱ	2
テキスタイル	2
家庭医学(医学知識)	2
高齢者介護論	2
老人福祉	2
手話	1
小計	45
パターンメイキング及び被服構成	6
ファッション情報論	2
服飾色彩学	2
情報基礎総論	4
情報科学概論	4
コンピュータネットワーク論	4
情報基礎Ⅰ	2
情報基礎Ⅱ	2
コンピュータグラフィックスⅠ	4
ファッションコンピュータグラフィックスⅠ	2
ファッションコンピュータグラフィックスⅡ	3
プレゼンテーション演習	1
服飾プレゼンテーション演習	2
プログラム言語Ⅰ	2
プログラム言語Ⅱ	2
小計	42
建築計画	4
建築環境工学	2
建築設計	2
建築法	2
建築造力	2
建築一般構	2
建築材料	2
建築施工	2
建築積算	2
建築製図	1
建築設計製図	3
色彩学	2
CAD演習	2
測量実習	1
インテリアデザイン理論	1
住生活論	2
建築史	2
基礎デザイン実技Ⅰ	1
基礎デザイン実技Ⅱ	1
インテリアコーディネートⅠ	2
インテリアコーディネートⅡ	2

住 生 活 イ ン テ リ ア		2	
家 具 デ ザ イ ン		2	
フ ァ ッ シ ョ ン 情 報 論		2	
小 計		46	
計	8	54～58	

Ⅲ. 生活デザイン専攻

家政学科の三つの柱である「衣・食・住」の「住」の部分を担当しているのが生活デザイン専攻である。当初、生活デザイン専攻は昭和43年「家政専攻」としてスタートしたが、翌44年には「生活デザイン専攻」と改称された。この時すでに、生活の中における美学的なものを中心としてカリキュラムが設定された。

美術理論や住居学などの理論、そして絵画やデザインなどの実技、それらを両立させ、さらに教養科目や家庭科免許取得のための教職科目も充実させた。この専攻の特色は、生活空間における美的感覚の養成と幅広い技術の習得を目的としている。そのために学生たちは、油絵・ビジュアルデザイン・インテリアデザイン・立体・染色を全て履修することになっている。短大というわずか二年で、美術的分野のおおよそを体験・実習できる形である。さらに、平成2年度からはコンピューター・グラフィックスの授業も取り入れ、選択ではあるが履修できるようになっている。

もともと創造的分野の生活デザイン専攻は実技においては、個別指導が中心となっている。さまざまな個性を持っている学生の、その個人の特徴をいかに引き出すかは、教員それぞれの技量に関わってくる。クラス編成でいえば平成10年度入学生からは1クラスである。かつて昭和58年あたり、急激に学生数が増えはじめ、平成9年度入学生までは、2クラスが続いた。もちろん学生数が多くても少なくても個別指導には変わりなく、常に教員としては「授業の質の向上」を目指して、それに努めてきた。

さて、今までの「生活デザイン専攻」は、平成12年度から「住生活専攻」へと生まれ変わり、それに2つのコース「生活デザインコース」と「住居デザインコース」が設けられることとなった。「住居デザインコース」は、今まで被服専攻にあった「建築士・インテリア設計士コース」を無くし、新たに「住生活専攻」の中に位置することとなった。カリキュラムを練り、そして学生のニーズに対応できるよう大いなる期待を持って歩み出そうとしている。そしてもう一つのコース「生活デザインコース」においては、今まで「生活デザイン専攻」であった経験と実績を活かし、さらなる専門的授業の拡大と探求を計り、一層の充実を目指している。

生活デザイン専攻

授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必 須	選 択	
家 政 学 概 論	2		家族関係学を含む
家 庭 経 済 学		2	
美 術 理 論	2		製図及び家庭工作を含む
美 術 史		2	
住 居 学	2		
住 居 学 各 論		2	
イ ン テ リ ア デ ザ イ ン I	2		
イ ン テ リ ア デ ザ イ ン II		2	
被 服 学		2	
ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン	4	4	
造 形 美 術		2	

色	彩	学	2		
絵		画	4	4	
立		体	4		
染	色 デ ザ イ ン	I	2	2	
染	色 デ ザ イ ン	II		4	
家	庭 機 械 及 び 家 庭 電 気			2	
パ	タ ー ン メ ー キ ン グ 及 び 被 服 構 成			2	
食	品	学		2	
栄	養	学		2	
調	理 学 及 び 実	習		2	
保	育	学		2	家庭看護を含む
	計		24	38	

IV. 食物栄養専攻

本専攻は、健康づくりのための食生活の指導者として地域社会に役立つ栄養士の養成を目標とする。専門的知識・技術を習得し食に関する理解と関心を深め、多様化する食生活に対応し得る実力を身につけるよう努めている。

授業内容の特色は、栄養学・食品学等の基礎的学問から公衆栄養学等の応用的分野まで幅広く学び、健康維持・増進に必要な知識を身につける。現場において直ちに役立つ栄養士を目指し特に栄養指導・給食管理に重点をおき学内においては集団給食実習で大量調理の実際を学び、学外では病院、企業、学校等の集団給食施設へ出かけ、現場の栄養士の指導を受けながらの体験を積む。更に、情報処理演習も専門科目に取り入れ学生の学習意欲を高めている。また家庭においては食生活が簡素化・実用化の一途をたどり、調理する機会が少なくなり調理の技術が低下している。これらの学生の実態に即し基礎的な事に重点をおく調理学、調理実習に特に力を注ぎ、望ましい食生活が実践できるよう指導している。

管理栄養士国家試験については、年々関心が高まっているため授業においても管理栄養士国家試験科目のガイドラインをふまえた指導を行なう、一方、学生の栄養士としての就職にも力を入れている。「栄養士免許」を取得するためには栄養士法に定められている必修科目を50単位以上修得しなければならない。これらの専門科目のカリキュラムについては、栄養士の質の向上を目指し、昭和48年、昭和62年の二度にわたって法改正がなされている。本専攻においても、その都度指示通りの変更を行ない現行のカリキュラムに至っている。

最近卒業後の進路に福祉・医療関係や食品会社や研究室での仕事を希望する学生が多くなっている。そこで平成2年度より「医療秘書実務士」「食品科学技術認定証」の資格取得が選択されるようなカリキュラムを用意した。いずれも「栄養士免許」取得に必要な科目と重複するものが多い。

なお、中学校教諭二種免許状(家庭)と司書教諭の免許は定められた科目を履修すればそれぞれの資格を資格取得することができる。

また医療実務技能審査試験(メディカルクラーク)の受験を希望する学生に対しての対策も考慮しながら時代に即した進路の指導を行なうなど学生の将来働きたい職場に合わせて、より実践な学習を進めている。

食物栄養専攻

授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必 須	選 択	
解剖生理学		2	
解剖生理学実験		1	
運動生理学	1		
生化学		2	
食品化学実験		1	
食品学総論	2		
食品学総論実	1		
食品学各論	2		
食品学各論実	1		
食品加工学		2	
食品加工学実		1	
栄養学総論	2		
栄養学各論	2		
栄養学各論実		1	
栄養指導	4		
栄養指導実	2		校外実習を含む
臨床栄養学		2	
臨床栄養学実		1	
公衆栄養学	2		
給食管理		2	
給食管理実		2	校外実習を含む
情報処理		1	
食品衛生学		2	
食品衛生学実		1	
公衆衛生学	4		
調理学	2		
調理学実		3	
食料生活		1	
食料生活論		1	
家庭学概論	2		家族関係学を含む
家庭学		2	
住居学		2	製図を含む
保健学		2	家庭看護を含む
被服学		2	
パターンメイキング及び被服構成		2	洋裁
家庭機械及び家庭電気		2	
計	27	38	

『医療秘書実務士』の資格取得に関する履修科目

科 目 名	単 位 数	備 考
英 語	1	
解 剖 生 理 学	2	
臨 床 栄 養 学	2	
栄 養 指 導 論	2	
公 衆 衛 生 学	2	
情 報 処 理 演 習	1	
医 療 保 険	1	
医 療 事 務 論 と 医 療 保 険 制 度	1	学則第24条の卒業の要件の単位数に算入できない。
保 険 請 求 事 務	2	
医 療 秘 書 実 務	2	

『食品科学技術認定証』取得に関する履修科目

科 目 名	単 位 数	備 考
生 化 学	2	
生 化 学 実 験	1	
食 品 学 総 論	2	
食 品 学 総 論 実 験	1	
食 品 学 各 論	2	
食 品 学 各 論 実 験	1	
食 品 加 工 学	2	
食 品 加 工 学 実 習	1	
食 品 衛 生 学	2	
食 品 衛 生 学 実 験	1	
応 用 微 生 物 学	2	
応 用 微 生 物 学 実 験	1	学則第24条の卒業の要件の単位数に算入できない。
食 品 の 分 析	1	
課 題 研 究 (認 定 研 修 を 含 む)	1	

英文学科(カリキュラム、科目の自己評価)

英文学科は、開設以来、時代の趨勢とともに志望する学生数が増加してきた。しかし、わが国の経済情勢の変化と18歳人口の減少の影響により学生数が減少してきた。

英文学科のカリキュラムを平成3年度から現在まで振り返ると、国際化時代の進展に伴い社会のニーズや就職への配慮に向けたカリキュラムの改善の過程で、「国際感覚の養成」と「実用英語・実務教育」が必要となってきた。そのために、3コース制を導入し、資格関連科目を各コースに選択として付け加え資格取得を可能にした。以下は、その3コースである。

- 教育英語コース
- 国際英語コース
- 秘書英語コース

3コース共通のカリキュラムには、『聞く、話す、読む、書く』を含み英語がトータルに学べるように構成されている。特異な科目としては、「時事英語」、「異文化間コミュニケーション」、「洋画・演劇入門」がある。

また、英文学科の特色の1つに本学の英国ケンブリッジ校である Cambridge Academy of English(CAE)での海外研修があげられる。これは、視野を世界に広げ国際間の理解と友情を図るので、留学期間に応じた所定の単位が認定されている。

平成9年度には、学生のニーズに対応して3コースから5コース制に改編して学習内容の焦点化を図り、各コースのカリキュラムを作成した。以下は、上記の3コース以外の2コースである。

- 通訳英語コース
- ケンブリッジコース(平成11年度より『ケンブリッジ・インターナショナル』と改名)

ここに至るまでのカリキュラム編成基準は次の通りである。

- ①英文学科の学ぶべき英語の基礎基本を十分に含むこと。
- ②社会の要請や学生のニーズに応えられる科目を加えること。
- ③各コースの専門性を生かし、コースの特色を出すこと。
- ④就職に有利になるよう資格取得科目(教員免許状、図書館司書、上級秘書士、通訳士)を選択として考慮する。

平成12年度からは、改組により教育英語・国際英語・実務英語・通訳英語の4コースを統合し、発信型の英語を教えるとともに従来通り資格が取れるよう選択の幅を広げて『コミュニケーション・コース』とした。また、『ケンブリッジ・インターナショナル・コース』は、専門科目を外国人教員が専ら英語を使って授業を展開し、本学の特色の1つであるので、これを残して2コースとした。カリキュラム編成基準は次の通りである。

- ①発信型の十分な能力を身に付けるための科目を設定すること。
- ②選択により以前と同じような資格取得が可能で就職にも有利であること。
- ③実務的な英語やその周辺的な知識も含むこと。
- ④幼児対象の英語指導にも対応しうる科目を含めること。

1. 教育英語コース

国際社会を意識し、産業社会への就職を考慮に入れた英語学習のみならず、英語を通じて人間の豊かさ、深さを考究するのが、教育英語コースである。

本コースの目的は、英語・英米文学に関する科目を通して総合的な英語力の体得と教職科目を通じて指導能力を身に付けた中学校教諭への進出を目指した。しかし、教員採用試験が難しくなり、更に時代の要請からも、児童に英語を教える塾教師の養成が必要になり、これに対するカリキュラム改編がなされた。コースの特色の1つである教職科目は変わらないが、専門科目は修正されてきた。

本コースの専門科目の変遷を振り返ると、社会や学生のニーズにより、専門科目・共通専門科目間の若干の移動はあったが、専門科目は概ね10～11科目で、現在は、改組により、10科目となっている。

専門科目中、当初は「教育英語」であった科目を、「初等英語Ⅰ」「初等英語Ⅱ」と具体化し、更に、「児童英語Ⅰ」「児童英語Ⅱ」に移行した。その他、教室での言語活動が広く行われるように「クラス・ルーム・イングリッシュ」を設けた時期もある。

平成9年度の改組による5コース制導入時には、専門科目に「英米文化論」「英米文学特講」を加え、広く深い知識と教養を習得させた。また、同時に、就職面に有利な資格関連科目(図書館司書等)も選択で取得可能になった。

平成12年度からは、更なる改組により、『コミュニケーション・コース』として再編された。カリキュラムについては、従来の4コースにおいて取得可能であった資格を残したカリキュラムに改編され、「児童英語Ⅰ」「児童英語Ⅱ」を「キッズ・イングリッシュⅠ」「キッズ・イングリッシュⅡ」に改めた。これは、文部省の塾教育の容認化に入ったことによる対応であり、幼児や小学校低学年の児童に英語教育をする指導者の育成を念頭に置いたものである。

2. 国際英語コース

国際英語コースは、「国際的視野に立つ女性の育成」という本学の建学の精神に即した教育をすすめているコースである。従って、実用英語と国際情報に焦点を当て、社会で役立つ講義を開設しているのが特徴である。

ビジネスに役立つ知識が習得できる科目、通訳者や翻訳家を目指す学生のための科目を用意するなど、コースに応じた専門科目をそろえ、国際的な場面で活躍する女性の育成を図った。コミュニケーションを重視する本コースでは外国人教員を多数迎え、英語を日常的に話せる機会を設けている。

平成2年度から本学設立の精神により、話せる英語の習得は勿論のこと、次のようなその周辺の学科目を設定した。

専門科目

- 異文化間コミュニケーション
- 英文速読

コース専門科目

- 通訳ガイド入門
- 情報英語
- 翻訳法
- 国際問題
- 日本文化論
- 世界地理学概論

西洋史概論 英語ゼミ

これらの科目は、従来の科目名、例えば「講読Ⅰ」のような漠然としたものではなくて、講義の内容を彷彿させるような具体的な科目名であることがその特色と言えよう。

平成4年度には「総合英語Ⅰ・Ⅱ」を加え、英語の基礎学習をする講座を各学年の後期に実施して、学力の低い学生の救済をすることになった。また、「自己表現法」の導入は、人前での発表力をつけることを意図したものであった。

平成5年度には「洋画・演劇入門」を専門科目に加えて、学生のニーズに応えた。

平成8年度には「総合英語Ⅰ・Ⅱ」に対応する「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を加えることにより、更に高度な英語を学ばせることを意図した。また、従来の「自己表現法」は「Public Speaking」と科目名を変更して、外国人教員が担当することにした。「英語ゼミ」は「A:英語表現」「B:文学Ⅰ」「C:文学Ⅱ」と細分化して少人数のゼミ形式とし、学生の意欲を高めるように努めた。コース専門科目の領域では、ツアコンダクターを目指す学生のために下記科目を加えた。

旅行英語
観光事情
旅行実務
旅行基礎
旅行業法・約款

平成9年度には、通訳関係の就職を希望する学生のために新たに「通訳英語コース」が誕生したために、「国際英語コース」は旅行関係の分野に的を絞ることになって、スリム化した。また、秘書士の資格取得のために下記科目を追加した。「英会話Ⅳ」は「Career English」と科目名を変更し、内容の充実を図ることになった。

観光英語概論
ビジネス英語
人間関係論
ビジネスと法律
日本語表現
情報処理概論

3. 秘書英語コース

秘書英語コースでは、仕事を持つ女性の増加という社会背景に対応し、実社会に即応出来る有為な女性を育てることを目標としている。実務面で英語を使いこなす能力と情報処理のためにOA機器を操作する能力は、急速に国際化と多様化が進むビジネス現場において必須のものになりつつあり、カリキュラムもこの二点に重点を置いたものとした。

平成2年度に3コース制(教育英語・国際英語・秘書英語)を導入した。これは多様化する社会的ニーズに応えるためであり、秘書英語コースの場合、「秘書士」という資格取得のためのカリキュラム編成を、コースの特色とする。デスクワークを主体とした一般事務に関連する実務能力の養成がその主目的である。このため「コレスポネンス」「海外事情」といった科目のほかにも、「貿易業務論」のように旧来の英文学科にはなかった実務的色彩の濃い科目を、コース専門科目として設けた。更にこのほかにも資格関連の科目として、「簿記」「会計学」「金融経済論」などの科目を開講した。

平成2年度のコース制導入以降、秘書英語コースのカリキュラムは徐々にプラクティカルな要素を強

めてきたが、平成4年度には、従来英文学科の卒業単位として認定されていなかった職業教育科目の一部を、コース専門科目として開講することとした。従来の「金融経済論」改め「国際金融経済の基礎」がその例である。また、職業教育科目として、新たに「職場の人間関係」「就職直前講座」を開講することにより、プロになるための意識を学生に持たせるようにした。

平成6年度に、秘書英語コースでの取得可能な資格を、「秘書士」から「上級秘書士」へと変更し、資格の充実を図った。

平成8年度にはコース名を秘書英語コースから実務英語コースへと改称した。これに伴い、コース専門科目を一部改正した。実務的な英語力を培うことを一層重視し、以前にあった「実務英語」「自己表現法」「国際金融経済の基礎」に変えて、新たに「ビジネス英語Ⅰ」「ビジネス英語Ⅱ」を開講した。また、海外へ展開する企業の増加という社会動向を考慮し、従来の「海外事情」に加え新たに「東洋文化」も開講した。更に、ビジネス社会で即戦力となるOA機器の技術指導の一層の充実を図るため、「邦文ワープロ」を「情報処理」と科目名を改め、学科共通科目とした。

平成9年度に新たに2コースを加え、5コース制とした。これに伴い、実務英語コースのカリキュラムを大幅に改正した。従来のコース専門科目の一部は学科共通科目とし、また一部は廃止するなどして、コース専門科目としてはその特色を鮮明に反映する科目のみを残した。廃止科目は、「ジャーナリズム英語」「口語英文法」「自由英作文」である。「英会話Ⅳ」は「ビジネス会話」と改称し、「ビジネス英語Ⅰ」「ビジネスと法律」は学科共通科目とした。また、職業教育科目についても検討を加え、「人間関係論」「国語表現法」「情報処理概論」など、時代のニーズに合った科目については学科共通科目とし、卒業単位認定科目とすることにした。

4. 通訳コース

通訳英語コースでは通訳者になるために必要な知識を学び、実習を通して日英語の効果的表現とコミュニケーション能力を身につけるための訓練を行う。英語の表現力ばかりでなく、的確な日本語の力も必要であり、国際人であるための幅広い教養をも身に付くようなカリキュラムを編成した。

発信型の英語力が求められる時代の要請に応じて、本学でも平成9年度より発信型の科目を多く含むコースを設置することになった。

幸い本学には英語母語話者が5名(アメリカ人3名、イギリス人2名)専任として在職しており、また米国ホノルル大学の吉川宗男博士が年に一度来学し、特別集中講義をすることになった。このコースに在籍し、上記集中講義を受講した学生には米国ホノルル大学より通訳士の資格が与えられることとなった。

以下がコース専門科目の講義科目一覧である。

- 通訳ガイド
- 通訳法
- 通訳演習Ⅰ
- 通訳演習Ⅱ
- ボランティア通訳実習
- ホテルマネジメント入門

平成11年度は新コース設置後3年目にあたるが学生数は減少の一途をたどり、教員の努力にもかかわらず平成12年度からコースとしては廃止し通訳士の資格だけを残すのみとなった。

コースの特色づくりをしたり、様々な方策を講じたが、この新コース設置によっても学生数減少に

歯止めをかけるには至らなかったのである。

5-1. ケンブリッジコース

イギリス、ケンブリッジでの3ヶ月の海外実習を活かせるようにカリキュラムを編成してある。留学前に現地で研究テーマを選び、帰国後その成果を発表することを義務づけている。帰国後の学習は主に英語で議論する力等、語学力の向上に重点を置く。就職に有利になるように、国際人としてのマナーを身につける科目、検定試験のための学習も出来るような科目も設置している。

平成9年度より、本学のイギリス・ケンブリッジ校(Cambridge Academy of English)のカリキュラムを活かし、英語の実践力だけではなく、英国文化をも学べるコースを作ることになり、名称をその地名をとり、ケンブリッジコースとした。

一番大きな特徴は、1年次3月から2年次6月まで、現地ケンブリッジでの3ヶ月間の実習とホームステイによる生活体験が得られることにある。その前後の教科内容も本学のイギリス人教員が中心になり、英国の社会、文化、思考法などを学べるように配慮してある。学生は各自研究テーマを選び、留学中にまとめ帰国後報告することが課せられる。

以下がコース専門科目の講義科目一覧である。

Cambridge Studies I
Cambridge Studies II
イギリス文化I(歴史)
イギリス文化 II(社会)
観光英語
Career English II
ブリティッシュ・マナー
ホスピタリティー論

上記の科目以外に次の4科目を取ることで上級秘書士の資格も取得できる。

秘書学概論
秘書実務
事務管理
簿記会計学入門

平成10年度には、本コースに図書館司書の資格も取れるようになった。このコースは平成11年度には、下記のケンブリッジ・インターナショナル・コースに改名される。

5-2. ケンブリッジ・インターナショナルコース

本学の外国人教員5名が英文学科の専門科目すべてを、日本語を使わず語彙を制限して英語で授業をする。1年次の3月から2年次の6月までの3ヶ月間はイギリスのケンブリッジ校に留学し現地でホームステイをしながらイギリスの生活を体験する。帰国後も留学体験を活かし語学力を伸ばし、国際的に通用する人材を養成する。

平成11年度から、上記ケンブリッジコースのカリキュラムはそのままに、英文学科専門科目を含むすべての教科の担当者を5人の専任英米人教員として、英語を通して、英国文化、社会を学べるコースとなった。この日本語を使わない英語コースは、開講直後から、教員と一部の学生との意思疎通がうまくいかないため、コース内では不満の声がなきにしもあらずであったが、英語を使う英語教育の実験的なコースとして今後、担当者の教授方法など課題は多い。平成12年度もこのコースは存続の

予定である。

児童教育学科

この学科は初等教育専攻と幼児教育専攻の2専攻から構成されている。初等教育専攻は小学校教諭および幼稚園教諭の養成を主たる目標とし、幼児教育専攻は幼稚園教諭および保育士の養成を主たる目標としている。ともに次代を担う児童、幼児の心身の健やかな成長を願い、その子供達の可能性を拓くべく尽力する教育者養成を目標とする。したがって、この2専攻で学ぶ者は、将来教育者・保育者として立つ場合を想定しなければならないが、その時は確固たる使命感と理性に裏打ちされた教育愛を持たねばならない。更に専門性、倫理性、公共性をしっかり把握して教育に当たらなければならない。この為この学科においてはそれらの理念を基調として授業を展開し、学生の日常生活においてもその教育指導を施している。

さてこの学科では、特別の場合を除き教職課程科目を履修させている。この為、多くの適切な科目を設定して、万全を期している。なお、教職課程科目履修生に教育・保育実習を行わせることになっている。実習現場は初等教育専攻の場合、小学校、幼稚園、幼児教育専攻の場合、幼稚園、保育所(園)、社会福祉施設などである。また、初等教育専攻は教職免許取得に対し義務付けられている介護等体験として特殊教育学校、社会福祉施設に行くことになっている。教育・保育実習については、実習前に、授業以外の別の時間に、実習中の服装、態度、心構え等のみならず、最近多発するいじめ、登校拒否、学級崩壊等への対応についても、細部にわたって徹底的に指導している。

ところで最近の少子化傾向に伴って、小学校教員採用数も少なくなり、正規の小学校教員になれない場合も多くなってきた。これに応じて初等教育専攻体育コースではレクリエーション・インストラクターの資格、教育情報コースでは情報処理士の資格等が得られるよう講座を設け、学校関係以外の分野でも活躍できるよう配慮している。また初等教育専攻では、どのコースの学生にもビジネス実務士の資格が得られるようにし、一般企業にも就職できるよう科目設定をしている。とにかくこの学科に学ぶ者は教員免許取得により、仮に正規の教員になれなくとも臨時採用教員になるチャンスを持ち得るし、何よりも教育的観点から自身の子を適切に育成することができる。さらに障害者や高齢者の介護の知識も十分備えているため社会に貢献することもできるといえよう。一方、幼児教育専攻では図書館司書の資格が得られるよう講座を設け、保育者としての資質を生かしつつ保育機関以外の分野でも活躍できるよう配慮している。

なお初等教育専攻の専任教員は16名、非常勤の教員は23名、幼児教育専攻の教員は7名、非常勤の教員は27名、両専攻にまたがる一般教養科目の教員は7名である。他学科から、又は他学科への兼任教員はここでは数えていない。学生数は現在1、2年合わせて初等教育専攻は241名、幼児教育専攻は274名である。

ところでこの専攻の問題点として考えられるものは次のとおりである。

- ①少子化時代による教員採用数が減ってきた現在、児童教育学科の存続について抜本的に考察しなければならないのではないかと。
- ②この学科を存続させるとしても、時代のニーズに応える、または一般企業に就職できるようなカリキュラム編成を考察せねばならぬのではないかと。
- ③初等教育専攻のコース制は必要か。
- ④同専攻の教育情報コースを独立専攻とすべきではないか。
- ⑤初等教育専攻学生に保育士の資格を与えることはできないか。

⑥児童教育学科の名称を変更し老人介護の仕事为目标とする介護福祉士育成の学科は考えられないか。

I.初等教育専攻の教育課程について

1. 組織編成と卒業生の進路

(1)初期の特色

本専攻で履修される教科は、教員免許取得の基準によるものが中心である。設置当初の本専攻では、取得免許と卒業後の進路が直結していた。前身である初等教育科は、昭和41年50名の定員で出発した。定員を昭和42年度より80名、43年度より130名とした。48年には、初等教育専攻(定員100名)と幼児教育専攻(同50名)に分離した。57年より定員を150名へと拡大した。当初より、昭和50年代の半ばに至るまで、卒業生の多数を教育界に送り出した。とくに、40年代には、小中学校へ就職した卒業生も多く、岐阜県を中心とするこの地域の義務教育学校教員の養成に大きく貢献してきた。

昭和43年度より、音楽、国語、美術の3コース制を敷き、免許基準を越えた学修を目指した。44年には体育コースを加えて、4コースとした。多数のピアノ練習用個室を設けるなどの点に力を入れ、「音楽と体育に強い教員」の育成を目指した。43年7月には、司書教諭資格が取得できるようになった。現在でも、司書教諭資格に関心を持っている学生は多く、3分の1程度が履修している。

昭和48年の初・幼分離によって、免許・資格科目が専攻ごとに設定され、学生個人の過重負担はなくなった一方で、とくに4大と競合する小学校教員としての採用にターゲットが絞られた本専攻では、その後には厳しい展開を強いられることになった。

(2)コース編成の再編

小学校教員としての就職は、昭和50年代後半には、激減した。初等教育専攻は、小学校教員養成の役割をほぼ全うした。このこともあって、昭和63年には、国際教養、心理学、教育情報の3コースを増設し、新しい時代のニーズを汲んで多様な科目選択を可能にする7コース制とした。7コースの内、造形美術・国際教養の2コースは、平成8年度をもって廃止され、現在5コースになっている。コースとして、明確な指向を持った科目群が用意されていることは、学生の履修上も明快で、個々の学習要求にもより細かに対応できるしくみであった。

進路では、平成初頭までの経済の好景気の影響もあって、一般企業に就職する学生が増大した。コースの特性を活かした就職もあった。一方で、幼稚園教諭志望の学生も多かった。しかし、一般企業に比べると、給与も安く保母資格も合わせて取得することを要求するなど採用の条件は厳しく、必ずしも幼稚園教諭としての就職が大多数になったわけではない。それでも、最近に至るまで、バブル経済の崩壊も受けながら、毎年、初教学生の2～3割が幼稚園教諭となったことは、特筆すべきである。「幼稚園実習」(1年次1週間)は選択科目であるにもかかわらず、例年3分の1を超える学生が履修する。

2. 平成期のカリキュラム改革

(1)社会の要求に見合う科目の設置

昭和 63 年の新コース設置に伴うカリキュラム改革では、「国際」「心理」「情報」といった同時代のキーワードを冠した科目が多数設定された。また、一部コースに、レクリエーション・インストラクターや秘書士といった取得資格が設定された。

平成2年のカリキュラムでは、一般教養科目における「自然と人間」の設置、あるいは専門自由科目における「人間関係論」を全コースで履修させる、といった総合的科目の重視や、専門科目における自由科目の設定に見られるように、教科目の現代化と多様化が企図された。また、教育職員免許法の改正に伴い、教職科目が再編された。「教材研究」を「教科教育法」としたり、幼稚園教諭免許科目の「保育内容の研究」における領域の変更が行なわれた。

平成3年の大学設置基準の大綱化を受けて、平成4年度からは、一般教育科目を教養科目とした。また、教養科目では、人文・社会・自然の3領域の枠組みもなくなったため、とくに初等教育専攻の場合は、教科専門科目との整合性を確保することがその後の課題となっている。

(2)教科目の整理と特色づくり

平成5年頃からの全学のカリキュラム改革の方針は、教科目数の削減と特色づけにあった。科目の整理をしながら魅力を出す、という困難な課題が要求されることになった。初等教育専攻では、その一環として、専門科目のうち、教科科目に相当する部分は、「数学」を「統計学」に、「社会科学」を「国際関係論」にするなど、各コースからの科目を持ち出しながら、スリム化と現代化を図った。

新たな魅力づくりでは、例えば、平成9年より、心理学コースで「手話」関連科目を設定し、福祉への関心の高まりに対応した。初等教育専攻では、福祉に関心がある学生も多く、実際に福祉施設に就職する学生も毎年いる。平成 11 年より、既存の科目（「統計学」「国際関係論」「教育情報処理Ⅰ」「言語表現法」「人間関係論」「社会心理学」「情報処理Ⅰ」）の設定を活かして、ビジネス実務士資格を導入、初等教育専攻全体で取得できるものとした。

(3)教員免許制度にかかわる科目再編

平成10年からは、小・中学校教諭免許取得学生に対して、介護等体験が義務づけられた。このため、初等教育専攻では、1年次において、社会福祉施設5日間、特殊教育諸学校2日間の計7日間、学生を現場体験に派遣することになった。これは、いずれ正式に単位化する予定である。教育実習と並ぶ重大な学外における学習活動が加えられたことの教育的意義は大きい。もともと、その一方で、通常授業において学生が交代で随時公欠することによる影響も少なくはない。

平成12年より、教育職員免許法の改正に伴う新カリキュラムが実施される。教職カリキュラムの再編により、「教育本質論」「教育社会学」が削除され、「教職論」「教育原理」のほか、「総合演習」「教育相談」「幼児理解」が新設される。また、免許法改正対応のため、これに先立って、11年度より「教育情報処理Ⅰ」を必修科目とするなどの対策をとっている。

3. 小括と展望

これらに見られるように、平成以降の初等教育専攻のカリキュラム改革は、主に2つの要因によって行

われてきた。ひとつは、大学や教員養成の改革のための法改正への対応である。もう一つは、受験生や学生の要求に見合うカリキュラムを策定することである。

平成10—11年度の再課程認定申請事務において、教養科目と教科専門科目の垣根も取り払われたため、この部分の科目も今後整理できる。元来、初等教育専攻では、多方面の教科の素養を必要とする。教養・専門の統合はここへ来てさらに進むことになった。

教員養成の機能は弱くなっているが、他専攻に比べても、比較的志願者を集めることができてきたのは、小学校・幼稚園教諭免許の取得という明確な目標と、その一方で興味のあるコース科目を履修できるというシステムが一定の支持を受けていたからと言える。上位免許の取得を目指すことなどを目的とした進学という点でも、本専攻の学生の意欲は高かった。

一般に大学は、ここ10年ほどにわたって急展開した大学改革の政策と、就職事情の変化に影響を受けてきた。とくに教員養成に関しては、このところの採用数の激減の影響が大きい。小学校教員養成という機能は後退したものの、初等教育専攻は、大変過酷な状況にあったにもかかわらず、比較的まだ善戦してきた方だといえる。学生の就職状況を見ると、大変厳しいなりに、幼稚園、一般企業、進学、福祉関係など苦勞しながらも進路を決定している。子どもの教育のための地域の協力が重要視される今日、学校のおよき理解者・協力者を育てるためにも初等教育専攻の教育内容は、理念的にはむしろ発展的に捉えられる必要すらある。

II. 幼児教育専攻のカリキュラム

21世紀を目前にして、「専門性をふまえた教養ある女性」を育成するのが、短期大学の使命の一つといえよう。とくに幼児教育専攻では、目的的人間像として、「自己教育の可能性を拓く保育者」ということを掲げている。この目的を満たす教育の内容・方法・評価については、幼児教育専攻会議において十分審議を繰り返し、カリキュラムを決定している。

従来、保育者の役割は幼稚園や保育所に在籍する乳幼児を養護し保育することであった。ところが1990年代後半よりエンゼルプランの策定や幼稚園教育に関する法律の改正に伴い、地域や子育て中のすべての親とその子どもに奉仕できることが、保育者の役割とされるようになってきた。したがって保育者の養成についても、保育技術優先の養成から、地域や親をも支援できる能力を持ち合わせた保育者の養成へと改革することが必要となってきたのである。

1998年度より、この新しい時代の要求に応えうる保育者養成カリキュラムをめざし開講の時期、方法、内容について改善を試みてきた。

幼稚園教諭と保育士の養成のための基礎的知識と教養の修得、保育者としての資質の向上をめざした専門的知識と技能を育成する教科目を用意している。また、講義、演習、実習の形式で2年間充実感をもって学習できるように組織している。

① 自己教育の可能性を開くカリキュラムで養いたい資質(「 」)は本学実施科目名)

基礎的科目:社会性

生命観 -----「自然と人間」「小児保健」「小児栄養」

権利・モラル ——「日本国憲法」「経済学」「家庭管理」

教養人 —————「情報基礎」「外国語コミュニケーション」「体育」

専門科目:専門性

責任感 —————「実習概説」「幼稚園実習」「保育所実習」「施設実習」

教育力 —————「保育原理」「教育原理」「保育課程論」「教育の方法と技術」

共感 —————「発達心理学」「教育心理学」「臨床心理学」

自己表現 ————「保育総合演習」「保育内容の指導法」「保育内容総論」

福祉 —————「児童福祉」「社会福祉Ⅰ、Ⅱ」「養護原理」など

技能科目:個性

自信 —————「幼児音楽」「幼児美術」「幼児体育」「国語」

② 特色ある教科目の紹介(1998年度より開講)

保育総合演習 必修2単位(演習):幼児教育専攻専任教員7名と他専攻専任教員3名の担当で同時開講している。学生の希望に基づいてテーマを選択させ、各講座少人数制で開講する。現代的な課題に関するディスカッションやフィールドワークを重視した内容とする。将来の就職先である幼稚園や保育所での体験も数多く取り入れて、教員も学生も共に保育現場の保育者とのコミュニケーションをはかっている。

管理運営と教職員組織

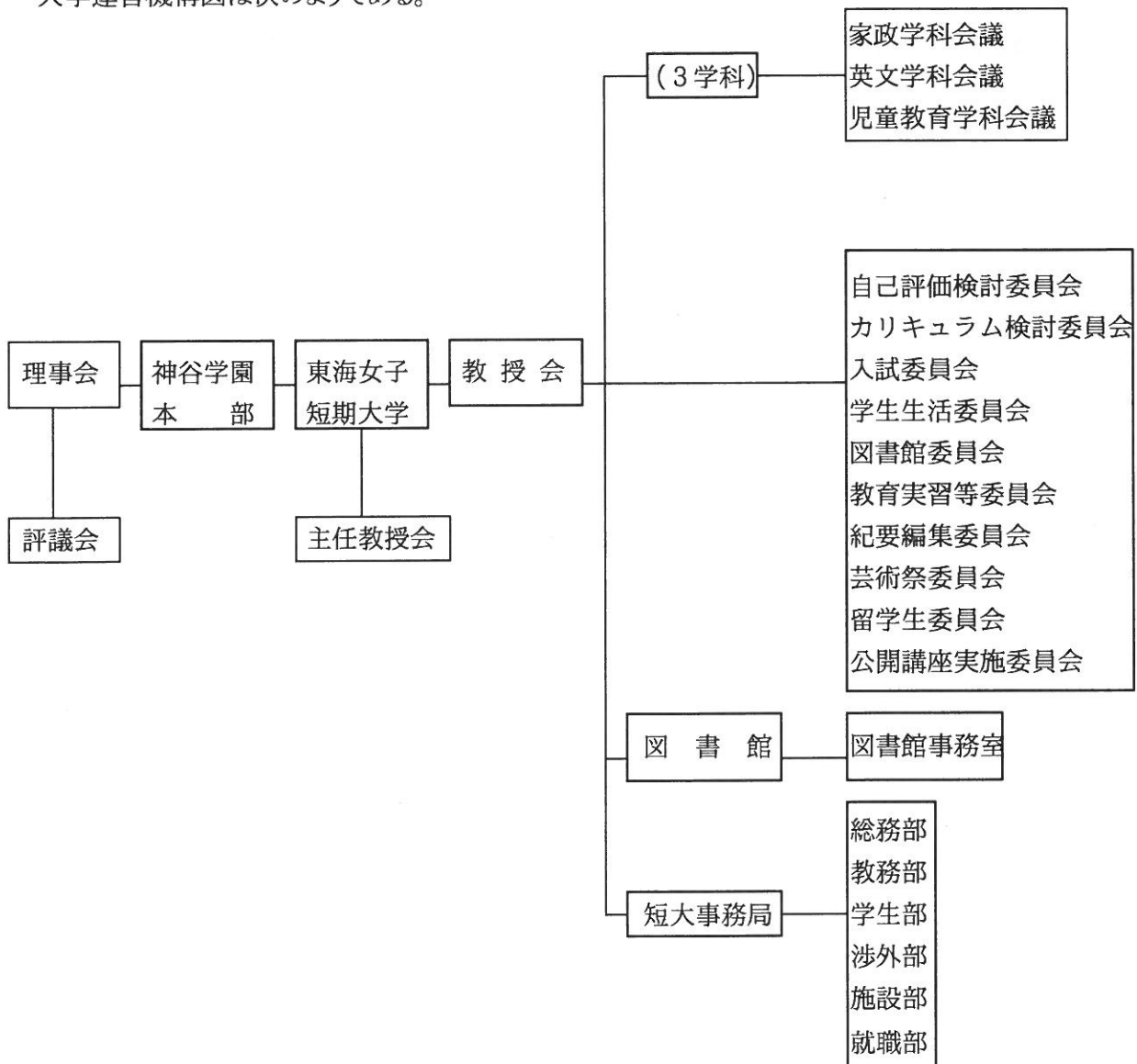
1. はじめに

短期大学では、大学改革の中心的な取り組みとして、自己点検・評価活動を積極的に展開し、その姿勢は高等教育機関としての高い見識に立ち、誠実な自律・自浄の精神に基づいて行なわなければならない。本学では平成5年度より自己評価等検討委員会を組織し、特に各種委員会の中心である教務委員会と相俟って教育の質的向上を狙って進めてきた。

本学の管理・運営に係る問題は、法人組織と学内組織側の両面で捕らえられる。法人としては理事会或いは幹事会であるが、ここでの大きな課題は諸規程の見直しであろう。このことに関しては平成9年度に教職員の停年に関する規程の改訂、平成10年度に教職員の任期制の取り入れ、更に就業規則、服務規定、勤務に関する細則等の改訂、そして平成11年度になって旅費規程の見直しもなされた。

一方学内組織としては、主任教授会、教授会、各種委員会、事務組織があり、それぞれについての自己点検、自己評価を明確にしなければならない。さらに教職員組織についても現状の分析と共に将来に向けての指針を見つけねばならない。

大学運営機構図は次のようである。



2. 学内諸規程の整備

法人関係の諸規程見直しは、はじめに述べたが特に教職員の勤務のあり方が明確になった。
その要点を挙げると

東海女子短期大学 教員の勤務に関する細則（抜粋）

（目 的）

第1条 この細則は、東海女子短期大学教職員就業規則のうち、専任教員の勤務時間について定めることを目的とする。

2. 専任教員とは、教授、助教授、講師、助手（以下、「教員」という）をいう。

（学内勤務時間及び学外勤務時間）

第3条 前条の定めにかかわらず、教員は毎週4日以上学内勤務するものとする。ただし、助手は週5日以上とする。なお、週1日を限度として、学外勤務（研究・他大学等出講を含む）をすることができる。ただし、大学、研究所及びこれに準ずる公共施設等で研修・研究、1日を超える他大学等出講を必要とする者は、所定の様式により申請し、学長の許可を得て学園長の承認を得なければならない。

2. 前項定めその他に、下記事項に該当する場合は、学長の許可、命令等による承認を得た者については、臨時的に認められた日数の範囲内において、学内勤務を免ずることができる。（下記省略）

3. 第1項、第2項の学外勤務については、事前に学科長が学長を経て学園長に申請書を届出なければならない。

（授業時間及び関連時間）

第5条 学内勤務時間は、月曜日～金曜日は9:20～16:20とし、土曜日については9:20～12:30とし、授業時間と関連時間に分ける。

2. 授業時間は次のとおりとする。

- ①. 授業担当時間は、原則として週6コマとする。ただし、東海女子大学を兼務する場合はその数を含める。
- ②. 学科長及び事務局部長を兼務する教員の授業時間は、学長の承認を得て減じることができる。

（学内勤務表）

第6条 教員は、每期授業開始1週間前までに所定の様式により、学内勤務表を作成し、学科長を経て学長の許可を得、総務部に提出しなければならない。

（自宅研修日）

第7条 教員は、学則に定める夏季、冬季、春季の休業日を自宅研修日とすることができる。ただし、法人及び大学が業務上必要とする日は除く。

2. 教員は、事前に第1項に定める研修計画を提出し、自宅研修期間終了後、学科長を通じて学長に所定の様式により報告しなければならない。

なお、これらに伴う所定の申請書を示すと次頁のようである。

学 長	事務局長	学 科 長

学 内 勤 務 表

平成 年 月 日

東海女子短期大学長 殿

職 名

氏名

印

東海女子短期大学「教員の勤務に関する細則第3条並びに第5条」に基づき、下記のように学内勤務をしたいと思いますので、許可下さいますよう申請します。

例示

	第1限	第2限	昼休	第3限	第4限	
火		<u>岐阜大学</u>			<u>岐阜経済大学</u>	
木	<u>幼1.心理学</u>			<u>建2.建築史</u>		

注1) 学内勤務をする日は で示し、授業のある場合は の上に専攻・コー・学科を記入する。

2) 学外勤務は で示し、その上に勤務先を記入する。

記

氏 名

年度 期

	第1限	第2限	昼休	第3限	第4限	
月						
火						
水						
木						
金						
土						

学園長	理事長	法人本部 事務局長	学 長	事務局長	学科長

他 大 学 等 出 講 承 認 申 請 書

平成 年 月 日

学校法人 神谷学園
神谷学園長 殿

職 名
氏 名 印

下記のとおり週 1 日を超えて、他大学等の非常勤講師に従事したいので、東海女子短期大学「教員の勤務に関する細則第 3 条 1 項」に基づき、ご承認下さいますよう申請します。

記

年度 期

	職 名	出 講 先	時間又は時限	備 考
月				
火				
水				
木				
金				
土				

該当曜日に記入する。

職名は非常勤講師等を記入する。

学園長	理事長	法人本部 事務局長	学 長	事務局長	学科長

学 外 勤 務 承 認 申 請 書

平成 年 月 日

学校法人神谷学園
神谷学園長 殿

職 名
氏 名 印

下記により勤務場所を離れて勤務・研修に従事したいので東海女子短期大学教員の勤務に関する細則第3条1項・2項に基づきご承認下さいますよう申請します。

記

勤 務 研 修 目 的	
勤 務 研 修 期 間	自 平成 年 月 日 日間 至 平成 年 月 日 期
勤 務 研 修 場 所	
備 考	

勤務・研修どちらかを抹消する。

学 長	事務局長	学 科 長

平成 11 夏季休業例

下記のように東海女子短期大学教員の勤務に関する細則第7条による自宅研修を実施したいと思っておりますので承認頂きたく申請します。 平成 年 月 日 職名 氏名 印						下記のように東海女子短期大学教員の勤務に関する細則第7条による自宅研修を実施いたしましたので報告します。 平成 年 月 日 職名 氏名 印							
研 修 実 施 計 画 書						研 修 実 施 報 告 書							
月	日	曜	行 事	勤務日	研修内容	研修場所	月	日	曜	行 事	勤務日	研修内容	研修場所
7	22	木					7	22	木				
	23	金						23	金				
	24	土						24	土				
	25	日	キャンパス見学会					25	日	キャンパス見学会			
	26	月						26	月				
	27	火						27	火				
	28	水						28	水				
	29	木						29	木				
	30	金						30	金				
	31	土						31	土				
	8	1	日						8	1	日		
2		月					2	月					
3		火					3	火					
4		水					4	水					
5		木					5	木					
6		金					6	金					
7		土					7	土					
8		日					8	日					
9		月					9	月					
10		火					10	火					
11		水					11	水					
12		木					12	木					
13		金					13	金					
14		土					14	土					
15		日					15	日					
16		月					16	月					
17		火					17	火					
18		水					18	水					
19		木					19	木					
20		金					20	金					
21		土					21	土					
22	日					22	日						
23	月					23	月						
24	火					24	火						
25	水					25	水						
26	木					26	木						
27	金					27	金						
28	土					28	土						
29	日					29	日						
30	月					30	月						
31	火					31	火						

- ・ 年度始めに提出し、承認された学内勤務日(週4日)を○で示す。
- ・ ○印のうち、自宅研修とする日を●で表わす。
- ・ 自宅研修ですから研修場所は自宅が原則である。

3. 主任教授会

学園長・理事長・学長の諮問に応え、教育、研究における調整並びに教学に関する重要事項を審議するものであり、審議事項の主なるものは、教授会の運営、教職員の人事、学生の賞罰、各種委員会からの提案の連絡調整に関すること等である。

構成メンバーは、学園長・理事長・学長・副学長・学科長・専攻主任・図書館長・事務局長・事務局各部長の21名である。

本学の主任教授会は、年一回2月の初旬に開催し、主として教職員の人事に係る事項と卒業式に表彰する被表彰者の選出について審議する。人事に関する事項では昇任昇格がもっとも重要な問題である。

東海女子短期大学の基準に基づき過去4年間の昇任・昇格数は下表のとおりである。

	教授←助教授	助教授←講師	講師←助手	助手←副手	部課長	係長・主任
平成8年度	3	4			4	2
平成9年度	2	2				1
平成10年度	2	1	2			
平成11年度	2	3		1		2

4. 教授会

教授会は学内組織のなかで最も権威ある組織であり、教授会の議事は出席者の過半数をもって可否を決定することができる。

本学の教授会は学長が招集し、その議長を務める。構成員は学園長・理事長・学長・副学長・教授・助教授・講師をもって組織されるが、さらに各事項の諮問に答えるため、事務局長・各部長・次長・課長・ならびに図書館長・図書館事務長が出席する。

教授会で審議する主な事項は、教学に関するもので学則その他規程、内規等の改廃事項、学生の補導、厚生に関する事項等である。

本学の教授会は年8回次の月に開催する。

4月、5月、6月、9月、10月、12月、1月、3月

又教授会の下には、大学運営機構図で示したとおり10委員会があり、各委員会での審議事項が全て報告されることとなっている。

5. 各種委員会の機構と機能

名 称	審 議 事 項	構 成 員 数	開 催 回 数
自己評価検討委員会	自己点検・評価項目の設定及び具体的実施方法と体制の整備、改善策、将来構想等の作成その他本学に関する重要な事項	21名	4～5回
教務委員会	学則及び諸規則、学科、課程、教育課程、学生の学業成績、学生の学籍異動に関する事項(ただし教育実習事項は除く)	14	4～5
入試委員会	学生募集、入試に係る計画・処理・重要事項、合否判定資料作成に関する事項	16	6～7

学生生活委員会	学生の課外活動・研修・集会・行事、学生の奨学・援助、健康管理、学生寮に関する事項	20	4～5
図書館委員会	図書館運営に関する重要事項、研究用図書の新入、利用に関する事項	12	4～5
教育実習等委員会	教育実習等の専門的な研究、実習所の選定と連絡協議、実習等の計画と指導、その他実習に関する重要事項	16	1～2
紀要編集委員会	紀要の発行に関する計画の立案、紀要の編集に関する調整。その他紀要の発行に関する重要事項	8	4～5
芸術祭委員会	東海芸術祭の企画・立案、準備・運営、美術デザイン展の推進協力、その他芸術祭に関する事項	17	4
留学生委員会	海外語学研修の派遣に関する事項 外国人留学生の受入れに関する事項 その他派遣・留学に関する事項	16	2～3
公開講座実施委員会	公開講座の企画・実施、公開講座に係る調査・広報、実施に当たり諸機関との連絡・調整に関する事項。その他必要な事項	13	5～6

6. 教職員組織

1) 教職員数

教員組織の構成

平成11年度における本学の学科別教員数は次のとおりである。

	教授	助教授	講師	助手	合計
家政学科	17	6	3	3	29
英文学科	4	3	5		12
児童教育学科	15	6			21
一般教育	11	1			12
合計	47	16	8	3	74

本学では各学科とも短期大学設置基準に定める教員数を上回る教員配置となってきたので、定年退職、依願退職の後任補充を抑えると共に新規採用を控えている関係で高職位が増加してきたことはいなめない事実であり、今後の課題として残る。

平成8年度以降の教職員の退職者(東海女子大への配転を含む)並びに新採用数を挙げると次のとおりで、4年間で16人の減員、比率で14.2%減となっている。

年度	退職者		新採用		増減	合計		非常勤講師
	教員	職員	教員	職員		教員	職員	
平成8年度	2	2	1	2	-1	82	31	113
平成9年度	3	3	2	2	-2	82	29	111
平成10年度	4	4	1		-7	79	25	104
平成11年度	5	3	1	1	-6	74	24	98

2) 教職員の年齢構成

教員については概ねピラミッド型で妥当と思われるが、私立大学の特徴として65才以上がやや多い。但し、これらの教員に関しては平成9年度定年制が発効し、75才から70才に段階的に下げているところであり平成13年度で70才以下の構成となる。

平成11年度各学科・事務職員の年齢構成図は次のとおりである。

教職員年齢構成表

平成11年12月

所属 年齢	一般教育	家政学科	英文学科	児童教育学科	事務職員
23					1
24					1
25					
26					
27					
28					1
29		1			1
30					1
31					
32		1			1
33				1	1
34		2		1	1
35				1	1
36					1
37		1	1		2
38		1	1		
39					
40				1	1
41	1		1	1	
42	1	2			
43	1		1		
44		2		1	
45					1
46	2				
47			1	1	
48	1			4	
49		1		1	
50		3		1	
51	1	3	1	1	
52		1	1	2	
53			1		1
54					
55			1		
56	1	2		1	1
57					
58					
59		1			
60					1
61					
62		2			2
63					
64				1	1
65		1	1	2	
66					1
67					1
68	1	1			
69		1			1
70	1	1	2	1	
71		1			
72				1	
73		1			

7. 管理運営に係る課題

1) 諸規程の整備と見直し。

組織運営規程、学校管理運営規程、就業に関する規程の見直し。

2) 就業規則、服務規程、勤務に関する細則等の周知徹底。

3) 主任教授会のあり方。

4) 各種委員会の機能の見直し。

5) 教職員の適正配置と人事の問題

学生の受け入れ

本学の建学の精神に則した「学生の受け入れ」に至るまでのプロセスは、「学校案内」・「学生募集要項」等に基づく学生募集、広報活動、入学者選抜を経て完了する。

I. 学生募集・入学者選抜の方針・方法及び現状

本学は一貫して建学の精神「国際的視野に立った女性の育成」を基本に教育を発展させてきたが、入学選抜者についても同様な観点を基に行ってきた。

平成 12 年度には、家政学科の名称変更を中心とする改組転換が行われた。それは、次の通りである。①生活学科は、家政学科から名称を変更、②衣生活専攻は、被服専攻から名称を変更、③住生活専攻は、生活デザイン専攻の募集停止に伴ない新たに設置する。④生活学科の臨時定員(120名)のうち恒常定員化可能な定員 60 名は東海女子大学の入学定員に振り替え、⑤残りの恒常定員化不可能な定員 60 名は4年間延長し平成 15 年を最後に消滅する予定である。

- ① 家政学科 → 生活学科
- ② 被服専攻 → 衣生活専攻
- ③ 生活デザイン専攻 → 住生活専攻
- ④ 恒常定員化可能な 60 名 → 東海女子大学の入学定員
- ⑤ 恒常定員化不可能な 60 名 → 4年間延長

平成 12 年度入試については、下記の通りである。

募集学科・募集定員・取得資格

学 科	専 攻	コ ー ス	定 員	取 得 資 格	
生 活	衣 生 活	ファッションデ'ザイン	60	中学校教諭2種[家庭]／学校図書館司書教諭	
		衣 生 活 情 報			
	住 生 活	住 居 デ ザ イ ン	60	2級建築士受験資格(実務経験2年間以上必要) インテリア設計士受験資格 中学校教諭2種[家庭]／学校図書館司書教諭／図書館司書	
生 活 デ ザ イ ン					
	食 物 栄 養		128	中学校教諭2種[家庭]／学校図書館司書教諭 栄養士／医療秘書実務士／食品科学技術認定証	
英 文		コミュニケーション	100	中学校教諭2種[英語]／図書館司書／ビジネス実務士 通訳士(ホノルル総合大学より) 図書館司書／ビジネス実務士	
		ケンブリッジ・インターナショナル			
児 童 教 育	初 等 教 育	音 楽	150	小学校教諭2種 幼稚園教諭2種 学校図書館司書教諭 ビジネス実務士	レクリエーション・インストラクター 情報処理士
		国 語			
		体 育			
		心 理 学			
	教 育 情 報				
	幼 児 教 育		100	幼稚園教諭2種／保育士／図書館司書	

入試日程

入試区分	募集人員	試験日	出願期間(消印有効)	合格通知日	手続締切日	
指定校推薦	150名	11月7日(日)	10月25日(月)～11月2日(火)	11月12日(金)	11月22日(月)	
第1回推薦	178名	11月7日(日)	10月25日(月)～11月2日(火)	11月12日(金)	11月22日(月)	
スポーツ推薦	20名	11月28日(日)	11月15日(月)～11月24日(水)	12月3日(金)	12月13日(月)	
スポーツ奨学生	15名	11月28日(日)	11月15日(月)～11月24日(水)	12月3日(金)	12月13日(月)	
第2回推薦	50名	11月28日(日)	11月15日(月)～11月24日(水)	12月3日(金)	12月13日(月)	
一般試験 (Ⅰ期)	地方	135名	2月4日(金)	1月10日(月)～1月28日(金)	2月10日(木)	2月21日(月)
	本学		2月5日(土)			
ケンブリッジ 留学生	地方	135名	2月4日(金)	1月10日(月)～1月28日(金)	2月10日(木)	2月21日(月)
	本学		2月5日(土)			
一般試験(Ⅱ期)	30名	3月4日(土)	2月17日(木)～2月28日(月)	3月9日(木)	3月16日(木)	
社会人入試	20名	11月28日(日)	11月15日(月)～11月24日(水)	12月3日(金)	12月13日(月)	
		3月4日(土)	2月17日(木)～2月28日(月)	3月9日(木)	3月16日(木)	

平成11年度までの推薦入試についての人数の割当は、受入れ枠上限が5割にも拘わらず、歩留まりの読み違いにより上限を超えた年度もあったが、しかし、平成12年度入試から文部省指導の短大推薦入試受入れ枠が、事実上、撤廃されことに伴ない、受入れ枠の上限を7割に変更し、実態に即した推薦入試受入れ枠とした。

入学選抜にあたり、平成11年度入試までは次のような複数選抜方法入試を実施し、広範囲から多様な質の高い志願者を募ってきた。

- 1.一般入試
- 2.公募制推薦入試
- 3.指定校推薦入試
- 4.学内奨学生入試(スポーツ・学力・海外留学・音楽・美術)
- 5.特別入試(社会人・帰国子女・外国人留学生)

1.一般入試

一般入試は広範囲に優秀な学生を募集する方法として実施されている。長年の間、国語Ⅰ・Ⅱ(古文・漢文を除く)と選択科目(英語Ⅰ・Ⅱ、日本史B、生物ⅠB、数学Ⅰ)の2科目の学科入試を実施してきたが、平成10年度入試より試験科目数が削減され、英文学科については英語Ⅰ・Ⅱ、家政学科・児童教育学科については国語Ⅰ・Ⅱ(古文・漢文を除く)の1科目入試に変更された。

平成8年度からは、試験会場として、本学試験会場以外にも地方試験会場を設け、遠方の受験生に対するサービスの入試として導入された。また、3月上旬には「Ⅱ期試験」を導入し受験生により多くの受験機会を提供する方策も講じられた。

選考方法

◇学科試験

学 科	試 験 科 目	試験時間	配 点
家 政 学 科 児 童 教 育 学 科	国語I・II(古文・漢文を除く)	60分	100点
英 文 学 科	英語I・II	60分	100点

◇試験場

入 試 区 分		試 験 会 場
I 期試験	地 方	名古屋・浜松・彦根・津・松本・富山・高山
	本 学	本学
II 期 試 験		本学

2.公募制推薦入試

平成9年まで、専願制、併願制ともに面接・書類審査と小論文或いは学科試験(国語I・II(古文・漢文を除く))により入試選抜を行ってきたが、平成10年からは、専願制については、面接を重視し、小論文或いは学科試験を廃止した。また、平成8年には、ある意味のスポーツにおける一芸入試であるスポーツ推薦が導入され、主力スポーツ以外にも課外活動の活性化を目指し人材を求めた。競技種目に制限はないが、県大会以上の大会における入賞実績を出願条件としている。

- | | |
|-------------|-----|
| ①第1回推薦(A方式) | 専願制 |
| ②第1回推薦(B方式) | 併願可 |
| ③第2回推薦 | 併願可 |
| ④スポーツ推薦 | 専願制 |

選考方法

入 試 区 分	選 考 方 法
第1回推薦 A方式	◇面接(個人面接) ◇書類審査
第1回推薦 B方式	◇国語I[古文・漢文を除く](60分・100点)
	◇面接(個人面接) ◇書類審査
第2回推薦	◇国語I[古文・漢文を除く](60分・100点)
	◇面接(個人面接) ◇書類審査
ス ポ ー ツ 推 薦	◇面接(個人面接) ◇書類審査

3.指定校推薦

より優秀な学生を求めるために平成8年度入試から導入された新しい推薦入試制度で、本学と特定高校間に過去の入試実績を対象に推薦枠を設け、現在に至る。

選考方法 面接(個人面接)

4.学内奨学生入試(スポーツ・学力・海外留学・音楽・美術)

スポーツ・学力・海外留学・音楽・美術の分野で優秀な人材を募り、学業、課外活動等の維持と活性化を目指し、戦績・成績に準じた学納金の免除を施す優遇措置を講じてきた。特に、スポーツ関係については、競技種目に限定はあるものの、開学以来、強力なクラブ活動維持の原動力となり現在に至っている。学力・海外留学・音楽・美術については、初志の目的がある程度達成されたので、平成8年を最後に入試制度から姿を消したが、学力・音楽・美術関係は、後述する社会人入試として別の優遇入試制度に形を変えた。海外留学生については、ケンブリッジ留学生試験として名を変え存続し、英語に関心が高い優秀な人材を本学の海外施設である英国「Cambridge Academy of English」校に3ヶ月間留学させ、渡航費・授業料の全額免除の優遇措置を施している。

スポーツ奨学生

本学が奨励するスポーツにおいて抜群の戦績を修め、入学後の活躍が大いに期待できる者を募集する。特典としてランクに準じた学費等を免除する。

推薦基準 スポーツにおいて全国大会もしくはそれに準ずる大会に出場し、県協会長またはそれに準ずる団体長の推薦を得た者。

募集種目 原則として下記のスポーツ種目で募集する。

バドミントン・ホッケー・バレーボール・ソフトテニス・ソフトボール・卓球・バスケットボール・テニス・競技スキー

特典

奨学生ランク	学 費 の 免 除
A	授業料・教育充実費を2年間免除
B	授業料を2年間免除
C	授業料の半額を2年間免除

選考方法 ◇面接(個人面接) ◇書類審査

ケンブリッジ留学生試験【英文学科ケンブリッジ・インターナショナルコースで募集】

ケンブリッジ留学生試験は、本学の建学の精神である『国際的視野に立った女性の育成』を具体化し、推進することを目的とし、英国ケンブリッジ校(Cambridge Academy of English)での3ヶ月間の語学研修を実施する。

特典

1. 留学生として合格した者に対して、英国ケンブリッジ校(Cambridge Academy of English)での3ヶ月間の語学研修を実施し、所定の単位を認定する。
2. 往復の旅費およびイギリスでの現地授業料を免除する。

募集学科

募集学科
英文学科ケンブリッジコース

※ケンブリッジ分校での研修人員24名の半数ををケンブリッジ留学生試験で選考する。残り12名は、他の入学試験のケンブリッジ・インターナショナルコース入学者の中から、1年次前期の成績等により選抜する。

選考方法 ◇学科試験【英語I・II(試験時間60分・100点満点)】 ◇書類審査

5.特別入試(社会人・帰国子女・外国人留学生)

社会人入試については、地域社会への寄与の一環として平成6年に導入され、毎年5名前後が入学している。受入れにあたっては、社会人の持つ学問に対する真摯さと明確な問題意識、と同時に、一般学生や教職員に対する教育的刺激を考慮して広く門戸開放している。授業料等の学納金については、半額免除する優遇措置を施し入学の奨励をしている。

既に国際的視野をある程度備えている帰国子女、また、日本人と異質の視野を持つ外国人留学生を積極的に受入れる方針を進めてきた。現在までの受入れ人数は若干名であるが、本学の建学の精神に基づき、今後は受入れを拡大していく予定である。そのためには、外国人留学生に対する学納金等の優遇措置を含む受入れ条件の整備と日本語教育の充実が今後の課題である。また、出願の条件としては、「外国人日本語能力試験1級又は2級」の合格が必要条件になっている。

社会人 明確な目的意識をもち向学心旺盛な成人女性に対して、広く大学の門戸を開くことを目的とする。

①出願資格

1. 高等学校を卒業またはそれと同等以上の学力を有する女子。
2. 満23歳以上であること。

②選考方法 ◇小論文(800字・試験時間60分) ◇面接(個人面接) ◇書類審査

II. 入学試験に関する管理体制

入学試験が持つ社会的な重要性と影響力を考慮すると、入学試験は計画段階から実施、合格者選抜に至るまで厳正・確実な管理体制の下、公正に遂行されなくてはならない。そのための組織体制としては、学長を委員長とする入学試験を総括する「入試委員会」が存在し、更には、合否の審議を行う「入試判定会議」、最高決定機関である「教授会」の3段階構えとなっている。

合格者の決定に至るまでの流れ

入試委員会 → 合否判定会議 → 教授会

III. 広報活動の状況と展望

18才人口の減少に伴う「入学者減少」、「短大離れ・4年生大学志向」、という人口構造・社会情勢から発生する大学短大間の熾烈な生存競争の想定及び広報活動の重要性の再認識により、平成6年まで、学生部の管轄業務であった広報部門を専業化しより一層の効率化を求め、「渉外部」という

入試広報を専門とする部署を設立した。これにより、広報活動の機動力が強化され情報提供の迅速な処理、対応が可能になった。

広報活動の情報提供をする方法としては、本学の教育内容・施設設備を中心に紹介する「学校案内」、入学試験を中心に紹介する「学生募集要項」に基づく学生募集広報活動を①受験生(高校生、社会人等)、②保護者、③高校進路指導関係者を対象に展開しているが、地域社会に密着した短大を目指しているため、卒業生の出口である企業や関連教育機関にも様々な方法で情報提供活動を続けている。

具体的な方法としては以下の通りである。

- ①雑誌・新聞・インターネット等の媒体
- ②高校訪問
- ③入試説明会
- ④大学展・進学説明会
- ⑤キャンパス見学会
- ⑥大学見学・視察

①雑誌・新聞・インターネット等の媒体

開学以来、長年の広報の中心の1方法あった。特定の層が対象ではないが、本学に関する情報を公開し、情報提供をしてきた。ただし、地域的に限定された広報活動であったのは否めない。平成8年度からはインターネット上にホームページを設け、今まで以上に広範囲の地域にも広報が可能になり、より一層不特定を対象とする広報活動に変化してきた。

⑤キャンパス見学会

平成6年から「キャンパス見学会」を導入し、受験生・保護者を中心に大学を開放している。施設設備の開放は当然のことであるが、下記のプログラムを用意した。「キャンパス見学会」に参加する受験生の受験率・入学率は高く効果的であるが、年々、見学者が減少し、実施方法や内容について再検討をする必要がある。

- 学科紹介コーナー
- 模擬授業
- 学生生活コーナー
- 体験学習コーナー
- 資格紹介コーナー
- 入試相談コーナー
- 就職相談コーナー
- 課外生活コーナー
- 就職関連講座
- 図書館情報相談コーナー

公開講座

公開講座は、本学教員の教育研究の成果を広く社会に解放し、地域社会の教育・文化の向上に資することを目的とし、平成5年から開設、実施している。年1回、7月から10月の期間に5～7講座を公開講座実施委員会で企画し、受講料無料で運営にあっている。

各講座ごとにアンケート調査を行い、次公開講座に反映できるように取り組んできた。また、岐阜市の生涯学習長良川大学のリカレント課程・大学公開講座にも参加しているので、受講の記録を記す「まなびすと手帳」にシールを貼り、一定数の単位(10 単位証、20 0単位証～)に達すると岐阜市が定めた認定証を受けることもできる。

近年、実施した講座名、内容、参加数およびアンケート回収率は下記のとおりである。

平成11年度東海女子短期大学公開講座

テーマ 心の健康

No.	講師	講座名	内容	実施日・定員
1	助教授 神谷かつ江	心の中をのぞいてみませんか ～精神分析学の紹介～	フロイトの精神分析学をわかりやすく紹介しながら自分の心の中に潜む無意識を解明する	7月24日 無料 30名
2	教授 小野寺孝義	やる気を考える	社会心理学の視点から『やる気』について考える	7月31日 無料 30名
3	教授 多治見章子	手作りを見直そう ～和服から洋服ヘリフォーム～	筆筒に眠っている着物から、ワンピース、ブラウス等 にしてみませんか	8月6,7日 無料 20名
4	教授 岩館 憲幸 方	ストレスとの上手なつきあい	ストレス時代といわれる現代を心身とものできるだけ健康で幸せに過ごせるよう、ストレス対処の心がまえや技法について話したい	8月21日 無料 40名
5	教授 篠田 美里	心を癒す響	我々の先祖は、一滴の水の音も水琴窟という井戸を作り、響かせ楽しんできた。心の癒しとなる音楽、その中でも今回は音の響きについて考えてみたい	10月2日 無料 30名
6	教授 高木為一郎	ことばづかい・心づかい	人生出会い旅のなかで、私が出会ったコミュニケーションの達人とでもいえるような二人の先輩の話を中心に『ことばと心』の不思議な働きについて考えたい	10月9日 無料 30名

マルチメディア講座

No.	講師	講座名	内容	実施日・定員
7	教授 今井 昌彦 教授 高野 盛光	マルチメディア・コンテンツ制作基礎	3次元コンピュータグラフィック制作の基礎的な実習を通してマルチメディア・コンテンツ制作の基礎を習得する	8月3,4,5日 無料 20名

各講座の参加者数とアンケートの回収率(平成11年度)

講座番号	1	2	3	4	5	6	7	計
定員数	30	30	20	40	30	30	20	200
参加数	66	27	23	91	57	67	21	352
アンケート回収率(%)	89.4	100	65.2		98.2	100	81.0	

近年は不安定な社会情勢の続く世情、『心の健康』を統一テーマに掲げたところ、定員30～40名の講座に100名以上にのぼる方々のご応募をいただき、急遽増員して対処、その結果上の表に示すように定員の約200%にもなる参加者を得た。講座終了後も4～5名の方々が残って、個人的にアドバイスを受けておられるほどの熱心さ、また実技を伴う講座は毎年開講の要望も強く、評価も高かった。アンケートの感想、意見から内容的にも好評を博し、地域の方々のご支持を得ることができたと、受け止めている。

平成10年度 東海女子短期大学公開講座

テーマ 日本の美を楽しむ

No.	講師	講座名	内容	実施日・定員
1	教授 石原 太紀	ハーンの見た明治の中 学生像	明治 23 年ラフガディオ・ハーンは島根県松江 中学校に英語教員として赴任。日記の形式で残 されている当時の中学生の姿などを追ってみ る	7月 25 日 無料 40名
2	講師 木戸久仁子	『伊勢物語』を読む 三河国八橋	『からころもきつつなれにしつましあれば はるばるきぬるたびをしそおもう』という在原 業平の歌で著名な歌枕『八橋』について、現地 に伝わる伝説等、さまざまな角度から検討を加 える	8月 8 日 無料 40名
3	教授 多治見章子 講師 大矢 宏子	和服から洋服ヘリフォーム ～手作りを見直そう～	箆笥に眠っている着物から、ワンピース、ブラ ウス等に見まかせんか	8月 28、 29 日 無料 15名
4	教授 熊沢 辰巳	『日本の美』 一たゆたう箏の音と共に	日本の伝統音楽における音素材等の考察	10月 3 日 無料 50名

マルチメディア講座

No.	講師	講座名	内容	実施日・定員
5	教授 今井 昌彦 助教授 高野 盛光	マルチメディア・コンテンツ ～制作基礎～	3次元コンピュータグラフィック制作、あるいは デジタル・サウンド制作の基礎的な実習を通して マルチメディア・コンテンツ制作の基礎を習得す る	8月 4、 5、 6 日 無料 20名

各講座の参加者数とアンケートの回収率(平成10年)

講座番号	1	2	3	4	5	計
定員数	40	40	15	50	20	165
参加数	26	21	16	12	16	91
アンケート回収率(%)	69.2	80.9	100	91.7	68.8	

アンケートによる参加者の主となる意見は、次のようであった。

実技のものは次回も参加したい。実習ものは楽しく学べた、また回数を増やして欲しいという希望が多くあったので、当委員会はこれらをシリーズものとして続けることにした。託児所を設けて欲しいというご意見もあった。

また、一度受講した方は次年度の講座名・時期等の通知を依頼される方が多かったので、葉書で送付することにした。

今後、公開講座委員会としては、講座名・講座内容などの地域に対しての発信方法として、電話・FAX・葉書・チラシの配布のみに止まらずホームページ、E・メールによることも考えている。また、公開講座講師の選出法として、専任教員全員から講題を登録(5年前)、その中から5～7名/年を公開講座講師として実施してきた。その時代に適応した講題に新しくしたい、追加したいという声から来年度に向け講題の再登録を行うことにした。なお、これまでに専任教員の約40%が経験されました。先ず全員が一度ずつ経験されるように運びたいと考えている。

学生生活への配慮

I. 学生生活委員会と学生部との連携による学生指導

大学は、その理念・目的に即して、大学教育と大学を中心とした生活を通して学生が知的、人間的な成長を遂げてゆく上で必要な学生生活への配慮を行うことが重要である。そして、学生生活の充実を図ることは、これからの大学づくりに欠かすことのできない観点の一つである。学生生活を支援するサービス業務を向上させることは、大学の教育目的達成を円滑に進める上で有効であり、そのためには、学生に対する各種の配慮を組織的に行うことが大切となる。本学ではここ数年来より学生部等の役割を見直し、学生生活への配慮を組織的に行う機関として存在する学生生活委員会のあり方を検討してきた。委員会は、各学科、専攻、コースならびに学生部、教務部、就職部より選出された教職員によって構成、運営され、学生に対して適切な指導、援助を行っている。委員会として取り組んでいる主な業務は次のとおりである。

- ①学生会活動(執行部)
- ②学生会(大学祭)
- ③学生寮
- ④校内美化
- ⑤課外活動

それぞれの委員が5つの担当部会に分かれ、問題点等を検討している。各担当部会では関係の問題点をまとめ、委員会に提案し、委員会は担当部会から出された問題点等に対して審議し、学生生活の支援サービスの為よりよい解決策をねっている。

委員会で改善された点は以下の通りである。

①学生会活動(執行部)について

実際、学生会活動は、本来学生自身が自主的に進めることは当然であるが、本学に於いては委員会の担当部会委員による援助、指導を行っている。

学生会は年2回学生総会を開き、学生活動に関する取決めを行っている。

学生会の関与する年間行事は3月に計画を作成し、行事は次のようなものがある。

- 4月 学生会執行部役員選出、予算案作成、クラブ紹介、大学祭実行委員会組織作り
- 5月 大学祭予算案の承認、親睦会計画
- 7月 親睦会、大学祭事業計画
- 10月 大学祭
- 11月 大学祭決算報告、次年度学生会執行部役員立候補受付、謝恩会準備
- 3月 卒業式、謝恩会

親睦遠足は、さまざまな理由により平成4年を最後に取り止めになっていたが、学生たちの自主的な意識変化により平成11年に復活し大変好評であった。しかし、問題点もないわけではないため、平成11年の反省をふまえ次年度以降の実施については、日程等学生会と委員会で充分検討していかなければならない。

②学生会(大学祭)について

毎年、4月に大学祭実行委員会が組織される。クラスから選出された大学祭実行委員の役割を決め、10月半ばまで半年にわたって準備が進められている。しかし、活動の中心は実行委員であり、一般学生の関心や参加の度合いは決して高いとは言い難い。こうした状況の中、大学祭を盛り上げる為にも、委員会としても教職員がアドバイザーとして加わったり、指導にあたっている。また、各学科、専攻の教職員も一般学生が積極的に参加するよう指導を行っており、学科、専攻によっては教職員が学生と一緒に活動しているところもある。

③学生寮について

学生寮は、学則、寮則を基本に、管理運営責任者(学生部長、寮監、担当部会委員、学生部)が連携をとりながら諸々の事項に対応している。

学生寮の行事は、4月入寮式、5月学生寮防災訓練、7月防犯講習(実技含む)、12月予餞会である。

また、平成11年にはメンタル面に対するケアについて必要性などを検討した結果、教職員、寮監に対し、学生相談室長によるメンタルヘルスケアについての講習を実施した。その他、寮生の意見を聞く為の箱(目安箱)を学生寮内に設置し、要望、意見について担当部会で検討し、委員会としてできる範囲で改善している。

④校内美化について

本学学生の喫煙者は、全学生の約20%で、喫煙の理由については、友人の影響などさしたる理由もなく喫煙している場合が多い。本学においては定められた喫煙場所においてのみ喫煙を許可している。しかし、所定以外の場所で喫煙をし、吸い殻を捨ててあったり、非喫煙者からの喫煙者に対する苦情もしばしば寄せられている現状もある。喫煙については、校内美化のみならず、健康や母性への影響も考えれば、適切な指導が必要である。

また、本学は、土足禁止であり、靴は上靴に履き替え、下足箱に入れることとしている。

しかし、靴の盗難被害がしばしば学生部に届けられたため、委員会として検討した結果、下足箱に金具を取り付け、学生が鍵をかけられるようにすることで多少解消された。また、土足禁止にもかかわらず、土足のまま学内に入る学生も見られるなど問題点もあるため、今後も対策を検討する必要がある。

⑤課外活動について

クラブ顧問規程について現在継続審議中である。本学の現状把握と、大学、短大間の調整が課題となっている。今迄は、クラブ活動に係わる指導教職員のボランティア的支援によって指導がなされているがこれらの教職員に対する何らかの評価が今後必要であろう。

⑥学生アンケートについて

平成10年に「学生生活をより良くするため」という目的で、学生会が実施したアンケート調査の結果を参考資料として添付する。

学生会による「学生生活をより良くするためのアンケート調査」

実施報告書

－平成9年10月アンケート調査実施～平成10年7月最終集計分析実施－

以下に示すアンケート分析の結果は、かねてより学生から要望のあった「学生生活をより良くするため」という目的において、学生会が自ら企画し実施したアンケート調査の結果である。

調査の実施は、平成9年10月。アンケート用紙の回収・回答入力に多大な時間を要したため、実質の分析は翌年（平成10年）4月～7月に及んだ。なお、本分析は主に学生部担当者によるものである。

1. アンケート調査の対象・番号区分

表1. アンケート調査の対象・区分

専攻・コース	組	1年生		2年生	
		調査番号		調査番号	
ファッション／服飾	1	0001	～ 0016	0553	～ 0570
	2	0017	～ 0035	0571	～ 0588
	3			0589	～ 0608
福祉／厚生		0036	～ 0050	0609	～ 0637
インターネット		0051	～ 0059		
建築士		回答なし			
生活デザイン	1	0060	～ 0080	0638	～ 0669
	2	0081	～ 0099	0670	～ 0695
食物栄養	1	0100	～ 0128	0696	～ 0731
	2	0129	～ 0170	0732	～ 0766
	3	0171	～ 0200	0767	～ 0790
	4	回答なし		0791	～ 0819
教育英語		0201	～ 0210	0820	～ 0842
国際英語	1	0211	～ 0233	0843	～ 0865
	2			0866	～ 0888
実務英語	1	回答なし		回答なし	
	2			回答なし	
通訳英語		0234	～ 0249		
ケニアリッジ		0250	～ 0254		
音楽		0255	～ 0276	0889	～ 0922
国語		0277	～ 0294	0923	～ 0938
体育	1	0295	～ 0316	0939	～ 0964
	2	0317	～ 0343	0965	～ 0997
美術				0998	～ 1003
国際				回答なし	
心理	1	0344	～ 0369	1004	～ 1030
	2	0370	～ 0405	1031	～ 1057
教育情報	1	0406	～ 0419	1058	～ 1071
	2			1072	～ 1084
幼児教育	1	0420	～ 0448	1085	～ 1124
	2	0449	～ 0484	1125	～ 1154
	3	0485	～ 0520	1155	～ 1196
	4	0521	～ 0552	1190	～ 1227
TOTAL=1227/1602名		552/747名		675/855名	

2. アンケート調査の内容（調査フォーム；回答用空欄一部を除き省略）

2年間という短い学生生活をよりよくするために皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。ご協力をお願いします。以下の質問に該当する答えの番号を右の空欄に記入して下さい。

平成9年10月 東海女子短期大学 学生会一同

- 問1 学年
1. 1年生 2. 2年生
- 問2 学科・専攻
1. 被服専攻 2. 生活デザイン専攻 3. 食物栄養専攻
4. 英文学科 5. 初等教育専攻 6. 幼児教育専攻
- 問3 あなたの住まい
1. 自宅 2. 下宿・アパート 3. 寮 4. その他（ ）
- 問4 あなたの主な通学方法
1. 自家用車 2. オートバイ 3. 自転車 4. バス・電車
5. 徒歩 6. その他（ ）
- 問5 あなたは大学生活の目的をどう考えていますか（3つまで複数回答可）
1. 好きなだけ本が読める
2. 優秀な教師達に接する
3. 周囲の人から認められる
4. 学問研究を通じて真理を追究できる
5. 大学を卒業しないと得られない資格免許をとる
6. 親友を得る
7. 自由な時間をもつ
8. 豊かな教養を身につけ人格形成に役立てる
9. 専門知識や高度な技術を修得する
10. クラブやサークル活動などを充分にやる
11. 人生について考える余裕をもつ
12. その他（ ）
- 問6 あなたの専攻・コースについて質問します。
1. 実験・実習の科目数についてどう思いますか。（校外実習を除く）
①多い ②少ない ③普通 ④その他（ ）
2. カリキュラムについてどう思いますか。
①満足している ②不満 ③どちらでもない ④その他（ ）
3. あなたの能力・適性にあっていますか。
①あっている ②あっていない ③どちらでもない ④その他（ ）
4. あなたは今の専攻・コースを選んでよかったと思いますか。
①よかった ②よくなかった ③どちらでもない ④その他（ ）
- 問7 あなたの担任の先生についてどう思いますか。
1. 大変満足している 2. どちらかといえば満足している
3. どちらともいえない 4. 不満である 5. わからない
6. その他（ ）
- 問8 あなたは次のどれに所属していますか、またはいましたか。
1. 文科系クラブ 2. 体育会系クラブ 3. 同好会 4. 学外サークル
5. 何も入っていない 6. 学内クラブに所属していたがやめた
7. 学外サークルに所属していたがやめた 8. その他（ ）
- 問9 あなたは現在アルバイトをしていますか。
1. している 2. していない
- 問10 問9で1と答えた人に質問します。
アルバイトの目的はなんですか。（2つまで複数回答可）
1. 学費 2. 生活補助費 3. 書籍費・教養費
4. 余暇利用費 5. 旅行費 6. お酒落 7. クラブ活動費
8. その仕事に興味があった 9. 興味 10. 自分の専門に役立つ
11. その他（ ）

- 問11 あなたは学内で授業のない時はどこで過ごしますか。
 1. 教室 2. 図書館 3. クラブ室 4. 学生ホール 5. 食堂
 6. 学外 7. 帰宅(帰寮) 8. 研究室 9. その他()
- 問12 週休2日制の在り方について質問します。
 大学側では週休2日制を取り入れていないのが現状です。もし、完全週休2日制を取り入れた場合、5時間目に講義がはいる、講義終了時間が遅くなります。このことについてどう思いますか。
 1. 完全週休2日制がよい 2. 現状のままでよい 3. その他()
- 問13 G・Wの休暇について質問します。
 暦通りの休暇を行っている為G・Wは、4月29日・5月3日～5月5日です。このことについてどう思いますか。
 1. 現状のままでよい 2. 4月29日～5月5日まで休暇とする
 3. その他()
- 問14 長期休暇について質問します。
 1. 夏期休暇についてどう思われますか。
 ①長い ②短い ③その他()
 2. 春期休暇についてどう思いますか。
 ①長い ②短い ③その他()
- 問15 喫煙について質問します。あなたは今現在、喫煙していますか。
 1. している 2. していない
- 問16 学内では喫煙場所を定めていますがどの場所か知っていますか。
 1. 知っている 2. 知らない
- 問17 もし、学内での喫煙が禁止となったらどう思いますか。
 1. 賛成 2. 反対 3. どちらでもよい 4. その他()
- 問18 学内で飲料できる場所は1ヶ所です。冷水機は必要だと思いますか。
 1. 必要だと思う 2. 思わない 3. どちらでもよい 4. その他()
- 問19ロッカーについて質問します。現在使用しているロッカーの大きさはどうですか。
 1. 広い 2. 狭い 3. 普通
- 問20 現在置かれているロッカーの場所は便利ですか。
 1. 便利 2. 不便 3. どちらでもない
- 問21 校庭のベンチについて質問します。
 校庭に幾つかのベンチを設置していますが、現在のベンチ数をどう思いますか。
 1. 多い 2. 少ない 3. ちょうどよい
- 問22 電話について質問します。あなたは携帯電話(もしくはPHS)を持っていますか。
 1. 持っている 2. 持っていない
- 問23 学内に設置されている公衆電話の数についてどう思いますか。
 1. 多い 2. 少ない 3. ちょうどよい
- 問24 新しく公衆電話を設置するならどこにあると便利ですか。記述してください。
 ()
- 問25 学内の土足禁止について質問します。学内での土足禁止をどう思いますか。
 1. 賛成 2. 反対 3. どちらでもよい
- 問26 学生会に対する要望

・その他御自由に意見をお書き下さい。

・学生会に対する要望

・その他御自由にどうぞ

3. アンケート調査の分析結果

アンケート調査項目すべての分析結果を掲載できるスペースがないため、主だったものをピックアップし、以下に示す。

3-1. 問2. 学科・専攻（回答者の所属学科・専攻について）

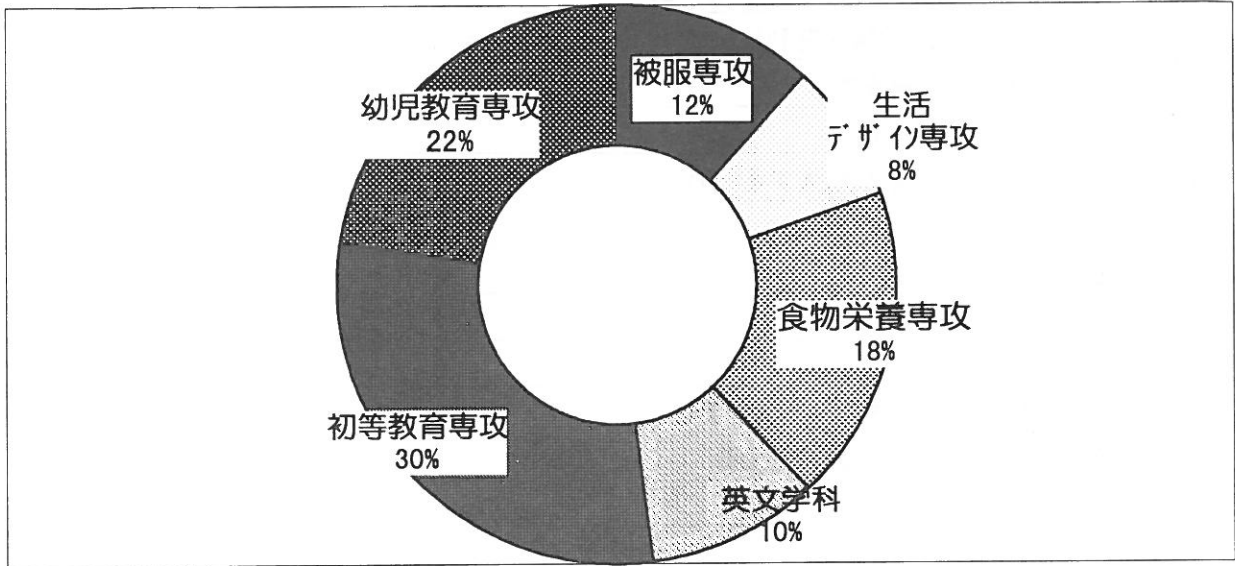


図1. 回答者の学科・専攻構成

3-2. 問5. あなたは大学生生活の目的をどう考えていますか（3つまで複数回答可）。

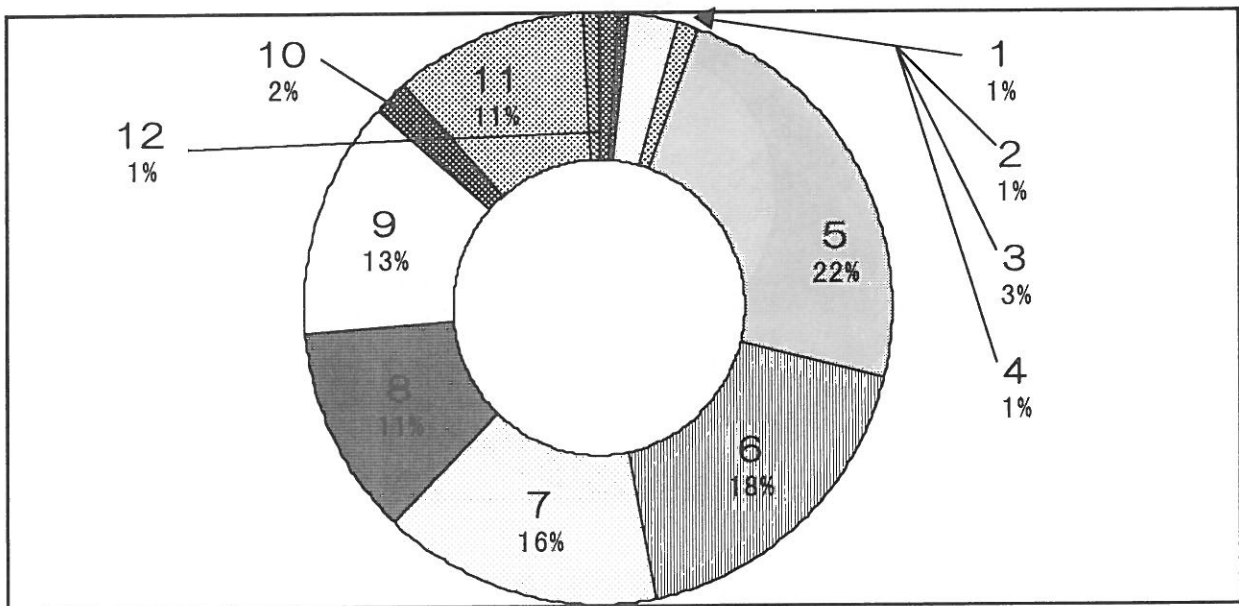


図2. 大学生生活の目的（各数値の示す内容については、2.アンケート調査の内容参照）

3-3. 問5に対する自由回答（その他）

表2. 問5のその他の回答

調査番号	その他
0053	短大卒という肩書きを手にいれるため
0063	学歴社会のため就職を有利にしたい。(高給待遇なども)
0084	自分のやりたい事を学ぶ
0095	好きな授業が学べる
0221	自分の学びたい事を勉強するため
0248	あまり考えていない
0265	ひまつぶし
0398	遊ぶ
0449	今後のために
0515	本当にやりたい事を見つけるために
0955	将来について(就職など)考える
1013	遊びまくる

3-4. 問6. あなたの専攻コースについて-1)実験・実習の科目数についてどう思いますか。

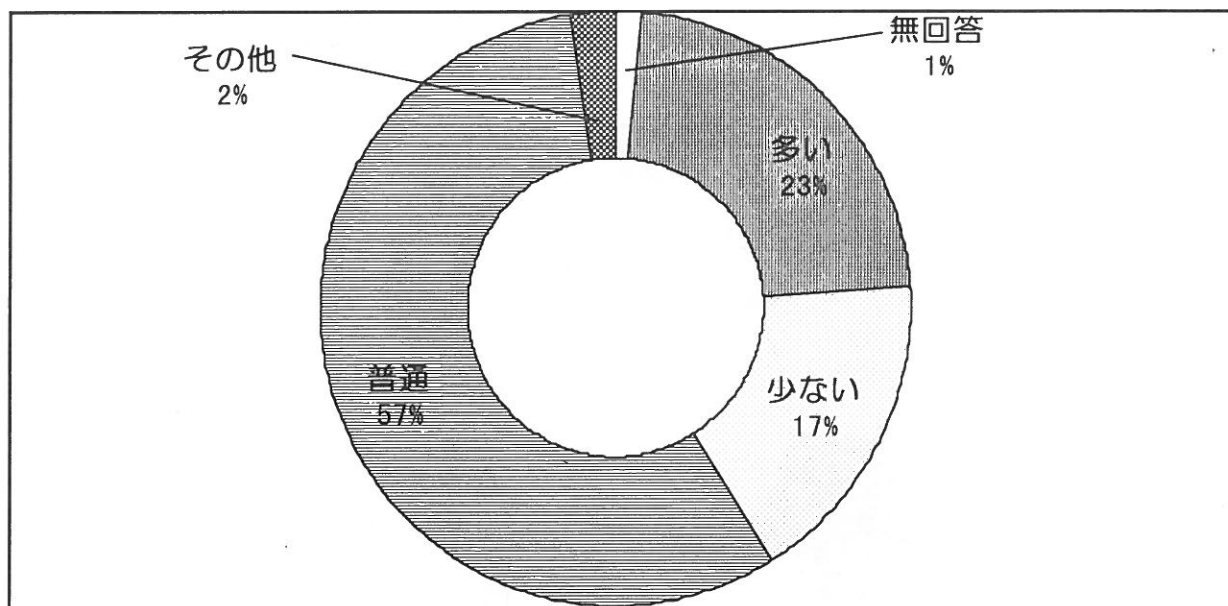


図3. 実験・実習の科目数について

3-5. 問6. あなたの専攻コースについて-2)カリキュラムについてどう思いますか。

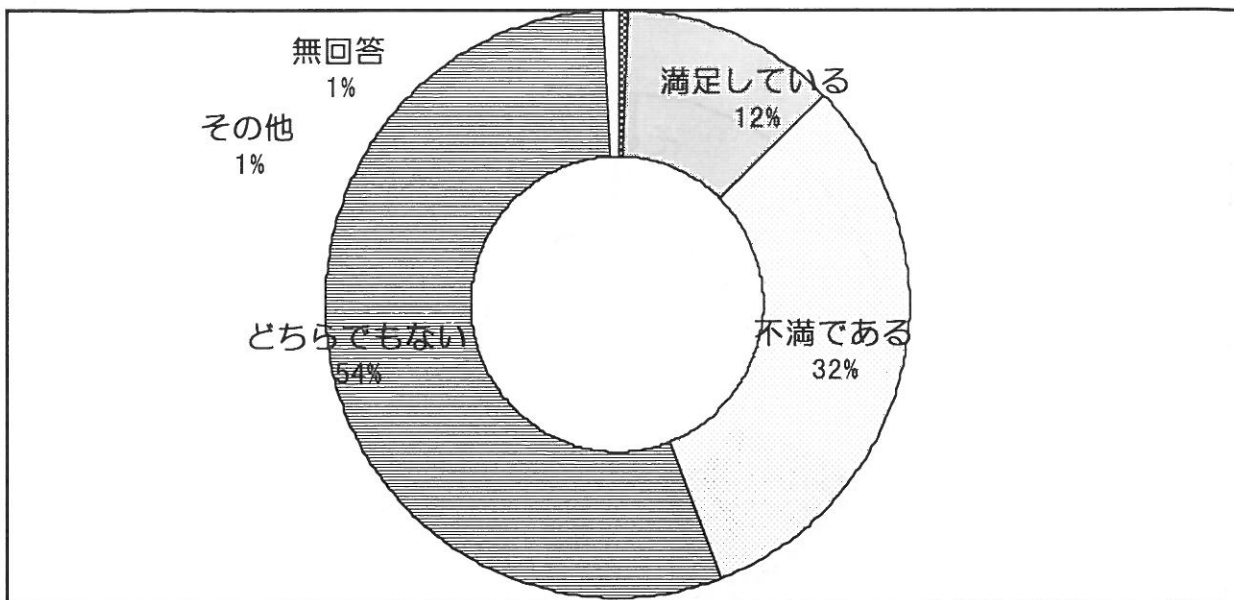


図4. カリキュラムについて

3-6. 問6. あなたの専攻コースについて-3)あなたの能力・適性にあっていますか。

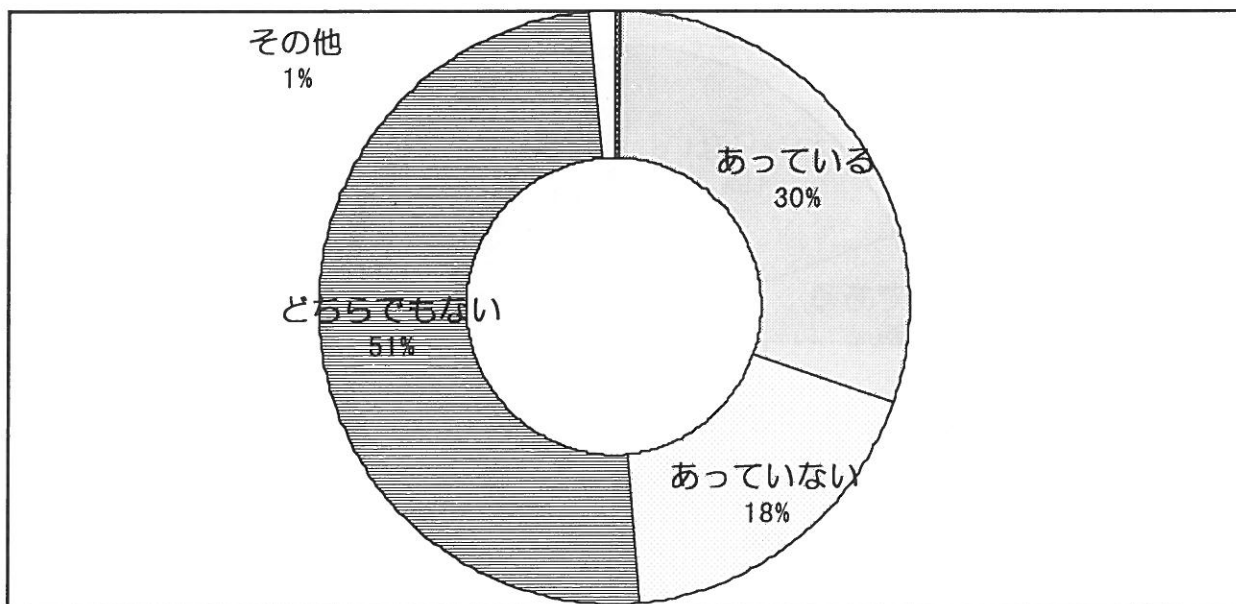


図5. 各自の能力・適性にあっているか

3-7. 問6. あなたの専攻コースについて-4)今の専攻・コースを選んでよかったですか。

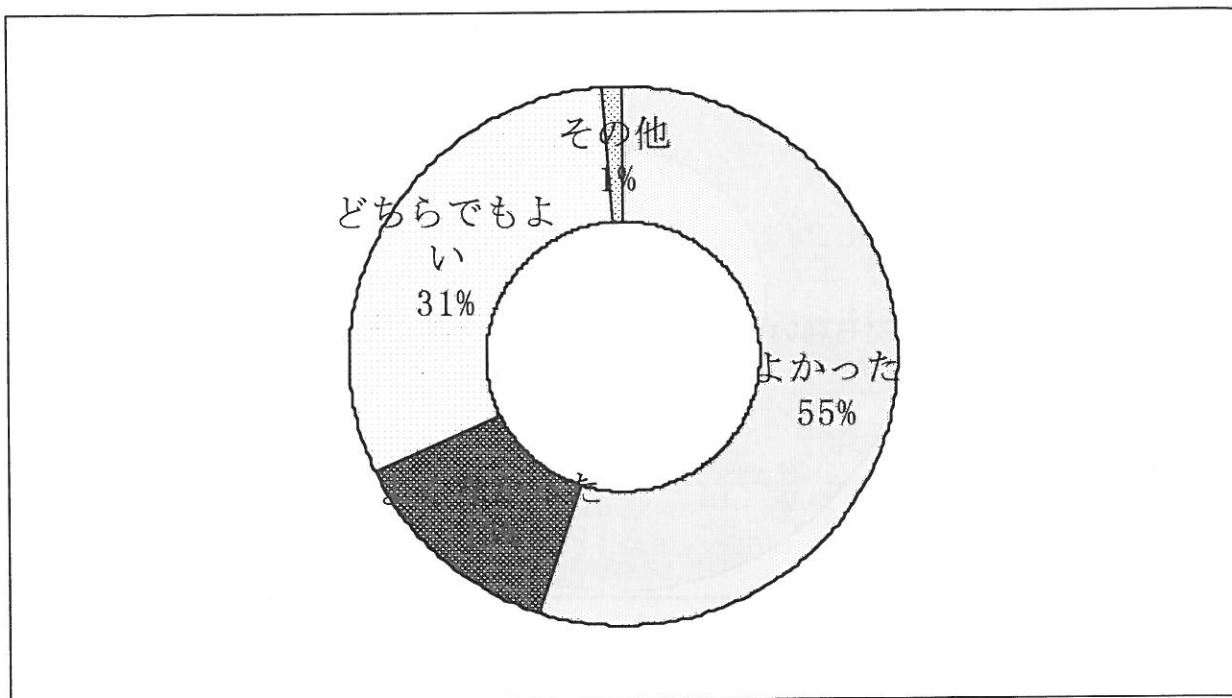
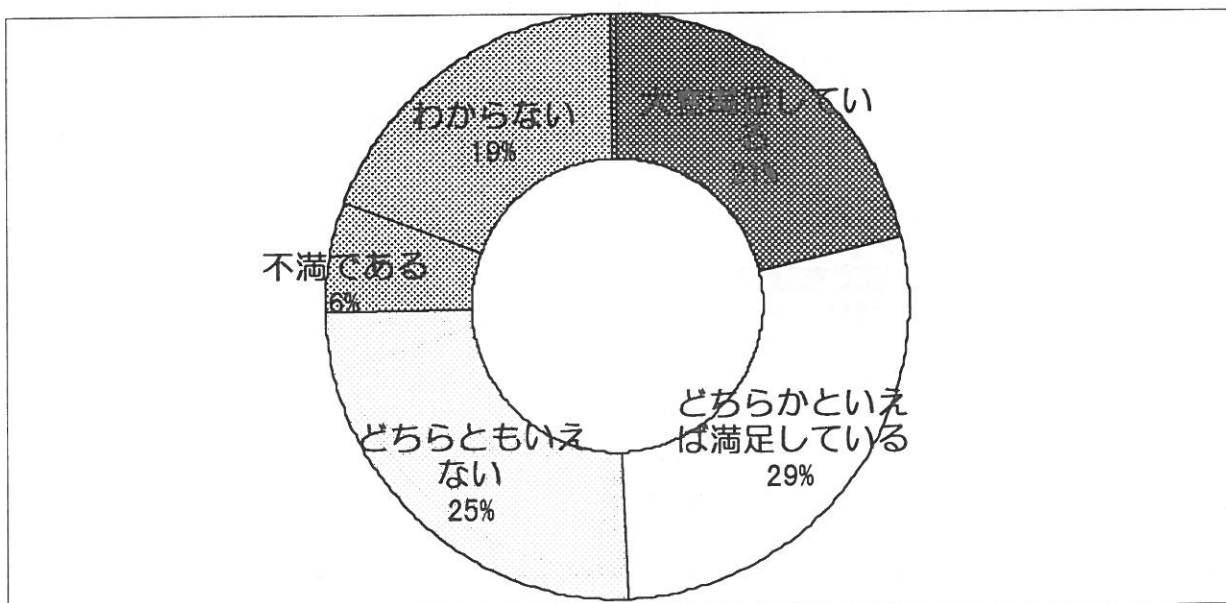


図6. 現在の専攻・コースを選んでよかったですか。

3-8. 問7. あなたの担任の先生についてどう思いますか。



7. 担任についてどう思うか。

3-9. 問9. あなたはアルバイトをしていますか。

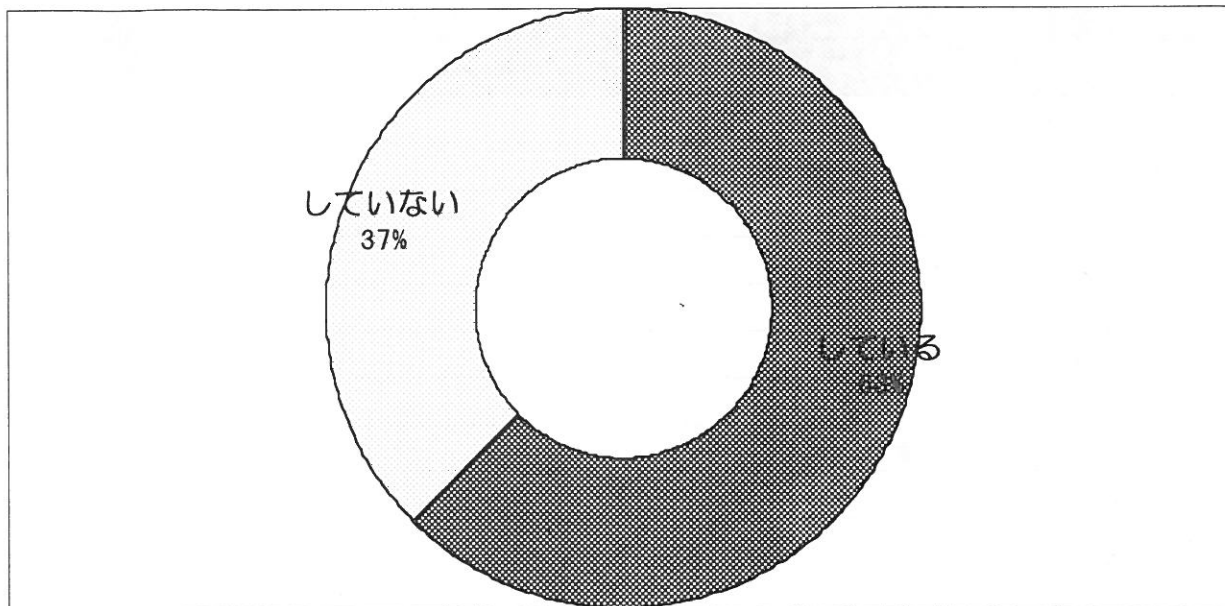


図8. アルバイトをしているか

3-10. 問10. アルバイトの目的は何か。(前問で「している」と答えた場合のみ回答)

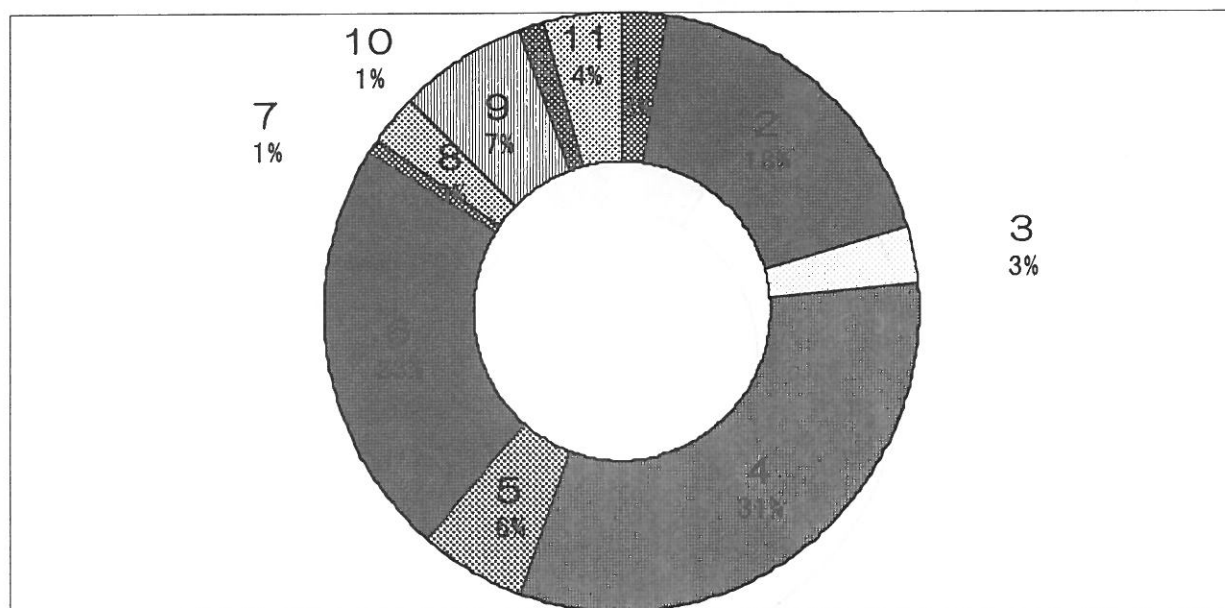


図9. アルバイトの目的

3-11. 問10に対する自由回答（その他）

表3. 問10のその他の回答

調査番号	その他
0053	将来のため
0068	電気代をかせぐ
0130	貯金
0169	社会勉強のため
0184	ガソリン代
0277	通学費
0352	貯金
0368	将来についての備え
0513	ひまつぶし
0515	交際費
0548	おこづかい稼ぎ
1006	交通費(バス代、電車代)
1087	社会勉強
1099	様々な経験を積むため
1108	預金
1148	食べ物を買う
1163	働く事に慣れるように

3-12. 問14. 長期休暇について-1)夏期休暇についてどう思いますか。

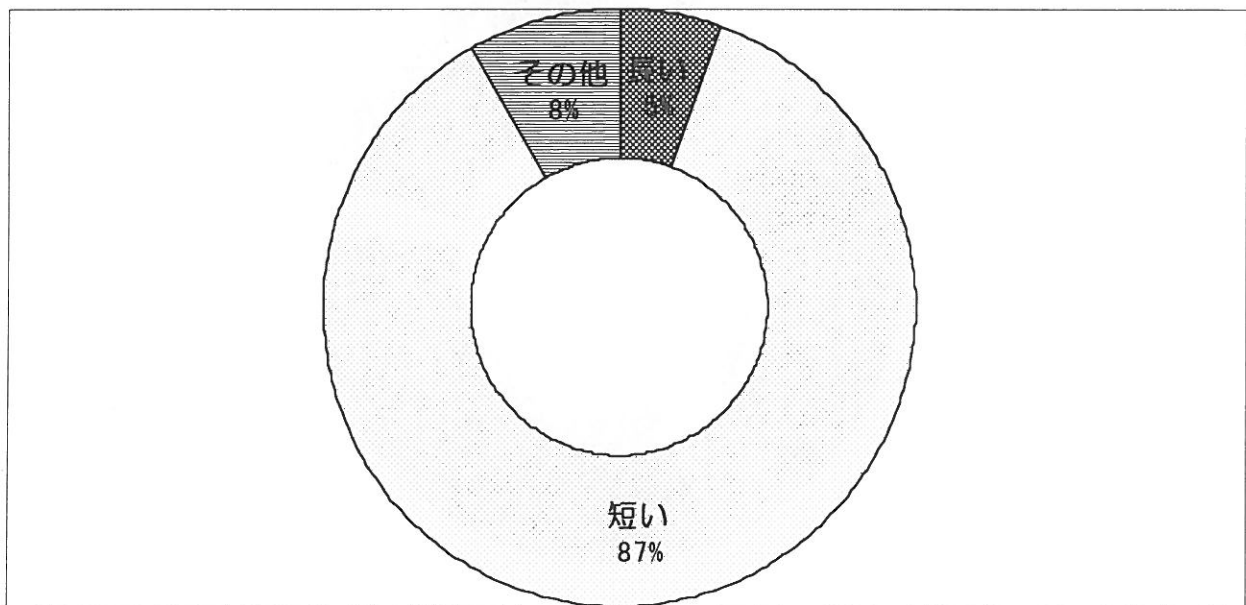


図10. 夏期休暇について

3-13. 問14. 長期休暇について-2) 春期休暇についてどう思いますか。

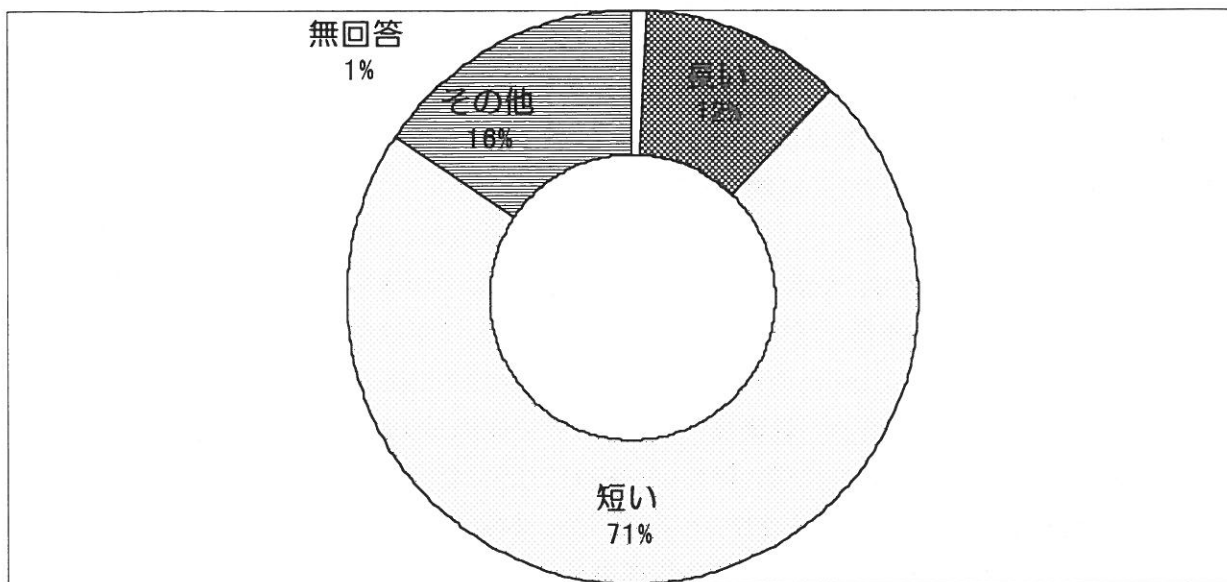


図11. 春期休暇について

3-14. 問15. あなたは今現在、喫煙していますか。

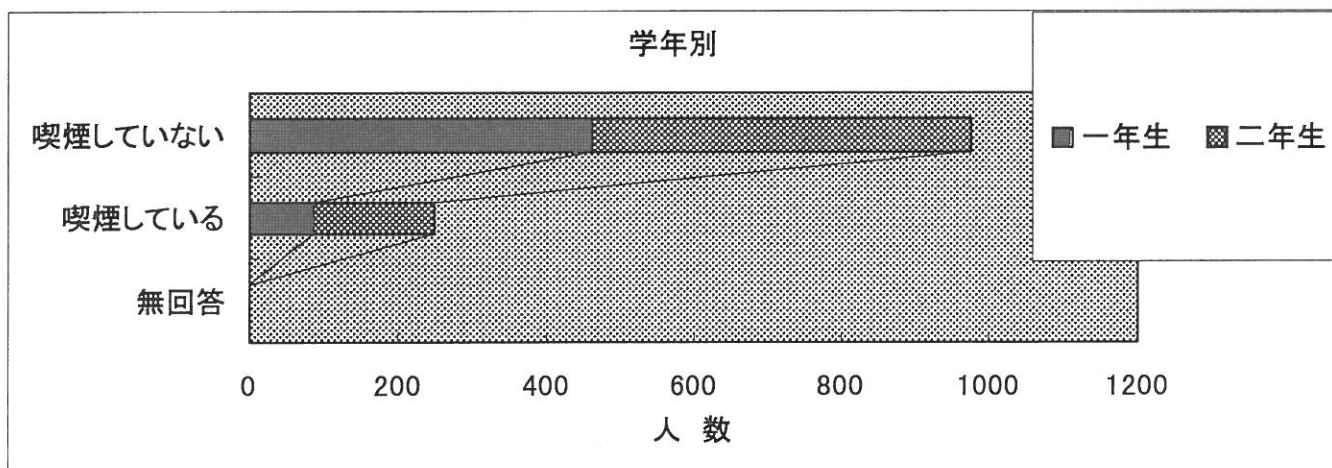


図12. 学年別喫煙者数

以上

II. 課外活動

本学の課外活動に対する学生の興味と関心は、時代背景の変化と共に、様々に変わってきているように思われるが、平成 11 年度の参加活動状況をみると、文化系クラブ 8、スポーツ系クラブ 11、同好会 2 クラブとなっており、参加学生は 256 名で、大学全学生の 24% を占めている。少子化傾向と、クラブ離れの状況を考えると、この数は決して少ない数字ではない。これは、本学の課外活動に対する学園の理解と支援によるところ大である証明である。

併設の大学所属クラブに入部している学生もおり、短大、四大をあわせると約 400 名近くの学生が活動している現状である。活動内容や活動状況は、年度により少しずつ様相を変えているが、学生部と学生生活委員会の指導、助言を得て成り立っている。特に、ここ 2、3 年は学生生活委員会の教職員と学生部部員との協力体制の強化とそれぞれの役割の見直しがなされ、組織的な配慮を行う機関としての位置づけができた。このことで学生、教職員、学生部三者の連携がうまくとれるようになったこともあり、学生と教職員の関係が、今迄以上に深い係わりを得られるようになった。活動に対する積極的な支援、協力という観点では、理想的な体制を作りつつある。また、本学の特色として、他大学にまさるものがある。それは、本学園の創設者である学園長と先代理事長のクラブ活動に対する、暖かく深い理解と支援の上に成り立っているということである。その意志を引き継ぎ、現理事長をはじめ、大学教職員が学生の活動に暖かい指導、助言をし、様々な角度からのサポートをしている。現在、各クラブには、責任顧問として、必ず教職員が関係しているが、これら顧問の責任の明確化やアイデンティティの保証(位置づけ)と確立が今後の課題となろう。このことは、学生生活委員会の中でも、クラブ顧問規程の問題として課題に取り上げ、継続審議中であり、これに携わる教職員の公平な評価につながる大変意味のある取り組みである。

さて、本学のスポーツ系クラブ活動について、歴史のあるところからあげてみると、バドミントン、卓球、バレーボール、ソフトテニスなどのクラブ名が並ぶ。又、昭和 60 年代に入るとホッケー、少林寺拳法、剣道などの新しいクラブが誕生した。更に、県のスポーツ界の役員として要職にあった先代理事長はもとより学園長のスポーツに対する深い理解もあって、多様なクラブの存在が特色としてあげられる。ヨット、馬術、スケート、柔道などは、施設、指導者共に必ずしも満足の行く環境ではなかったが、学生たちはそれぞれのクラブで、自分の技を磨き、各種大会でも活躍した。特に目立った活躍をとりあげてみるとバドミントン部(H3, 4年)、ホッケー部(H5, 7年)の2度にわたる全国制覇であろう。オリンピック候補でもあったインターハイチャンピオンや上位入賞者が、入学してきたことは、本学全体のスポーツに対する姿勢が理解された結果ともいえよう。また、これは本学指導者の優秀性の証明でもある。

次に、こうした学生達の活動をバックアップした施設、設備関係の支援についても触れておきたい。4 階建てのクラブ棟が昭和 63 年に完成し、平成 2 年には、その 1 階にトレーニングルームが誕生した。当時、トレーニング機器を使った練習が急速に普及しはじめ、部員達は県や市の施設に行き、有料で練習してきたが、トレーニング施設が学内にできたことで、時間的、金銭的負担が軽減された。平成 4 年には、ホッケー場が完成したが、この用地は、本来、先代理事長、学園長夫妻が高齢者施設の建設を構想していた場所で、桜の木を植え、隣接の附属幼稚園の園児とのふれあいの場を設ける計画であった。そうした背景を知り、その気持ちに少しでもこたえられるようにと、活動にも一層力が入っている。更に平成 6 年には、従来の土のテニスコートが、人工芝に作り直された。雨の時は勿論、冬は凍って練習のできなかつたテニス部は、オムニコートで、年間を通して、練習ができるようになり、そのお陰で、平成 9 年には、全国大学選手権で 2 位の好成績を収めることができたのである。

又、学生への財政的な支援としては、各スポーツ系クラブに対しては、学生会からの助成があり、その対外試合参加に対しては、教育後援会の規程による助成がなされている。このことも、本学の特色であり、評価されるべきことである。各クラブ関係者はこうした大学側の配慮と支援に対し、学生らしくこたえ、活動が続けていくことを学生達に助言をしていかななくてはならない。そして、学生の本分である勉学とスポーツ活動を両立させるべく、活動に取り組ませるよう、指導者として適切な助言、方策をとることが必要であろう。

一方、文化系クラブは、近年どのクラブも部員数の減少により、十分な活動が出来ない現状であるが、毎年4月に新入生を勧誘したり、併設の四大の学生との合同活動をしたりとその解消につとめている。しかし、あまり成果はあがっていない。

その要因としては放課後はアルバイトに勤しむ学生が多くなって来ていること、多くの学生が「クラブ活動は高校まで」と決めていることなどが挙げられる。

しかしながら、なんとか活性化が図れないものかと、少額ながら学生会から及び教育後援会から活動助成金を支給しつつ、方策を模索している。

スポーツ系クラブの活躍の陰にかくれ、パワーにおされ気味だが派手さはなくても地道な活動を続けていることは評価されなくてはならない。

ワンダーフォーゲルや児童文化研究会、ユネスコクラブ、演劇部などがそれであり、地域に密着したボランティア的な活動は、評価に価するものであり、その存在を決して忘れてはならない。文化系、スポーツ系を問わず、課外活動に積極的に参加活動することは、学生達が、その活動を通して、知的、人間的に成長する為に、必要不可欠のものであり、大学の活性化の原動力にもつながることではなかろうか。今後、更に、本学の課外活動に対する配慮と適切な指導、助言、支援と教職員の組織的な支援体制が、一層充実されたものになる様、色々な角度から検討され、実情に応じた解決策が検討されていくことが課題となろう。参考資料として、平成11年度、クラブ活動状況一覧表を添付しておく。

平成11年度 クラブ活動状況一覧

	クラブ名	部員数	短大	1年	2年	四大	活動日	活動場所
1	バドミントン	15	4	3	1	11	火～日	短大・四大体育館
2	バレーボール	20	11	6	5	9	火～日	体育館
3	ホッケー	26	9	3	6	17	火～日	東海女子大学ホッケーグラウンド
4	ソフトテニス	23	13	5	8	10	火～日	短大テニスコート
5	バスケットボール	17	17	6	11		火・金	短大体育館
6	卓球	10	10	4	6		水・木	体育館(ステージ)
7	ワンダーフォーゲル	10	5	2	3	5	火・日(月1回)	部室
8	演劇	9	2		2	7	火・木	6号館4階部室
9	漫画研究会	9	9	3	6		火	部室
10	プラスパント	9	9	2	7		月水金・土(第2・4)	短大533教室・(土 朝日大学)
11	美術	7	7	1	6		火	部室
12	児童文化研究会	9	9		9		金	短大 531教室
13	ユネスコ学生	19	16	5	11	3	木・土	短大 733教室・希望が丘学園
14	剣道	4	3	1	2	1	月・水・金	短大体育館・水(県警道場)
15	将棋	6	6	4	2		月・水	心理演習室
16	着付け	6	3		3	3	木	礼法室
17	テニス	14	3	1	2	11	火～日	四大テニスコート
18	競技スキー	7	1		1	6	月～土	四大体育館・短大トレーニングルーム
19	ソフトボール	28	9	6	3	19	火～日	四大グラウンド
20	フェンシング	8	8	2	6		月・水・金	岐阜女子商業高校格技場
	合計	256	154	54	100	102		

Ⅲ. 研修関係

1. ケンブリッジ語学研修

「国際的視野をそなえた女性の育成」を建学の精神として、東海女子短期大学が開学して3年後の昭和41年にその精神を具現すべく「英文学科」の誕生をみた。国際的視野の養成には、まず第一に外国語に堪能でなければならない。そのために当時の短期大学としては珍しく、英語の他に第二外国語として仏語・独語を英文学科生は履修することになった。そして、外国語の習得を通じて、その言語を話す国民を理解し、その文化や歴史を学ぶことにより国際性を身につけることを意図したのであった。しかし、書物からの学問は所詮間接的であり、一片の知識に過ぎない。隔靴搔痒の感を否めない。どうしても学生自身が外国語、特に英語が話される国に身を置き、たとえ短期間であっても現地の人々と生活を共にして言葉を交わし、現地の風物を自分の目で見て確かめ、考えることにより、書物で学んだ知識が一層自分の血となり肉となりうるだろうという思いがあった。

この目的のために、「現地に、借り物ではなくて『東海』自身の語学研修校をもとう」という実に画期的な考えを具現化するために現理事長が英国留学中に物件を探され、立地条件の良い Cambridge 市外の Girton にある 19 世紀末建築になる建物を買って、国際的な語学学校 Cambridge Academy of English (CAE と略称) として Mrs. E. L. Adams を初代校長にむかえ 1975 年にオープンした。建物は本館の他にカマボコ型の建物及び付属建物4棟からなり、世界各地から集まって来た若者たちがバレーボールの試合を楽しむのに十分な緑の芝生があり、語学学校として申し分がない。Adams 校長という語学の達人でもある人格者を迎えたことは幸いであった。

その当時英文学科にはまだ専任の外国人教師が配置されていなかった。非常勤講師として Peter Borge 先生がいた。英文科生は外国人慣れしていなかった。従って、第1回の語学研修団が北回りで17～8時間飛んだ後現地入りをした時には疲れと緊張のため Adams 校長が話しかけられても皆沈黙のまま、誰一人答えるものがいなかった。ホームステイ先でも緊張が続いたようである。適切な現地生活適応のための事前指導が十分に行われぬまま第3回目まで大禍もなく一応定期的に学生を派遣してきたのであった。

第4回目の派遣から、現東海女子大教授 John Williams 先生を夫人の Sarah 先生と共に CAE から専任外国人教師として招き、英会話の授業が本格化し、それとともに現地の情報が学生に伝えられることになった。英国人による正統派の Queen's English を耳にする機会が増し、イギリス英語に触れさせることになった。このことは学生を外国語及び外国人に対する極度の緊張から解放させることになり、短期留学生生活を満喫することにつながったようである。

第11回目派遣時からハワイ大学語学研修団の派遣が始まり、語学研修が多様化し始めることとなった。また、第17回の研修から引率者も2名の時代から1名となった。

その後、特別奨学生3ヶ月研修が夏季の語学研修とは別に春季を利用して行われ、外国人講師が引率することとなった。この頃から9ヶ月～12ヶ月休学して私費で語学研修する学生が現われ、留学の形式が多様化することとなった。長期留学者は現地で各種の語学力認定試験を受け、合格して帰国し、学内内規により単位を互換して卒業するケースが増加するようになった。

昨今ではすべての語学研修は学生のみ派遣という形式を採りいれている。就職試験の時期が早まってきたという事情があって、平成12年度以降は2・3月の冬季に派遣することになっている。

2. 軽井沢研修

本学の課外研修施設である軽井沢研修会館は昭和59年に施工され、現在に至っている。施工当時、軽井沢は避暑地として格別の雰囲気があり、各大学が本校舎以外に海や山に厚生施設を建てる風潮が高まるなか、本学でも学生に要望に応じる形で建設に踏み切った経緯がある。

研修会館の利用は英文学科を中心に全学科にわたり(もちろん、四大も利用)、夏季休暇中は学生の出入りが絶えない時もあった。しかしながら、避暑地としての軽井沢という知名度も下がり、また学生の集団生活を好まないという傾向が顕著になってきたことも含め、使用頻度は近年減少している。(教職員個人利用は横ばい。)

現在、軽井沢は新幹線、高速道路等も整備され、本校から交通の便も以前に比べればかなりよくなり、一日近くかかった道のりも半日たらずで行けるようになった。

何とか以前のような活気ある研修会館になるように施設設備等の改善及び充実をはかり、多くの学生に軽井沢のよさを唱えつつ、楽しい集団生活を体験する機会を与えることができるよう努めたい。

3. スキー研修

スキー研修は、昭和51年3月下旬「スキーのつどい」として体育研究室が中心となり始まった。主旨は、スキーの技術の習得と学生間の親睦を図り、また学生生活最後の思い出作りを目的とし、2年体育・美術の学生を対象として始めた。場所は、岐阜県ひるがの高原スキー場で当時は参加者も少なく引率者の自家用車で移動した。

昭和55年からは「他学科の学生も参加したい」という要望があり、全学年・学科を対象とし(初心者中心)「スキー教室」として募集を行った。参加者も50名となり貸切りバスにて現地へ行き指導者も6名で講習にあたった。

昭和57年度からは、主催が体育研究室から学生部と体育研究室となった。

昭和59年からは、東海女子大学の学生の参加を認め、大学の学生部も主催として加わった。場所を長野県の菅平高原スキー場に変更し期間を3泊から4泊とした。参加学生も最高で140名までとなり、学生の把握が大変ではあったが他大学から指導者を依頼するなどの対策をとった。「スキー教室」の全盛期であった。

平成5年度からは、学生部が中心となり募集にあたり、引率にもあたった。名称を「スキー研修」とし、併せて体育授業の単位未定者の参加者も認めた。

平成9年度より、募集人数確保のためスノーボードの研修も増やしたが定員はここ数年55～60名であり、参加者は横ばい状態である。2年生の参加が少ないのは時期的に単位不認定公示日が研修期間内となるためと思われる。学生部(四大も含む)が会計報告を含めた事務的なことをすべて行うこととなったのもこの年度からである。学生に対して、出発当日までに3回説明会を開催し参加への意識を高めている。また学生部・体育研究室による打ち合わせ会を開き、申し合わせ事項の見直しと引率者との意思の統一を図っている。

IV. 就職指導と就職状況

1. 就職指導

労働市場の状況は、基本的には労働力の需用と供給の関係のなかで決定される。需用量が供給量を上回れば労働市場は労働側に有利、供給量が需用量を上回れば労働市場は採用側に有利という状況になる。労働市場がどのような状況になるかは、そのときの経済の状況によって大きく影響されるが、いづれにしても、マクロ的にはこのような状況下で学生たちは就職活動することになるのである。

しかし、労働需給を表わす指標である「有効求人倍率」「失業率」「パート求人率」などの数値は都道府県によって異なっていることを考えると、それを前提にした学生の就職指導が必要である。

また、学生の就職活動にはさまざまな要因が働いているように考えられる。例えば、企業など事務所で働いていた、あるいは働いている先輩OGたちの貢献度に対する事業所側の評価、勤務年数、勤務態度、業務習熟度の遅速などが採用決定にいたるプロセスでプラスやマイナスの要因として働くことは否定し難い事実である。個々の学生については、職業意識の有無、意欲、体力、ワープロ、パソコンなどの基礎的技術の有無、運転免許の有無、理解力、コミュニケーション能力などが評価の対象になっているようである。

就職指導は、このような状況や事情を踏まえて行わなければならないが、いろいろと問題も多くある。その主なものをあげてみると次のようになる。

○地域別の労働市場の状況については、岐阜・愛知・三重3県以外の地域の具体的な状況把握が難しい。

○全学的な職業指導教育の実施が必要である。特定グループの学生や個々の学生への対応では限界があって、採用側のニーズに応じることが困難になっている。

○全学的な職業指導教育の実施については、カリキュラムなど指導内容、導入の時期や方法など検討しなければならない。その場合、インターンシップ制やボランティア活動などについても視野に入れることが必要である。

○社会生活に必要な知識や知恵の修得、コミュニケーションによるスキップの向上など、学生の精神世界への立ち入った指導をする必要があるのではないか。

本学の現在の就職指導は表1に見るとおりである。就職ガイダンスの第1回目は「働く」ということに対する考え方や心構え、就職活動の進め方、第2回目は就職活動に関しての学内手続きと企業訪問のやり方、第3回目は就職試験と面接の受け方などが内容である。第4回目の就職ガイダンスは夏休み中の就職活動の進め方、第5回目は幼稚園・保育園希望者への就職指導である。

その他、企業の人事担当者や本学出身OGによる就職教養講座、保護者・学生を対象とした地区別就職懇談会、入社試験対策としての就職対策特別講座などを実施している。

今後は、これら一連の就職関連講座の内容についてよく検討を加え、指導内容をより具体的にするとともに、相談に来る学生一人ひとりの指導が適切にできるようにしていきたいと考えている。

2. 就職状況

平成10年度の本学卒業生の就職状況は表2に見るとおりである。就職希望者の92.0%が就職し、その業種別分類は幼稚園・保育園等教育関係 27.6%、卸・小売業 22.7%、医療サービス業 22.7%、製造業 12.7%、金融業 8.1%等となっており、職種別分類では一般事務職 50.6%、幼稚園教諭など教育職 23.4%、営業・販売職 15.3%、栄養士・パターナー等専門職 7.7%、福祉関係 3.0%、となっている。

本学卒業生の就職決定状況は概して良好で、年号が平成になってからの10年間をみても、就職希望者に対する就職決定者の割合(就職決定率)は、毎年90%を上回っている(表3)。

短大生の就職先は学生の出身地(地元)の企業が多いといわれているが、本学の卒業生の就職先も地元企業が多い。学生のこのような就職活動の仕方は、学生本人の望むところであるとともに、保護者である親の希望にも沿うものと考えられる。このことは、就職指導にあたって指導担当者として注意しなければならない点である。親の意向を無視するような就職指導は、学生の就職内定後になって、親の反対から採用側との間にトラブルが起き易いからである。

本学学生の就職先は地元の大企業から中小企業、各種団体と幅広くバラエティに富んでいる。それは、地元企業のなかから就職先を選ぶ際に、学生は、自分に合った規模の企業、自分と肌合いのよい雰囲気を感じられる企業ということを考えているからではないかと思われる。それぞれの学生が就職活動をするなかで、分相応の就職ということに気づいて、そういう企業に就職しているように思えるのである。その意味では、本学の学生は地に足が着いた堅実な就職活動をしているような一面があるのではないかとこのようにも見える。

前述のように、本学の学生の就職決定状況は概ね良好と考えられ、この良好な状況を将来に向けて維持していくために何をなすべきか、それが就職部の当面の課題である。

12月1日(水) 研修第1日目

○午前中

「モバイルの時代における学生指導」と題しての講演が行われた。

近年、授業中の携帯電話使用の問題がこれまでの私語や喫煙、中途退室等の問題と同様に、学生指導の課題として取り上げられる事態となってきた。

そこで、「モバイルの時代の学生指導」は21世紀を視野に置いた短期大学の新しいあり方を模索する契機となるのではないかと考えられる。

つづいて、「学生生活・学寮生活に関する調査の集計結果」(報告)が行われ、様々なアンケートの集計結果とその要因、分析がなされた。

○午後より

●各分科会研修

学生指導に関する以下の4つの基本的な問題について協議をし、情報交換を含め何らかの形で糸口をつかむことはできないか。

- ①教職員の学生指導に関する意識改革と課題
- ②モバイルの時代の学生の意識とその変化
- ③基本的な生活習慣とマナー
- ④課外活動の現状と活性化対策
- ⑤その他

いずれの問題に関しても、その要因としては基本的に文化、伝統が不十分なことから生じている部分が多いと考えられる。

特に基本的な生活習慣とマナーの問題は家庭教育、学校教育の役割がしっかり果たされてきたかよく

見直す必要があるのではないか。また、学生を取り巻く環境の変化にも注目しなければならない。情報環境の変化は若者の生活にも大きな影響を与えている。例えば、携帯電話、メール等の普及によりコミュニケーションの形にいびつな面が出てきている。

新しい問題点の対応を含め、学生指導はさらに難しくなることが考えられる。そのため、お互いの短大ではどのように対応しているのか、またどのような方針で臨んでいるのかなど情報交換、意見交換等を行った結果、まずは教職員一体化した学生指導の徹底、意思統一などが必要不可欠ではないかと考えられる。

12月2日(木) 研修第2日目

○午前中

「短大教育と学生指導」と題しての講演が行われた。これからは次の4点がポイントになるのではないかと。

- ①少子化傾向と短大教育
- ②教育システムの改革
- ③学生指導の問題点
- ④教職員の意識改革

進行する少子化の影響を受けて短期大学では定員割れの学校が増えている傾向にある。短期大学はこれまで高い就職率に支えられて発展してきた観があるが、近年、志願者の四大志向、専門技能を習得するための専門学校志向と短大離れが進んでいる傾向にある。

また、入学者においても基礎学力の低下によるカリキュラム改革や授業方法の改善等様々な方策が試みられている。短期大学ではいっそう積極的な改善が必要になっている。一方、キャンパスにおける様々な問題も生じている。そのための学生指導や教育は多種多様化した学生を2年間という短い時間に意識や生活の変化を的確に読み取り、教職員が一致協力して行わなければならない。また、意識改革をしなければならない。

○午後より

- 各分科会研修
- 前日のつづき

12月3日(金) 研修第3日目

○午前中

- 各分科会研修
- 前日のつづき

各分科会でのトピックの報告を含めて全体会が行われ、閉会となった。

V. その他

1. 奨学金制度

日本育英会奨学金については、平成11年9月現在、図1のとおり奨学生数は68人であり、全学生数1064人の約6.3%を占めている。

貸与を希望する学生は、年々増える一方、いくつかの問題を抱えている。

1. 平成11年度より第二種奨学金が廃止となり、新たに「きぼう21プラン」が誕生した。そのことにより、募集人員が昨年度の18名から46名と大幅に、増えたものの返還の際、利息がつくことには変わりなく希望する学生は年々減少している。

2. 貸与を希望する学生は、短期間のうちに様々な書類を揃えなくてはならず説明会には

出席したがやむなく辞退をする学生が増加している。(今年度45名中16名が辞退) 地方自治体による奨学金については、平成11年度の奨学生数は図2のとおりである。例年、奨学生数は少なくこれは募集の時期が3月中旬頃に集中し、ちょうど春休みの時期と重なることや、願書等は全て各自で取り寄せなくてはならない等の困難な面が多いことから生ずる結果と察することができる。

以上の現状を踏まえ今後は今以上に貸与を希望する学生に対して、随時実情に応じた対応をし、入学以前より貸与の意思がある者に対しては情報をいち早く公開する必要があるといえよう。

図1

	1年		2年		小計		
	既採用者	/		予約		2	38
	一種			17			
	二種			19			
新規採用	予約	4	/		30		
	一種	17				一種	2
	きぼう	16				きぼう	1
合計	27		41		68		

※ 予約-予約採用、きぼう-きぼう21プラン

図2

	1年	2年	小計
富山県	1	1	2
あしなが		1	1
合計	1	2	3

2. 学生食堂

学生食堂は、業者委託で営業しており、営業時間は決まっていないが、午前10時30分頃から午後2時頃まで開かれている。その他学内でパンの販売も行っている。食堂の席数は、約300席あり、一日の利用者数は平均して食堂内約200食、お弁当類50~80食である。これは約10年程前から日課表の変更により昼食時間が1時間から40分間になり、席数を考えても回転ができないことや食堂に行く時間が足りないことが一因となっていると思われる。

メニューや価格(270円~390円)は委託業者側が考えているが、学生の要望などを聞くことが必要で

ある。

空き時間の学生の間としても利用できるような食堂の環境整備、価格、メニュー（喫茶）など有効利用できる学生食堂を考えていくことが必要である。

3. 学生相談室

心理学系教員(3名)を相談員に当て、週に3回午後3時間開室している。年間の相談件数は40件で来談者数は延べ125名である。本学は、クラス担任制であるため担任から受持ちの学生の不適応について相談されることが多く、年々増加の傾向にある。特に最近の傾向として、摂食障害やうつ症状・対人不安を訴える学生が目立つ。その為精神医学的対応を求められるケースが多い。今後は、一般の教職員を対象としたメンタルヘルス(約30~40名が参加した)、メンタルクリニック等の精神科専門医との連携をはかりながら家族の理解と強力を得た上での担任を中心とした個別指導が一層求められるものと考えられる。

4. 健康診断と保健業務

① 定期健康診断

学生の定期健康診断は毎年4月に行われている。昨年度より、ガイダンスと平行して行われる事になり、9割の学生が受診できるようになった。就職試験に必要な健康診断証明書はこの時の結果が元となっている。今後の課題としては、健康診断の結果に対しての個別指導、健康診断の項目の追加があげられている。

② 日常的な保健業務

保健室は、看護婦の免許を持つ非常勤職員が週に一日(月曜日)勤務し、他の曜日は事務局が対応している。学生の来室の主な理由は体調不良、怪我、健康相談等である。怪我の原因については、体育の授業時の捻挫、実習中の火傷が多い。健康相談の内容としては、ダイエットの相談、病院紹介等がある。しかし、中には、学生相談室に行けない学生が健康相談に来る場合があり、学生相談室・保健室間の連携と、万が一の事態に備えた週一日ではない保健室担当者の常駐の必要性が今後の課題である。その他に学内での事故の場合は当然であるが、通学中に起った事故にも保険が適用され、対象外の少額補償についても教育後援会の手厚い支援があり、学生への経済的負担は少ない。

5. 学生寮

学生寮(資料添付)

	在寮者数(4月現在)	退寮者数
平成8年度	126名	
平成9年度	115名	
平成10年度	96名	23名(3月末)
平成11年度	83名	3名(9月現在)

入寮者数が減少してきているが、反面一室当たりの人数が、平成9年度までであった4人部屋というはなくなり、現在はほとんどが2人部屋となっている。

最近、学生の中に集団生活に対応できずに体調を崩し、やむなく退寮せざるを得なくなる学生も見られ、メンタル面のケアも重要な課題となってきている。

学生寮が円滑で楽しい生活の場となるよう、寮生の声を聞き、必要に応じ学生生活委員、学生部、寮監と共に協議しながら規則改正や環境整備等を行っていくべきである。

入寮希望者へ

1. 入寮に際して

本境において、自主的に規学には自宅通学が困難な方を対象にした学生寮が3棟あります。本学寮は、「学生の勉学に適する環律された共同生活を体験させ、これを通じて人間形成に資する課外教育施設」として設けられています。

入寮希望者は、寮の案内、寮則(抜粋)、学校案内を熟読し、集団生活である寮生活に適応できるかどうかを考えた上で申し込んでください。

なお、学生寮に関するご質問、ご相談は下記まで。

学生部 入寮係	Tel 0583-82-1148
学生寮	Tel 0583-83-3125
	0583-83-3126
	0583-71-0900

(寮の見学を希望する場合)

あらかじめ電話にて学生部までご連絡ください。(日曜、祝祭日は寮監が不在の場合があります)

2. 入寮申し込みについて

I 申し込み方法

1. 下記の書類に必要事項を記入し、現金書留で入寮金とともに郵送してください。

- ①入寮願書(右上の受付番号欄は記入しないでください。)
- ②入寮金納付用紙
- ③入寮金(25,000円)

2. 申し込み先

〒504-8504 岐阜県各務原市那加桐野町2丁目
東海女子短期大学 学生部 入寮係

3. 申し込み締め切り日

平成11年3月18日(木)

入寮願書の先着順に入寮を許可しますが、定員になり次第締め切りとします。

4. 自宅に「入寮金領収証」「入寮にあたって」を送付。

入寮が許可された人には「入寮金領収証」「入寮にあたって」を大学から自宅に郵送します。この時点で手続き完了となります。

II 入寮を取り消す場合

万一、入寮を取り消す場合は、必ず 学生部 入寮係まで電話にてご連絡ください。
いったん納入された入寮金は、返還できませんのでご了承ください。

III 退寮について

原則として1年間は退寮を認めません。

3. 寮の案内

学生寮は、鉄筋3階建て(第1寮)及び鉄筋4階建て(第2、3寮)の3棟あり、総収容人数は132名です。

寮内には食堂(200名収容)、娯楽室、ミシン室、浴室、ランドリーを備えています。また短期大学に隣接していますので、学内の図書閲覧、ピアノ練習室、被服実習室(ミシン室)等の大学内施設も利用できます。

日常的な寮生活と運営には、寮監、学生生活委員会、学生部が指導にあたり、寮生の自主性を尊重しながら、秩序正しい生活ができるようにしています。

I 寮の形態

		第1学生寮	第2学生寮	第3学生寮
全体	収容定員	44名	52名	36名
	娯楽室	○	○	○
	面会室			○
	寮監室	○	○	○
	食堂			○
	浴室	○		○
	ランドリー	○	○	○
	暖房	○	○	○
	冷房	各部屋コイン式エアコン	各部屋コイン式エアコン	全館式冷房
	洗面所	○	○	○
部屋	部屋数	16室	13室	18室
	広さ	33.3 m ²	33.3 m ²	22.0 m ²
	一室の定員	一室 2～3名	一室 2～3名	一室 2名
	その他	洋室、ベッド、洋服ダンス(ロッカー)、机		

※部屋割りは、入寮式当日に先着順に抽選によって決定します。

※1年後、2年生になった時点で、改めて寮替、部屋替を行っています。

II 寮生活に必要なもの

ふとん、衣類、電気スタンド、ハンガー、洗面用具、バスタオル、スリッパ、ゴミ箱、洗濯かご、弁当箱 2個、カラーボックス、湯呑、箸、新品の雑巾3枚、洗剤、石鹸、はきもの

※電化製品(ポット、トースターを除く)、自転車の持ち込みを禁止します。

III 費用について

寮費	《半期》 72,000円 大学所定の銀行振込用紙にて、半期(6ヶ月)分ごとに分納していただきます。
食費	《月額》約20,000円 (朝夕2食、1日あたり770円) 1ヶ月分ずつ、寮監が集金します。

4. 寮生必携(抜粋)

I 日課(若鮎寮生規則 第3条)

第3条 若鮎寮の日課は、次の通りとする。

起 床	7:00
朝 食	7:00 ~ 8:00
掃 除	8:00 ~ 8:20
登 校	9:00
夕 食	17:00 ~ 19:30
入 浴	19:30 ~ 21:40
門 限	21:00
見廻り合図	21:50 帰寮厳守(警備保障の関係)のこと。
点 呼	22:00
戸 締 まり	22:00
消 灯	23:00

- 寮内の清掃区域は、掃除係長の指示に従うこと。
- やむを得ぬ事情で時間内に食事がとれない場合は、「食事搬入願」(様式1)により所定の手続きをすること。
- 土曜日および祭日前日の入浴は、21:20までとする。
- やむを得ぬ事情で門限に遅れる場合は、22:00とする。
- 点呼の放送時には自室にいること。万一、室内に帰っていない者があったら寮監へ連絡すること。
- 消灯は各部屋自主的にすること。23時以後は静粛にすること。

II 施設・備品の使用(若鮎寮生規則 第4条)

第4条 下記の施設・備品の使用については、時間内において自由に使用できる。

- 娯楽室 7:00から22:00とし、特別延長の場合は寮監の許可を得る。
- 冷暖房 学生部の指示に従う。暖房の温度は20℃程度、冷房の温度は28℃を目途に調整する。
- ピアノ 17:00までとする。(学内ピアノ練習室は20:00まで使用可)
- アイロン 21:50までとする。
- 洗濯機・乾燥機 21:50までとする。ふとん・シーツは第1寮前の物干場を利用する

6. 電話 電話におけるエチケットを守り、22:00までにきりあげる。

Ⅲ アルバイトについて(若鮎寮生規則 第10条～第13条)

第10条 アルバイトは原則として禁止する。

第11条 やむを得ない事情でアルバイトが必要な場合は、「アルバイト許可願」(様式4)に親の承諾を得てから所定の手続きをすること。

第12条 「アルバイト許可願」はアルバイト開始の1週間前までに提出し、許可後アルバイトを始めること。

第13条 平日に連続したり午後9時以降に帰寮となるアルバイトは許可しない。

Ⅳ 外出について(若鮎寮生規則 第5条～第7条)

第5条 外出した時は門限に遅れないように帰寮すること。

第6条 やむを得ぬ事情で門限に遅れる場合は、「外出遅延許可願」(様式2)により所定の手続きをすること。

第7条 大学用地以外へ外出の場合は、外出簿に必要事項を記入すること。

Ⅴ 外泊について(若鮎寮生規則 第8条～第9条)

第8条 外泊は休日の前日のみ認める。

第9条 帰省、合宿、友人宅へ外泊する際は、事前に保護者の許可を得て「外泊許可願」(様式3)により所定の手続きをすること。許可願いには宿泊先の印をもらい帰寮時に寮監に提出すること。

Ⅵ 寮費について(若鮎寮生規則 第14条)

第14条 寮費の納入方法は次の通りとする。

1. 寮監より寮生へ大学所定の銀行振込用紙が配布されるので、期日までに納めること。
2. 寮費の支払いは、前期・後期で分納すること。(前期4月25日迄・後期9月30日迄)

Ⅶ 食費について(若鮎寮生規則 第15条)

第15条 食費の納入方法は次の通りとする。

2. 各寮掲示板にて食費納入についての連絡がある。
1ヶ月分の食費は、毎月28日(土・日曜日の場合は金曜日)点呼時に各寮の会計へ納入すること。
ただし、春、夏、冬季休暇に入る月の講義終了日が28日以前の場合は、講義終了日の1週間前に納入すること。(1日分あたり 朝夕食770円)
3. 次の場合は食費を納入しなくてもよい。
 - A.教育実習、保育実習、介護体験のために帰省した場合。
 - B.定期試験期間中、試験がないため帰省した場合。
 - C.土曜日に帰省することをその週の月曜日までに寮監に申し出た場合。(土曜日分のみ)
 - D.その他やむを得ない事由で食事をとらず、寮監長が認めた場合。
(事前に届出のあった者は、残りの日数分を日割り計算で納入)
 - E.春、夏、冬の長期休暇に関わる月は、学生部の認めた日数を免除。残りの日数分を日割り計算で納入。

5. その他

1. 下宿、アパート等の紹介

大学周辺の女子学生専用アパートや下宿を「下宿案内」にて紹介させていただきます。
「下宿案内」ご希望の方は、学生部までご連絡をください。なお、見学希望、契約などについてはアパート、下宿の家主さんまたは不動産業者に直接連絡をとってください。

6. 下宿・アパート案内について

毎年9月から10月の間に、従来から依頼している女子学生専用アパートのみを載せた冊子を作成し、新入学生の希望者を対象に11月下旬頃より配布している。在校生に対しても希望者にのみ配布している。

アパートの形態としては、従来の間取りでトイレ、風呂等が共同のものや、ワンルームマンションもあり、家賃は2万～5万円まで幅広いが、最も多いのは4万円前後である。

女子学生の居住空間であるので、防犯上、大学から下宿先・アパートへのドアロックチェーン等の設置及び、見回りの依頼をしている。学内では警察署の指導により、寮生、下宿生を対象に防犯講習を行い、学生の防犯意識を高めている。

図 書 館

I. 経過と現状

本学図書館は、東海女子短期大学の 30 周年と東海女子大学の 12 周年を機に双方の飛躍的な発展を願い、中央図書館としての使命を担い、平成 6 年 9 月 5 日に仮オープンした。

設置場所は、大学の敷地内にあるが、短大と挟まれた位置にあり、短大と大学の各棟からは、天候に左右されることなく行き来できる回廊で繋がっている。

建物は、三つの理念、即ち、「学ぶ」「集う」「語らう」を具現化したものとなっている。この新図書館の館名は「東海女子大学・東海女子短期大学附属図書館」と命名し、コミュニケーション機能を重視した大ホールと関連施設を配置するなど、従来の図書館の概念にとらわれない設計になっている。

以上のように、共用施設としての新図書館は、これまで、短大と大学のそれぞれの棟に個別にあった図書館の蔵書と一部備品を引継いでいるが、新しい理念のもとに施設・設備面でも運用面でも一新されるに至った。

1. 運営・管理

図書館運営に関する重要事項や研究用図書の購入・利用に関する事項を審議するため、図書館委員会が設けられている。委員会は、各学科・専攻等から選出された計 12 名の委員で構成されている。委員会は、必要の都度開催されており、図書館の円滑な運営の機能を果たしている。また、施設・設備が、利用者からの理解を得ながら効率的に運用していけるよう、各施設・設備の利用関係の規程類を整備している。

2. 施設・設備

本学図書館は、短大及び大学の教育・研究と学習活動を支援する重要な共用施設として設置されている。まず、「学ぶ」ためのスペースは 3 階と 4 階を中心に展開しているが、利用者がこの階への入退出時には、3 階のカウンター前に設置されているブック・ディテクション・システム(図書持出磁気感知装置)をクリアすることとなっている。

3 階には、貸出・返却、レファレンスサービス等、図書館の全てのサービスを行うカウンターと、参考図書や一般図書(和書の一部)の開架書架スペースと閲覧席 30 席が配置されている。このスペースを中心にカード目録や OPAC 検索、AV 資料の再生装置を装備した AV コーナーなどを備え、図書館におけるメインフロアとしての役割を果たしている。

また、一般雑誌を備えた談話室や、新書版コーナーを整備して、気軽に読書を楽しめる環境を整え、学習図書館としての機能を整備している。

4階の中心スペースは、3 階から連続している開架閲覧スペースで、ここには、一般図書(和書の一部と洋書)と製本雑誌が配架され、98 席の閲覧席がある。別室になっている雑誌閲覧室と学習室もあり、前者には、学術雑誌約 500 種の最新号を収納し、後者は教職員が講義や会議等に、学生が学習等に利用できる多目的な部屋となっている。

また、2 階には、利用度の低下した資料等を保管する集密書庫と、講義・会議や学習等、多目的に使う中小セミナー室が備えられている。なお、前者の集密書庫化は当初計画の段階

で未実施となっているので、今後の課題となっている。

「語らう」「集う」の中心スペースが、1階の大ホールで、豊かな空間を提供している。このスペースとは別棟に大セミナー室(130席)があり、ここは、視聴覚機器や学内LANに接続したコンピュータを設置した階段教室で、講義や研修会・講演会等に広く利用されている。

全館の総閲覧席数は、334席(大セミナー室の席を含まない)で、学生数(短大と大学の学生を含む)の12.7%を確保している。

また、館内は、フリーアクセスの床構造やLANケーブルなど、情報化の基盤整備がされており、開館以来、順調に情報化が進められている。

3. 資料の整備

図書と雑誌の購入状況(過去4年間)は、<表1>のとおりで、購入図書については、各年、全国短大平均を上回る購入している。また、購入雑誌については、平成10年度に激減しているが、この要因としてはコンピュータネットワークにより他大学等の図書館から原著論文を相互協力により入手できる環境が整備され、新規購入が控えられたためなど、が考えられる。

収集した雑誌は、図書館にて集中管理し、共同利用を図っている。視聴覚資料については、教員が研究・教育用として購入した分も、学生の学習用として購入した分も図書館が集中管理して、3階のAVブースで利用に供している。

また、情報化の進展に伴って電子媒体の資料の収集に留意しているが、特に、二次資料の収集に重点を置いており、利用度の高いCD-ROMは、サーバー方式によりLAN利用ができるシステムになっている。

<表1> 購入図書及び購入継続雑誌受入状況

年度別	本学の受入状況		全国短大の平均	
	図書(冊)	雑誌(種)	図書(冊)	雑誌(種)
平成7年	2,697 (4,819)	840 (1,955)	1,659	—
平成8年	2,923 (5,246)	326 (1,537)	1,932	—
平成9年	1,950 (6,533)	863 (1,940)	1,687	—
平成10年	2,527 (4,810)	334 (677)	1,535	—
平均	2,524 (5,352)	591 (1,527)	1,703	—

注;()内は、大学受入分を含む

4. 資料の整理と保管

ア. 整理

本学で受け入れる図書は、大学受入図書とともに全て図書館が窓口になり、閲覧用図書として整理され、図書館の蔵書として保管されている。平成 9 年3月 19 日から図書館業務の電算化を開始し、文部省の学術情報センターの NACSIS-CAT に加入、蔵書のデータベース化を行っている。平成 11 年 10 月 18 日現在、入力件数は 31,875 件となっている。

図書館の電算システムを構築し、そのシステムをトータルに機能化するためには、基本的には、全蔵書の書誌的事項のデータベース化を行うことが必要条件である。このため、平成 9 年度から新たに受け入れる分については全て電算化することとし、既蔵分については、年次計画により遡及入力作業を行っている。

イ. 保管

本学で受け入れた図書、雑誌、視聴覚資料は、大学分を含めて全て図書館に集中配置されることとなっているが、短大分の大半は研究室管理をとっているのが現状である。平成 11 年 3 月末現在、蔵書数 185,234 冊(大学分を含む。以下同じ)、所蔵雑誌数 3,890 種、視聴覚資料 4,435 タイトル、電子出版 84 タイトルとなっている。図書の過去 4 年間の平均年間受入冊数が 5,352 冊(大学受入分を含む)であるので、本館の収納能力 206,900 冊には、4 年後に到達することとなる。雑誌の利用頻度の高いものについては、製本処置をして 4 階の開架書架に排架している。館内の収納スペースの 85%を開架方式による開架閲覧スペースで占め、利用者にとっては大変利用しやすい環境になっている。

5. 利用状況

ア. 開館状況

開館は、月曜日から金曜日は午前 9 時から午後 6 時まで、土曜日は、午前 9 時から午後 3 時までとし、前者を 1 時間、後者を 2 時間、それぞれ開館時間の延長を図り、現在に至っている。

イ. 館外貸出利用状況

最近 3 年間の本学短大生の館外貸出利用状況は、<表 2>のとおりである。学生一人当たりの館外貸出冊数でみると、平成 8 年度の 2.1 冊に対して平成 9、10 年度の利用度が、それぞれ 3.5 冊、3.4 冊と高くなったのは、貸出返却業務が電算処理化され、利用環境が格段に改善されたことによるものと思われる。

なお、利用状況が全国短大平均よりやや低いのは、本学図書館の設置場所が、短大生の学内生活の動線上にあるとは言えないことも要因として考えられる。

<表 2> 学生一人当たりの館外貸出利用状況

(単位:冊)

区 分		8 年度	9 年度	10 年度
本 学	貸出冊数	3,984	4,550	3,669
	学生 1 人当たり	2.1	3.5	3.4
全国短大平均	学生 1 人当たり	4.2	4.1	4.0

ウ. 情報サービス

(ア) レファレンスサービス

大学図書館のレファレンスサービスは、学生が要求する資料や情報を直接提供するのではなく、学生が自らの力で探し出し、より適切な情報を入手できるように、図書館の利用方法や文献の検索方法について、指導・助言することに重点が置かれる。本学の図書館でも、日常業務におけるレファレンスサービスとは別に、利用者教育の一環として「図書館オリエンテーション」「卒業論文作成のための図書館利用指導」「OPAC 検索・インターネット利用説明会」を毎年、定期的実施している。

レファレンスサービスのなかで、最も利用度の高い特定文献の所蔵及び所在調査は、本学図書館でも、文部省の学術情報センターの NACSIS-CAT に加入しているため、迅速・的確に処理できる体制になっている。

(イ) 相互協力

本学図書館に求める資料がない場合、他の大学等の図書館等を利用することになるが、本学図書館では、下記の三つの方法で対応している。学術情報センターの NACSIS-ILL に加入し、文献複写や資料現物の貸借の依頼および受付のメッセージのやりとりを電子化したシステムで行っている。

- ① 本学図書館長の紹介状を発行し、他大学等の図書館等を直接利用させる。
- ② 資料を所蔵する図書館から、相互貸借により直接借り受ける。
- ③ 複写依頼をして、複写物の形で文献を入手する。

本学図書館における相互協力の状況(大学を含む)は、<表 3>に示すとおりで、本学図書館の情報化前(平成 8 年度)の利用件数に対して、情報化後(平成 10 年度)の利用件数が飛躍的に伸びている。特に、他大学図書館へ依頼する件数が特段に多くなっており、学外から受けがくる件数を遥かに上回る状況となっている。

情報化の進展に伴い、一つの大学図書館だけでは、利用者からの多様な情報要求を満たすことは不可能であるという認識から、「情報資源共有」の理念を根底に、相互協力の考え方にたって、文部省の学術情報システムは構築されている。本学図書館においても、このような背景を十分認識し、文部省の学術情報センターに参画している。

<表 3> 相互協力の状況

(単位:件)

区 分		8 年	10 年
紹介状	発行	140	37
	受理	17	19
相互貸借	借受	4	26
	貸出	3	46
文献複写	依頼	315	794
	受付	55	344

II. 今後検討すべき課題

1. 資料収納スペースの拡充と適正な蔵書構成の構築

本館の蔵書冊数は、4年後に収納可能冊数に到達するため、収納スペースが著しく狭隘化してきている。このため早急に対応策を講じる必要があるが、「限りなく増加する資料に対応して限りなく書庫スペースを増設する」ことはできない。購入・保存等の分担によって資源予算と保存スペースを効率的に使用することを目指した「情報資源の共有化」とメディアの多様化を前提に、常に利用度の低下した印刷資料を weeding することと、学部学科目等の構成等を反映した特色ある蔵書構成の構築を指向した重点的な資料の収集に努めることが必要である。

2. 利用者教育の充実

OPAC、CD-ROM やオンラインデータベース等、各メディアが多様化しているため、図書館が学生にとって非常にわかりにくいものになってきている。このような状況に対応するためにデータベース検索の基礎能力を育成する利用者教育を充実する必要がある。

情報リテラシー教育には、図書館職員による利用者教育の充実に加えて、司書関係の関係科目については基礎教育科目に類する扱いにすることや、カリキュラムに対応した学習資料の充実と館内資料を用いた講義など、全学的な取り組みが必要である。

なお、このような利用者教育を行うための環境整備(集合教育と個人利用の場を兼ねたスペース)が必要であるが、将来の課題として、既に一般化しつつある大学図書館の公開事業の一環として図書・雑誌類の利用とともに、地域住民にこの種の教育サービスを提供することも考えられる。

3. 図書館パッケージシステムの更新

本学図書館の電算システムは、学術情報センター対応のパッケージソフトをベースにして構築しているが、学術情報センターは、サーバー主導型の閉じた世界の現システムからダウンサイジング、インターネット時代に対応できるクライアントサーバー方式の新システムへの移行を開始している。このため、本学図書館でもこの新システム対応版への移行について早急に検討を進めていく必要がある。新システムにおいては、次のような5項目の Web サービス機能があるので、情報館など短大棟内の身近にあるパソコンから気軽に図書館に向けて情報発信できる情報環境が整備されることとなり、新システムへの移行は、図書館利用の促進に繋がるものと期待される。

- ① 貸出の予約申込
- ② ILL 依頼申込
- ③ 資料の購入申込
- ④ 新着図書紹介
- ⑤ レファレンスサービス

4. 図書館職員の専門性の充実・強化とルーチン業務の機械化

高度情報社会に伴い、今後、高度で多様な情報サービスを提供する業務が拡大する。このような状況に対応していくために、貸出業務などのルーチンワークを機械化等により効率化、省力化し、その余力を新しい業務へシフトしていくことや、新たな業務に対応できる資質の向

上を図っていくための職場内教育等の機会に当てる方向で検討していく必要がある。

[注]

文中でデータ比較の対象とした全国短大平均のデータの出所は、「図書館年鑑」
(日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編 日本図書館協会刊)である。

平成11年度入学生 家政学科 被服専攻 ファッション情報コース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係				開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	中免	同教	司書	社福	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2	2							2		10単位以上必修
	日本国憲法	9609	佐藤(延)	2	2	○				2	○			
	女性と社会	9615	神谷(真)・須田	4	4				2	2				
	生活と化学	9618	寺嶋(昌)	2	2							2		
	環境科学	9623	富田	2	2						2			
外国語	英語	9301	S.Gaffney・井上(端)	2	2	○			1	○	1	○		
	英会話海外研修Ⅰ	9306		1	1									CAE3-ロケット研修参加者に認定
	英会話海外研修Ⅱ	9307		2	2									CAE3ヶ月語学研修参加者に認定
保健体育	体育講義	9401	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1	1	○				1	○			1年後期後半
	体育実技	9402	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1	1	○			1	○				1年前期から1年後期前半
	小計			6	13									
	合計				19									

専門科目	被服学	10111	宮崎	2	2	○						2				
	家政学概論	10113	須田	2	2	○			2	○						
	被服材料学	11103	宮崎	2	2				2	○						
	服飾デザイン	11105	神谷・高間	2	2							1	○	1	○	
	服装史	11107	増栄	2	2									2		
	ファッションドローイング	11140	増村	2	2				1	○	1	○			2コマ	
	被服管理学	11139	宮崎	2	2					2	○					
	民族衣装学	11131	金森	2	2				2							
	ファッション情報論	11133	増栄・高間	2	2							2	○			
	ステンドグラス	11136	牛島	2	2							2			通年	
	被服構成Ⅰ	11141	増栄・高間・清水	2	2	○			2	○					2コマ	
	コース	家庭経済学	10103	田中(正)	2	2	○						2			
住居学		10104	加納	2	2	○			2							
保育学		10105	大森(正)	2	2	○						2				
食品学		10106	山澤	2	2	○						2				
栄養学		10107	水野	2	2	○							2			
調理学及び実習		10108	遠藤(仁)	2	2	○			2(1)		2(2)				2コマ 1組は前期・2組は後期開講	
家庭機械及び家庭電気		10110	安藤	2	2	○							2			
情報処理演習		11301	高野(盛)	1	1				1							
プレゼンテーション演習		11316	高野(盛)	1	1					1						
心理学		11303	小野寺	2	2				※	2						
社会福祉概論		11304	渡辺(利昭)	2	2				※				2			
和裁Ⅰ		11307	遠山	2	2					2				通年		
和裁Ⅱ		11321	遠山	2	2							2		通年		
パターンメイキング		11317	増栄・高間・清水・多治見	4	4				1	○	1	○	1	○	1	○
被服構成Ⅱ		11318	増栄・高間・清水・多治見	6	6					2	○	2	○	2	○	2コマ
デザイン創作	11320	増村	2	2							1	○	1	○		
工業用パターン及びコンピュータ実習	11310	金森・杉山(喜)・清水	2	2								2	○	通年		
ドレーピング	11312	多治見(章)	1	1							1(1)	○	1(2)	○	1組は前期・2組は後期開講	
服飾色彩学	11313	増村	2	2					2							
ファッション・コーディネート	11314	高間	2	2					2							
モードクロッキー	11315	増村・清水	1	1				1								
	小計			29	37											
	合計				66											

教職科目	教育本質論	40101	山内(康)	2	2	○			2						
	教育心理学	40102	神谷(か)	2	2	○				2					
	教育社会学	40103	笠井	2	2	○							2		
	教育工学	40104	杉原	2	2	○			2						
	家庭科教育法	40105	丹羽(清)	2	2	○				2					
	道徳教育の研究	40106	笠井	1	1	○				1					
	特別活動論	40108	竹腰	1	1	○					1				
	生徒指導論	40109	中島(良)	2	2	○				2					
	教育実習	40111		2	2	○						②			2年の5~6月実習予定
	実習概説	40112	中島(良)	1	1	○				1					
		小計			0	17									
	合計				17									注) 2年次に介護等体験があります	

司書教諭	学校経営と学校図書館	60009	安田	2	2				②						1年夏季集中講義
	学校図書館メディアの構成	60010	児玉(孝)	2	2							2			
	学習指導と学校図書館	60011	児玉(孝)	2	2								2		
	読書と豊かな人間性	60012	安田	2	2					②					1年春季集中講義
	情報メディアの活用	60013	村瀬(康)	2	2							②			2年夏季集中講義
	小計			0	10										
	合計				10										

司書資格	図書館概論	50018	首藤	2	2				2						
	図書館資料論	50002	首藤	2	2					2					
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2	2						2				
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2	2							2			
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2	2						2				
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2	2							2			
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2	2						2				
	児童サービス論	50024	安田	1	1				①						1年夏季集中講義
	資料特論	50025	佐橋	1	1					1					同時開講
	専門資料論	50028	佐橋	1	1					1					
	情報検索演習	50026	小林(純)	2	2								2		
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1	1				①						1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1	1				①						1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾	1	1					①					1年冬季集中講義
	図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2	2								②		2年夏季・冬季集中講義
	小計			0	24										
	合計				24										

ファッション情報コース _____ クラス 学籍番号 _____ 氏名 _____

平成11年度入学生 家政学科 被服専攻 福祉・テキスタイル情報コース 開講・履修登録表
東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係					開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	中免	司教	司書	社福	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2	2									2	10単位以上必修
	日本国憲法	9609	佐藤(延)	2	2	○				2	○				
	女性と社会	9615	神谷(真)・須田	4	4				2	2					
	生活と化学	9618	寺嶋(昌)	2	2								2		
	環境科学	9623	富田	2	2							2			
外国語	英語	9301	大野(佳)	2	2	○			1	○	1	○			CABヨーロッパ研修参加者に認 CAB3ヶ月語学研修参加者に認
	英会話海外研修Ⅰ	9306			1										
	英会話海外研修Ⅱ	9307			2										
保健体育	体育講義	9401	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1	1	○				1	○			1年後後半	
	体育実技	9402	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1	1	○			1	○				1年前期から1年後期前	
			小計	6	13										
			合計		19										

専攻科目	被服学	10111	宮崎	2	2	○								2		
	家政学概論	10113	須田	2	2	○			2	○						
	被服材料学	11103	宮崎	2	2				2	○						
	服飾デザイン	11105	神谷・高間	2	2							1	○	1	○	
	服装史	11107	増栄	2	2									2		
	ファッションドローイング	11140	増村	2	2				1	○	1	○			2コマ	
	被服管理学	11139	宮崎	2	2						2	○				
	民族衣装学	11131	金森	2	2				2							
	ファッション情報論	11133	金森・多治見(章)	2	2									2	○	
	ステンドグラス	11136	牛島	2	2								2		通年	
コース	被服構成Ⅰ	11141	金森	2	2	○			2	○					2コマ	
	家庭経済学	10103	田中(正)	2	2	○						2				
	住居学	10104	加納	2	2	○			2							
	保育学	10105	大森(正)	2	2	○						2				
	食品学	10106	山澤	2	2	○						2				
	栄養学	10107	水野	2	2	○			※					2		
	調理学及び実習	10108	加藤(信)	2	2	○					2				2コマ	
	家庭機械及び家庭電気	10110	安藤	2	2	○								2		
	情報処理演習	11401	高野(盛)	1	1				1							
	プレゼンテーション演習	11415	高野(盛)	1	1							1				
専攻科目	心理学	11403	小野寺	2	2				※	2						
	社会福祉概論	11404	渡辺(利昭)	2	2				※							
	パターンメイキング	11416	金森・増栄	4	4				1	○	1	○	1	○	1	○
	被服構成Ⅱ	11417	金森・増栄	6	6						2	○	2	○	2	○
	和裁Ⅰ	11407	遠山	2	2				2						通年	
	和裁Ⅱ	11418	遠山	2	2								2		通年	
	テキスタイル	11409	宮崎	2	2							2	○			
	家庭医学(医学知識)	11410	大森(正)	2	2				※					2	○	
	高齢者介護	11411	西尾	2	2				1	○	1	○				
	老人福祉論	11412	林(喬)	2	2				※	2						
手話	11413	鈴木	1	1									1			
			小計	30	35										社会福祉主事任用資格は ※印の科目のうち3科目必	
			合計		65											

教職科目	教育本質論	40101	山内(康)	2	2	○			2						
	教育心理学	40102	神谷(か)	2	2	○					2				
	教育社会学	40103	笠井	2	2	○								2	
	教育工学	40104	杉原	2	2	○			2						
	家庭科教育法	40105	丹羽(清)	2	2	○					2				
	道徳教育の研究	40106	笠井	1	1	○					1				
	特別活動論	40108	竹腰	1	1	○						1			
	生徒指導論	40109	中島(良)	2	2	○					2				
	教育実習	40111		2	2	○							②		2年の5~6月実習予
	実習概説	40112	中島(良)	1	1	○					1				
			小計	0	17										注) 2年次に介護等 体験があります
			合計		17										

司書教諭	学校経営と学校図書館	60009	安田	2	2				②						1年夏季集中講義
	学校図書館メディアの構成	60010	児玉(孝)	2	2							2			
	学習指導と学校図書館	60011	児玉(孝)	2	2									2	
	読書と豊かな人間性	60012	安田	2	2						②				1年春季集中講義
	情報メディアの活用	60013	村瀬(康)	2	2								②		2年夏季集中講義
			小計	0	10										
			合計		10										

司書資格科目	図書館概論	50018	首藤	2	2				2						
	図書館資料論	50002	首藤	2	2						2				
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2	2							2			
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2	2								2		
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2	2								2		
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2	2									2	
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2	2								2		
	児童サービス論	50024	安田	1	1				①						1年夏季集中講義
	資料特論	50025	佐橋	1	1						1				同時開講
	専門資料論	50028	佐橋	1	1						1				
	情報検索演習	50026	小林(純)	2	2									2	
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1	1				①						1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1	1				①						1年夏季集中講義
情報処理演習	50030	松尾	1	1						①				1年冬季集中講義	
図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2	2									②	2年夏・冬季集中講義	
			小計	0	24										
			合計		24										

平成11年度入学生 家政学科 被服専攻 インターネットコース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係		開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	インター	情報	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2							2	10単位以上必修
	日本国憲法	9609	佐藤(延)	2				2	○			
	女性と社会	9615	神谷(真)・須田	4				2	2			
	生活と化学	9618	寺嶋(昌)	2							2	
	環境科学	9623	富田	2						2		
外国語	英語	9301	大野(佳)	2				1	○	1	○	
	英会話海外研修Ⅰ	9306		1								CABヨーロッパ研修参加者に認定
	英会話海外研修Ⅱ	9307		2								CAB3ヶ月語学研修参加者に認定
保健体育	体育講義	9401	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1					1	○		1年後期後半
	体育実技	9402	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1				1	○			1年前期から1年後期前半
小計			6	13								
合計			19									

専攻科目	被服学	10111	宮崎	2							2					
	家政学概論	10113	須田	2				2	○							
	被服材料学	11103	宮崎	2				2								
	服飾デザイン	11105	神谷・高間	2						1	○	1	○			
	服装史	11107	増栄	2								2				
	ファッションドローイング	11140	増村	2				1	○	1	○		2コマ			
	被服管理学	11139	宮崎	2						2						
	民族衣装学	11131	金森	2				2								
	ファッション情報論	11133	増栄・高間	2			●				2	○				
	ステンドグラス	11136	牛島	2							2		通年			
コア科目	被服構成Ⅰ	11141	清水(弘)	2				2	○				2コマ			
	パターンメイキング及び被服構成	11521	金森・高間・清水(弘)	6						2	○	2	○	2	○	2コマ
	服飾色彩学	11503	増村	2						2						
	情報基礎総論	11504	楓	4		★	●	2	○	2	○					
	情報科学概論	11505	関根	4		★	●	2	○	2	○					
	コンピュータネットワーク論	11506	高野(盛)	4		★	●					2	○	2	○	
	情報基礎Ⅰ	11507	楓	2			●	1	○	1	○					
	情報基礎Ⅱ	11508	谷口	2								1		1		
	コンピュータグラフィックスⅠ	11509	杉山(喜)	4			●	2	○	2	○			2コマ		
	ファッショングラフィックスⅠ	11517	高野(盛)	2		★				1	○	1	○			
	専門科目	ファッショングラフィックスⅡ	11518	高野(盛)	2		★				2				※ 2コマ	
			11519	高野(盛)	1		★					1				
		プレゼンテーション演習	11523	高野(盛)	1		★	●				1	○			
服飾プレゼンテーション演習		11520	高野(盛)	2		★							2	※ 2コマ		
科目	プログラム言語Ⅰ	11515	金子	2		★	●	1	○	1	○					
	プログラム言語Ⅱ	11516	谷口	2		★					1		1	※		
小計			39	23										※印の3科目のうち2科目を選んで必ず受講すること		
合計			62													

情理定 報士科 処認目	秘書実務	70102	熊崎	2			●	1		1				
	事務管理	70103	高木	2			●				2			
	簿記会計学	70118	楓	2			●				1		1	
	小計			0	6									
合計			6											

インターネットコース

学籍番号

氏名

平成11年度入学生 家政学科 被服専攻 建築士・インテリア設計士コース 開講・履修登録表
東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係	開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択		建築士	1年前期	1年後期	2年前期		2年後期
教養科目	物理学	9201	安藤	2			2	○			10単位以上必修
	歴史学	9602	今井(秀)		2					2	
	日本国憲法	9609	佐藤(延)	2			2	○			
	数学	9614	黒川(秀)	2		2	○				
	女性と社会	9615	神谷(真)・須田		4	2		2			
	生活と化学	9618	寺嶋(昌)		2					2	
外国語	英語	9301	大野(佳)	2		1	○	1	○		
	英会話海外研修Ⅰ	9306			1						CAEヨーロッパ研修参加者に認定
	英会話海外研修Ⅱ	9307			2						CAE3ヶ月語学研修参加者に認定
保健体育	体育講義	9401	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1				1	○		1年後期後半
	体育実技	9402	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1		1		○			1年前期から1年後期前半
			小計	10	11						
			合計	21							

専攻科目	被服学	10111	宮崎		2					2		
	家政学概論	10113	須田	2			2	○				
	被服材料学	11103	宮崎		2		2					
	服飾デザイン	11105	神谷・高間	2					1	○	1	○
	服装史	11107	増栄		2						2	
	ファッション情報論	11133	金森・多治見(章)		2						2	
	ファッションドローイング	11140	増村	2		1	○	1	○			2コマ
	被服管理学	11139	宮崎		2			2				
	民族衣装学	11131	金森		2		2					
	ステンドグラス	11136	牛島		2						2	通年
被服構成Ⅰ	11141	多治見(章)・清水	2			2	○				2コマ	
専攻科目	建築計画	11601	桐山	4		◇	2	○	2	○		
	建築環境工学	11624	佐藤(英)	2		◇	2	○				
	建築設備	11603	佐藤(英)	2		◇			2	○		
	建築法規	11604	田口	2		◇			2	○		
	構造力学	11605	佐藤(英)	2		◇				2	○	
	建築一般構造	11606	佐藤(英)	2		◇	2	○				
	建築材料	11607	佐藤(英)	2		◇			2	○		
	建築施工	11608	篠田(明)	2		◇	2	○				
	建築積算	11609	篠田(明)		2							2
	建築製図	11625	佐藤(英)・桐山	1		◇			1	○		2コマ(実習)
	建築設計製図	11626	佐藤(英)・桐山	1		◇				1	○	2コマ(実習)
		11627	佐藤(英)・桐山	2		◇					2	○
	色彩学	11612	増村	2		◇	2	○				
	インテリアデザイン理論	11628	関谷	2		◇			2	○		
	測量実習	11614	篠田(明)	1		◇				1	○	2コマ(実習)
	CAD演習	11629	田口	1		◇				1	○	2コマ(実習)
	住生活論	11616	桐山	2		◇	2	○				
	建築史	11617	加藤(仁)	2		◇	2	○				
	基礎デザイン実技Ⅰ	11618	高田	1		◇	1	○				2コマ(実技)
	基礎デザイン実技Ⅱ	11619	高田		1				1			2コマ(実技)
インテリアコーディネートⅠ	11630	関谷	2						2		2コマ(演習)	
インテリアコーディネートⅡ	11631	関谷	2							2	2コマ(演習)	
住生活インテリア	11622	多治見(章)	2					2			2コマ(演習)	
家具デザイン	11632	桐山		2						2		
			小計	41	25							
			合計	66								

建築士・インテリア設計士コース

学籍番号

氏名

平成11年度入学生 家政学科 生活デザイン専攻 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係		開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	中免	司教司書	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2				2				10単位以上必修
	日本国憲法	9609	佐藤(延)	2	○				2	○		
	物理の世界	9611	安藤	2				2				
	女性と社会	9615	神谷(真)・須田	4				2	2			
外国語	情報基礎	9620	杉山(喜)	1					1			
	英語	9301	M.Borja	2	○			1	○	1	○	
	英会話海外研修Ⅰ	9306		1								CAE3-ロケット研修参加者に認定
英会話海外研修Ⅱ	9307		2								CAE3+月語学研修参加者に認定	
保健体育	体育講義	9401	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1	○				1	○		1年後期後半
	体育実技	9402	伊藤・桑原(信)・小林(和)	1	○			1	○			1年前期から1年後期前半
小計			6	12								
合計			18									

専攻科目	家庭経済学	10103	田中(正)	2	○					2		2コマ 48単位以上 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ 2コマ
	住居学	10104	加納	2	○			2	○			
	保育学	10105	大森(正)	2	○					2		
	食品学	10106	山澤	2	○					2		
	栄養学	10107	水野	2	○						2	
	調理学及び実習	10108	本間	2	○			2				
	家庭機械及び家庭電気	10110	安藤	2	○						2	
	被服学	10111	宮崎	2	○						2	
	ハタメ・メーキング及び被服構成	10112	清水	2	○			2				
	家政学概論	10113	須田	2	○			2	○			
	美術理論	12101	桑原(織)	2					2	○		
	美術史	12102	玉井	2								
	住居学各論	12103	加納	2							2	
	造形美術	12107	中島(聡)・岩井・牛島	2							1 1	
	色彩学	12108	林(尚)	2				2	○			
	インテリアデザインⅠ	12114	林(直)	2				1	○	1	○	
	インテリアデザインⅡ	12115	林(直)	2						1	1	
	ビジュアルデザインⅠ	12116	高島・林(尚)	4				2	○	2	○	
	ビジュアルデザインⅡ	12117	高島・林(尚)	4						2	2	
	染色デザインⅠA	12123	林(節)	2				2	○			
染色デザインⅠB	12124	林(節)	2						2			
染色デザインⅡ	12119	林(節)	4						2	2		
絵画Ⅰ	12120	竹原・若杉・林(節)	4				2	○	2	○		
絵画Ⅱ	12121	竹原・若杉・林(節)	4						2	2		
立体	12122	井上(雅)・早矢仕	4						2	○	2	
小計			24	38								
合計			62									

教職科目	教育本質論	40101	山内(康)	2	○			2				
	教育心理学	40102	神谷(か)	2	○				2			
	教育社会学	40103	笠井	2	○						2	
	教育工学	40104	杉原	2	○			2				
	家庭科教育法	40105	丹羽(清)	2	○				2			
	道徳教育の研究	40106	笠井	1	○				1			
	特別活動論	40108	竹腰	1	○						1	
	生徒指導論	40109	中島(良)	2	○				2			
	教育実習	40111		2	○						②	2年の5～6月に実習予定
	実習概説	40112	中島(良)	1	○					1		
	小計			0	17							
	合計			17								注) 2年次に介護等体験があります

司書教諭	学校経営と学校図書館	60009	安田	2				②				1年夏季集中講義
	学校図書館メディアの構成	60010	児玉(孝)	2						2		
	学習指導と学校図書館	60011	児玉(孝)	2							2	
	読書と豊かな人間性	60012	安田	2					②			1年春季集中講義
	情報メディアの活用	60013	村瀬(康)	2						②		2年夏季集中講義
小計			0	10								
合計			10									

司書資格科目	図書館概論	50018	首藤	2			□	2				
	図書館資料論	50002	首藤	2			□		2			
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2			□			2		
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2			□				2	
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2			□			2		
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2			□				2	
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2			□			2		
	児童サービス論	50024	安田	1			□	①				1年夏季集中講義
	資料特論	50025	佐橋	1			□		1			同時開講
	専門資料論	50028	佐橋	1			□		1			
	情報検索演習	50026	小林(純)	2			□				2	
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1			□	①				1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1			□	①				1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾	1			□		①			1年冬季集中講義
	図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2			□				②	2年夏季・冬季集中講義
小計			0	24								
合計			24									

生活デザイン専攻

学籍番号

氏名

平成11年度入学生 家政学科 食物栄養専攻 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係					開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	栄養	医療	食品	教職	司教	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2							2				10単位以上必修
	文学	9603	木戸	2						2					
	日本国憲法	9609	佐藤(延)	2				○		2	○				
	化学	9612	寺嶋(昌)	2						2	○				
	社会と自然	9616	神谷(真)・富田(保)	4								2	○	2	
外国語	英語	9301	渡辺(マ)・R.Bolton・B.Bolton・K.Wiltshire	2				☆	○	1	○	1	○		
	英会話海外研修Ⅰ	9306		1											CAE3-ロケット研修参加者に認定
	英会話海外研修Ⅱ	9307		2											CAE3ヶ月語学研修参加者に認定
保健体育	体育講義	9401	服部・奥村	1					○			1	○		1年後期後半
	体育実技	9402	服部・奥村	1					○			1	○		1年前期から1年後期前半
	小計			12	7										
	合計			19											

専門科目	家庭経済学	10103	須田	2					○			2			
	住居学	10104	加納	2					○	2					
	保育学	10105	大森(正)	2					○			2			
	家庭機械及び家庭電気	10110	安藤	2					○					2	
	被服学	10111	黒崎	2					○					2	
	パターンメイキング及び被服構成	10112	多治見・清水	2					○	2(12)	2(34)				2コマ
	家政学概論	10113	須田	2					○	2	○				
	解剖生理学	13101	大森(正)	2	◎	☆					2				
	解剖生理学実験	13102	大森(正)	1	◎							1			2コマ
	運動生理学	13103	蘭	1	◎					1	○				
	生化学	13104	上野	2	◎		△				2				
	生化学実験	13105	山内(亮)・内貴・山澤	1	◎		△					1(34)	1(12)		2コマ
	食品学総論	13106	上野	2	◎		△	○		2	○				
	食品学総論実験	13107	山澤	1	◎		△				1	○			2コマ
	食品学各論	13108	山澤	2	◎		△					2	○		
	食品学各論実験	13109	山澤	1	◎		△					1	○		2コマ
	食品加工学	13110	黒川(守)	2	◎		△					2			
	食品加工学実習	13111	黒川(守)・中野	1	◎		△					1(123)	1(4)		2コマ
	栄養学総論	13112	上野	2	◎			○		2	○				
	栄養学各論	13113	石渡	2	◎						2	○			
	栄養学各論実習	13114	遠藤・藤吉	1	◎							1(34)	1(12)		2コマ
	栄養指導論	13115	中村(年)	4	◎	☆2				2	○	2	○		1年前期1コマ・1年後期4コマ
	栄養指導実習	13116	中村(年)・平光・尾木	2	◎					2(12)	○				1年後期1コマ・2年前期4コマ
	臨床栄養学	13117	大森(正)	2	◎	☆					2				
	臨床栄養学実習	13118	尾木・藤吉	1	◎							1(14)	1(23)		2コマ
	公衆栄養学	13119	真鍋	2	◎								2	○	
	給食管理	13120	平光	2	◎							2			
給食管理実習Ⅰ	13136	中村(年)・平光・尾木	1	◎						1(12)	1(34)			3コマ(栄養指導実習と同時開講)	
給食管理実習Ⅱ	13137	中村(年)・平光	1	◎							①			校外実習	
情報処理演習	13138	松尾・杉山(喜)	1	◎	☆				1						
食品衛生学	13134	水野	2	◎		△				2					
食品衛生学実験	13124	水野	1	◎		△					1(12)	1(34)		2コマ	
公衆衛生学	13125	大森(正)	4	◎	☆2						2	○	2	○	
調理学	13139	遠藤・加藤(信)・本間	2	◎			○		2	○					
調理学実習Ⅰ	13140	遠藤・加藤(信)・本間	2	◎			○		1	1				2コマ	
調理学実習Ⅱ	13135	加藤(信)・本間	1	◎							1(12)	1(34)		2コマ	
食料経済	13129	田中(正)	1	◎									1		
食生活論	13130	丹羽(清)	1	◎									1		
	小計			27	38										
	合計			65											

食技類 品術科 科 学 定	応用微生物学	72001	中野	2			△						2	
	応用微生物学実験	72002	中野	1			△						1	2コマ
	食品の分析	72007	水野	1			△				1			2コマ
	課題研究	72008	上野	1			△						1	2コマ(認定研修を含む)
	小計			0	5									
	合計			5										

医実科 療務目 秘 書	医療保険	73010	大野(保)	1			☆				1				同時開講
	医療事務論と医療保険制度	73011	大野(保)	1			☆				1				
	保険請求事務	73012	大野(保)	2			☆					2			
	医療秘書実務	73013	高木	2			☆						2		
	小計			0	6										
	合計			6											

教 職 科 目	教育本質論	40101	山内(康)	2					○	2				
	教育心理学	40102	神谷(か)	2					○		2			
	教育社会学	40103	笠井	2					○				2	
	教育工学	40104	今井(昌)	2					○	2				
	家庭科教育法	40105	丹羽(清)	2					○	2				
	道徳教育の研究	40106	笠井	1					○		1			
	特別活動論	40108	竹腰	1					○			1		
	生徒指導論	40109	中島(良)	2					○			2		
	教育実習	40111		2					○			②		
	実習概説	40112	中島(良)	1					○		1			2年の5~6月に実習予定
		小計		0	17									
	合計			17										注)2年次に介護等体験があります

司 書 教 諭	学校経営と学校図書館	60009	安田	2					■	②				1年夏季集中講義
	学校図書館メディアの構成	60010	児玉(孝)	2					■			2		
	学習指導と学校図書館	60011	児玉(孝)	2					■				2	
	読書と豊かな人間性	60012	安田	2					■		②			1年春季集中講義
	情報メディアの活用	60013	村瀬(康)	2					■			②		2年夏季集中講義
	小計		0	10										
	合計			10										

食物栄養専攻

クラス 学籍番号

氏名

平成11年度入学生 英文学科教育英語コース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係		開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	中免	司書	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2							2	10単位以上必修
	文学	9603	山田	2				2				
	日本国憲法	9609	佐賀	2		○		2	○			
	社会と自然	9616	神谷(真)・富田	4				2	2			
	生活科学	9619	富田	2							2	
外国語	英語 I	9302	田中(幸)	2		○		1	○	1	○	
保健体育	体育講義	9401	桑原(信)・小林(和)	1		○				1	○	1年後期後半
	体育実技	9402	桑原(信)・小林(和)	1		○		1	○			1年前期から1年後期前半
			小計	6	10							
			合計	16								

専門科目	英語学 I	20101	井上(端)	2		○				2	○		
	英語音声学	20007	後藤(い)	2		○		1	○	1	○		
	英文法	20104	五十川	2				1	○	1	○		
	基礎英作文	20105	S.Gaffney	2		○		1	○	1	○		
	英米小説講読 I	20125	五十川	2		○		1	○	1	○		
	英米小説講読 II	20126	五十川	2						1	○	1	○
	英会話 I (リスニング)	20111	R.Bolton	2		○		1	○	1	○		
	英会話 II (スピーキング)	20112	S.Gaffney・R.Bolton	2		○				1	○	1	○
	英米文学概論	20123	大野(佳)	2		○		2					
	総合英語 I	20118	大野(佳)	1						1			
	総合英語 II	20119	下内	1								1	
	時事英語	20107	辻	1						1			
	英語ゼミ A (英語表現)	20132	下内										英語ゼミABは同時開講
	B (文学 I)	20133	大野(佳)	2							2		
	異文化間コミュニケーション	20135	S.Gaffney	2		○						2	
	海外通信	20136	R.Bolton	2								2	貿易文書・コレスポンドンス
	国際問題	20137	井上(端)	2								2	
	日本文化論	20138	大野(佳)	2								2	
	情報処理 (英文&邦文)	20139	杉山(喜)	2				1	○	1	○		
	ビジネス英語 I	20140	M.Borja	2				1		1			
人間関係論	20141	神谷(か)	2								2		
ビジネスと法律	20142	赤尾	2								2		
日本語表現	20143	山田	2						2				
情報処理概論	20144	松尾	2								2		
英会話海外実習	20120		2									CAE語学研修参加者に認定	
			小計	18	27								
			合計	45									

コース専門科目	児童英語 I	21016	K.Wiltshire	2						2	○		
	児童英語 II	21017	K.Wiltshire	1								1	○
	初等英語 I	21018	K.Wiltshire	2				2	○				
	初等英語 II	21019	後藤(い)	1						1	○		
	英語学 II	21020	井上(端)	2		○						2	
	英米文化論	21021	下内	2								2	
	英詩鑑賞	21005	石原(太)	2		○				2			
	英米エッセイ講読	21022	五十川	2				2					
	英米文学特講	21014	石原(太)	2								2	
	日英語比較研究	21008	下内	2								2	○
			小計	8	10								
			合計	18									

教職	教育本質論	40101	山内(康)	2		○		2					
	教育心理学	40102	小野寺	2		○				2			
	教育社会学	40103	笠井	2		○						2	
	教育工学	40104	今井(昌)	2		○		2					
	道徳教育の研究	40106	笠井	1		○				1			
	英語科教育法	40107	五十川	2		○				2			
	特別活動論	40108	竹腰	1		○						1	
	生徒指導論	40109	中島(良)	2		○				2			
	教育実習	40111		2		○							2年の5~6月に実習予定
	実習概説	40112	中島(良)	1		○				1			
			小計	0	17								
			合計	17								注) 2年次に介護等体験があります	

資格	図書館概論	50018	首藤	2			□	2					
	図書館資料論	50002	首藤	2			□			2			
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2			□				2		
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2			□					2	
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2			□				2		
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2			□					2	
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2			□				2		
	児童サービス論	50024	安田	1			□	①					1年夏季集中講義
	資料特論	50025	佐橋	1			□			1			同時開講
	専門資料論	50028	佐橋	1			□			1			
	情報検索演習	50026	小林(純)	2			□					2	
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1			□	①					1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1			□	①					1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾	1			□			①			1年冬季集中講義
図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2			□					②	2年夏季・冬季集中講義	
			小計	0	24								
			合計	24									

平成11年度入学生 英文学科国際英語コース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係		開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	上級秘書士	司書	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2							2	10単位以上必修
	文学	9603	山田	2			2					
	日本国憲法	9609	佐賀	2			2	○				
	社会と自然	9616	神谷(真)・富田(保)	4			2		2			
	生活科学	9619	富田	2							2	
外国語	仏語 I	9302	田中(幸)	2			1	○	1	○		
保健体育	体育講義	9401	桑原(信)・小林(和)	1		※			1	○		1年後期後半
	体育実技	9402	桑原(信)・小林(和)	1		※		1	○			1年前期から1年後期前半
			小計	6	10							
			合計	16								

専門科目	英語学 I	20101	井上(端)	2						2	○			
	英語音声学	20007	後藤(い)	2			1	○	1	○				
	英文法	20104	五十川	2			1	○	1	○				
	基礎英作文	20105	B.Bolton・R.Bolton	2			1	○	1	○				
	英米小説講読 I	20125	五十川	2		※	1	○	1	○				
	英米小説講読 II	20126	五十川	2		※					1	○	1	○
	英会話 I (リスニング)	20111	R.Bolton	2			1	○	1	○				
	英会話 II (スピーキング)	20112	S.Gaffney・R.Bolton	2							1	○	1	○
	英米文学概論	20123	大野(佳)	2			2							
	総合英語 I	20118	大野(佳)	1					1					
	総合英語 II	20119	下内	1								1		
	時事英語	20107	辻	1					1					
	英語ゼミ A (英語表現)	20132	下内			※								英語ゼミABは同時開講 上級秘書士取得者はA必修
		B (文学 I)	20133	大野(佳)	2						2			
	異文化間コミュニケーション	20135	S.Gaffney	2		※						2		
	海外通信	20136	R.Bolton	2		※						2		貿易文書・レスポンス
	国際問題	20137	井上(端)	2		※							2	
	日本文化論	20138	大野(佳)	2		※							2	
	情報処理 (英文&邦文)	20139	杉山(喜)	2		※	1	○	1	○				
	ビジネス英語 I	20140	M.Borja	2		※	1		1					
人間関係論	20141	神谷(か)	2		※							2		
ビジネスと法律	20142	赤尾	2		※							2		
日本語表現	20143	山田	2		※				2					
情報処理概論	20144	松尾	2		※						2			
英会話海外実習	20120		2										CAE語学研修参加者に認定	
			小計	18	27									
			合計	45										

コース専門科目	観光英語概論	22026	井上(端)	4		※				2	○	2	○	
	旅行英語	22019	B.Bolton・M.Borja	2						1	○	1	○	
	情報英語	22015	M.Borja	2			1		1					
	Career English II	22027	M.Borja	2						1		1		
	世界地理学概論	22008	大野(佳)	2					2					
	旅行実務	22022	渡辺(利)	2						2				
	旅行基礎	22023	渡辺(利)	2					2					
	旅行業法・約款	22024	渡辺(利)	2					2					
	直前講座(試験対策)	22025	渡辺(利)	1								①		2年夏季集中講義
				小計	6	13								
			合計	19										

職業科目	秘書学概論	70101	高木	2		※				2			
	秘書実務	70102	古谷	2		※				1		1	
	事務管理	70103	高木	2		※			2				
	簿記会計学入門	70505	日比野	2		※	1		1				
	事務機器演習(パソコン)	70107	杉山(喜)	1								1	
			小計	0	9								
			合計	9									

司書資格科目	図書館概論	50018	首藤	2			□	2						
	図書館資料論	50002	首藤	2			□		2					
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2			□			2				
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2			□				2			
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2			□				2			
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2			□					2		
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2			□				2			
	児童サービス論	50024	安田	1			□	①						1年夏季集中講義 同時開講
	資料特論	50025	佐橋	1			□		1					
	専門資料論	50028	佐橋	1			□		1					
	情報検索演習	50026	小林(純)	2			□					2		
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1			□	①					1年夏季集中講義	
	生涯学習論	50029	原	1			□	①					1年冬季集中講義	
情報処理演習	50030	松尾	1			□			①			1年冬季集中講義		
図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2			□					②	2年夏季・冬季集中講義		
			小計	0	24									
			合計	24										

国際英語コース

学籍番号

氏名

平成11年度入学生 英文学科実務英語コース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係		開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	上級秘書士	司書	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2							2	10単位以上必修
	文学	9603	山田	2				2				
	日本国憲法	9609	佐賀	2			2	○				
	社会と自然	9616	神谷(真)・富田(保)	4			2	2				
	生活科学	9619	富田	2							2	
外国語	仏語 I	9302	田中(幸)	2			1	○	1	○		
保健	体育講義	9401	桑原(信)・小林(和)	1		※			1	○		1年後期後半
体育	体育実技	9402	桑原(信)・小林(和)	1		※		1	○			1年前期から1年後期前半
小計			6	10								
合計			16									

専門科目	英語学 I	20101	井上(端)	2							2	○		
	英語音声学	20007	後藤(い)	2			1	○	1	○				
	英文法	20104	五十川	2			1	○	1	○				
	基礎英作文	20105	S.Gaffney	2			1	○	1	○				
	英米小説講読 I	20125	五十川	2		※	1	○	1	○				
	英米小説講読 II	20126	五十川	2		※					1	○	1	○
	英会話 I (リスニング)	20111	M.Borja	2			1	○	1	○				
	英会話 II (スピーキング)	20112	S.Gaffney・R.Bolton	2							1	○	1	○
	英米文学概論	20123	大野(佳)	2			2							
	総合英語 I	20118	大野(佳)	1					1					
	総合英語 II	20119	下内	1									1	
	時事英語	20107	辻	1					1					
	英語ゼミ A (英語表現)	20132	下内			※								英語ゼミABは同時開講
	B (文学 I)	20133	大野(佳)	2							2			上級秘書士取得者はA必修
	異文化間コミュニケーション	20135	S.Gaffney	2		※					2			
	海外通信	20136	R.Bolton	2		※					2			貿易文書・クロスボンデンス
	国際問題	20137	井上(端)	2		※							2	
	日本文化論	20138	大野(佳)	2		※							2	
	情報処理 (英文&邦文)	20139	杉山(喜)	2		※	1	○	1	○				
	ビジネス英語 I	20140	R.Bolton	2		※	1		1					
人間関係論	20141	神谷(か)	2		※							2		
ビジネスと法律	20142	赤尾	2		※							2		
日本語表現	20143	山田	2		※			2						
情報処理概論	20144	松尾	2		※					2				
英会話海外実習	20120		2										CAE語学研修参加者に認定	
小計			18	27										
合計			45											

コース専門科目	実務英語概論	24001	辻	4		※					2	○	2	○
	海外事情	24002	大野(佳)	2			2	○						
		24013	R.Bolton	2					2					
	貿易業務 I	24003	古谷	2							2	○		
	貿易業務 II	24004	古谷	2									2	
	ビジネス英語 II	24010	大野(佳)	1							1			
	東洋文化	24011	後藤(い)	2									2	
	ビジネス会話	24014	K.Wiltshire	2							1		1	
小計			8	9										
合計			17											

職業科目	秘書学概論	70101	高木	2		※					2			
	秘書実務	70102	古谷	2		※					1		1	
	事務管理	70103	高木	2		※				2				
	簿記会計学入門	70505	日比野	2		※	1		1					
	事務機器演習(パソコン)	70107	杉山(喜)	1									1	
小計			0	9										
合計			9											

資格科目	図書館概論	50018	首藤	2			□	2						
	図書館資料論	50002	首藤	2			□		2					
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2			□			2				
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2			□					2		
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2			□				2			
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2			□					2		
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2			□				2			
	児童サービス論	50024	安田	1			□	①						1年夏季集中講義
	資料特論	50025	佐橋	1			□		1					同時開講
	専門資料論	50028	佐橋	1			□		1					
	情報検索演習	50026	小林(純)	2			□					2		
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1			□	①						1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1			□	①						1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾	1			□			①				1年冬季集中講義
図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2			□						②	2年夏季・冬季集中講義	
小計			0	24										
合計			24											

実務英語コース

学籍番号

氏名

平成11年度入学生 英文学科通訳英語コース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係				開講時期及び単位数				備考
			必修	選択	上級秘書士	司書	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2								2	10単位以上必修
	文学	9603	山田	2			2						
	日本国憲法	9609	佐賀	2			2	○					
	社会と自然	9616	神谷(真)・富田(保)	4			2	2					
	生活科学	9619	富田	2								2	
外国語	仏語 I	9302	田中(幸)	2			1	○	1	○			
保健体育	体育講義	9401	桑原(信)・小林(和)	1		※			1	○			1年後期後半
	体育実技	9402	桑原(信)・小林(和)	1		※		1	○				1年前期から1年後期前半
			小計	6	10								
			合計	16									

専門科目	英語学 I	20101	井上(端)	2						2	○			
	英語音声学	20007	後藤(い)	2			1	○	1	○				
	英文法	20104	五十川	2			1	○	1	○				
	基礎英作文	20105	R.Bolton・B.Bolton	2			1	○	1	○				
	英米小説講読 I	20125	五十川	2		※	1	○	1	○				
	英米小説講読 II	20126	五十川	2		※					1	○	1	○
	英会話 I (リスニング)	20111	M.Borja	2			1	○	1	○				
	英会話 II (スピーキング)	20112	S.Gaffney・R.Bolton	2							1	○	1	○
	英米文学概論	20123	大野(佳)	2			2							
	総合英語 I	20118	大野(佳)	1					1					
	総合英語 II	20119	下内	1								1		
	時事英語	20107	辻	1					1					
	英語ゼミ A (英語表現)	20132	下内			※								英語ゼミABは同時開講 上級秘書士取得者はA必修
	B (文学 I)	20133	大野(佳)	2							2			
	異文化間コミュニケーション	20135	S.Gaffney	2		※					2			
	海外通信	20136	R.Bolton	2		※					2			貿易文書・コレスポネンス
	国際問題	20137	井上(端)	2		※						2		
	日本文化論	20138	大野(佳)	2		※						2		
	情報処理 (英文 & 邦文)	20139	杉山(喜)・松尾	2		※	1	○	1	○				
	ビジネス英語 I	20140	R.Bolton	2		※	1		1					
人間関係論	20141	神谷(か)	2		※						2			
ビジネスと法律	20142	赤尾	2		※						2			
日本語表現	20143	山田	2		※			2						
情報処理概論	20144	松尾	2		※					2				
英会話海外実習	20120		2										CAE語学研修参加者に認定	
			小計	18	27									
			合計	45										

コース専門科目	通訳ガイド	25001	K. Wiltshire	4		※		2	○	2	○		
	通訳法	25002	下内	2							2	○	
	通訳演習 I	25003	後藤(い)	2			1	○	1	○			
	通訳演習 II	25004	後藤(い)	2							1		1
	ボランティア通訳実習	25005	K.Wiltshire	2							2		
	ホテル マネジメント入門	25006	日比野	2								2	
	異文化間コミュニケーション特講	25007	吉川	2					②				
			小計	8	8								
			合計	16									

職業科目	秘書学概論	70101	高木	2		※					2		
	秘書実務	70102	赤尾	2		※					1		1
	事務管理	70103	高木	2		※			2				
	簿記会計学入門	70505	日比野	2		※	1		1				
	事務機器演習 (パソコン)	70107	杉山(喜)	1								1	
			小計	0	9								
			合計	9									

司書資格科目	図書館概論	50018	首藤	2			□	2						
	図書館資料論	50002	首藤	2			□		2					
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2			□			2				
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2			□				2			
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2			□			2				
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2			□				2			
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2			□			2				
	児童サービス論	50024	安田	1			□	①						1年夏季集中講義 同時開講
	資料特論	50025	佐橋	1			□		1					
	専門資料論	50028	佐橋	1			□		1					
	情報検索演習	50026	小林(純)	2			□				2			
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1			□	①						1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1			□	①						1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾	1			□			①				1年冬季集中講義
図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2			□					②		2年夏季・冬季集中講義	
			小計	0	24									
			合計	24										

通訳英語コース 学籍番号 氏名

平成11年度入学生 英文学科ケンブリッジ・インターナショナルコース 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係		開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	上級秘書士	司書	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
教養科目	歴史学	9602	今井(秀)	2							2	10単位以上必修
	文学	9603	山田	2			2					
	日本国憲法	9609	佐賀	2			2	○				
	社会と自然	9616	神谷(真)・富田(保)	4			2	2				
	生活科学	9619	富田	2							2	
外国語	仏語 I	9302	田中(幸)	2			1	○	1	○		
保健体育	体育講義	9401	桑原(信)・小林(和)	1		※			1	○		1年後期後半
	体育実技	9402	桑原(信)・小林(和)	1		※		1	○			1年前期から1年後期前半
	小計			6	10							
	合計				16							

専門科目	英語学 I	20101	K.Wiltshire	2						2	○			
	英語音声学	20007	M.Borja	2				1	○	1	○			
	英文法	20104	K.Wiltshire	2				1	○	1	○			
	基礎英作文	20105	S.Gaffney	2				1	○	1	○			
	英米小説講読 I	20125	B.Bolton	2		※		1	○	1	○			
	英米小説講読 II	20126	K.Wiltshire	2		※					1	○	1	○
	英会話 I (リスニング)	20111	S.Gaffney	2				1	○	1	○			
	英会話 II (スピーキング)	20112	M.Borja	2							1	○	1	○
	英米文学概論	20123	S.Gaffney	2				2						
	総合英語 I	20118	B.Bolton	1						1				
	総合英語 II	20119	S.Gaffney	1								1		
	時事英語	20107	S.Gaffney	1						1				
	英語ゼミ	27015	M.Borja・B.Bolton			※								
	異文化間コミュニケーション	20135	S.Gaffney	2		※					2			
	海外通信	20136	S.Gaffney	2		※					2		貿易文書・コレスポネンス	
	国際問題	20137	S.Gaffney	2		※						2		
	日本文化論	20138	K.Wiltshire	2		※						2		
	情報処理 (英文&邦文)	20139	杉山(喜)	2		※		1	○	1	○			
	ビジネス英語 I	20140	M.Borja	2		※		1		1				
	人間関係論	20141	神谷(か)	2		※						2		
ビジネスと法律	20142	赤尾	2		※						2			
日本語表現	20143	山田	2		※				2					
情報処理概論	20144	松尾	2		※					2				
英会話海外実習	20120		2									3ヶ月研修の単位は Cambridge Studies II に含む		
	小計			18	25									
	合計				43									

コース専門科目	Cambridge Studies I	27001	S.Gaffney	2					2	○			
	Cambridge Studies II	27002	B.Bolton	4							4	○	CAE3ヶ月研修の単位を含む
	イギリス文化 I (歴史)	27003	R.Bolton	2		※		2	○				
	イギリス文化 II (社会)	27004	B.Bolton	2		※				2	○		
	Career English II	27005	R.Bolton・M.Borja	2						1		1	
	ブリティッシュ マナー	27006	K.Wiltshire	2						2			
	観光英語	27007	B.Bolton	2				1		1			
	ホスピタリティ論	27008	日比野	2								2	
	小計			10	8								
	合計				18								

職業科目	秘書学概論	70101	高木	2		※				2			
	秘書実務	70102	赤尾	2		※				1		1	
	事務管理	70103	高木	2		※			2				
	簿記会計学入門	70505	日比野	2		※		1		1			
	事務機器演習(パソコン)	70107	杉山(喜)	1								1	
	小計			0	9								
	合計				9								

司書資格科目	図書館概論	50018	首藤	2			□	2					
	図書館資料論	50002	首藤	2			□		2				
	情報サービス概説	50019	小林(純)	2			□				2		
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)	2			□					2	
	資料組織概説	50021	児玉(孝)	2			□				2		
	資料組織演習	50022	児玉(孝)	2			□					2	
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)	2			□				2		
	児童サービス論	50024	安田	1			□	①					1年夏季集中講義 同時開講
	資料特論	50025	佐橋	1			□		1				
	専門資料論	50028	佐橋	1			□		1				
	情報検索演習	50026	小林(純)	2			□					2	
	図書館経営論	50027	児玉(孝)	1			□	①					1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原	1			□	①					1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾	1			□			①			1年冬季集中講義
図書館演習・実習	50031	児玉(孝)	2			□					②	2年夏季・冬季集中講義	
	小計			0	24								
	合計				24								

ケンブリッジ・インターナショナル コース 学籍番号 氏名

平成11年度入学生 児童教育学科 初等教育専攻 開講・履修登録表(各コース専門科目)

東海女子短期大学

【音楽コース】

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係						開講時期及び単位数				備考			
			必修	選択	小免	幼免	司教	レク	秘書	情報	ビシ	1年前期	1年後期	2年前期		2年後期		
音楽理論	31123	熊沢	2															
編曲法	31125	熊沢	1										1	○				
音楽史・鑑賞	31124	熊沢	2												2	○		
ピアノ	31119	窪田他	2												1	○	1	○
声楽	31121	大森(由)	2								1	○	1	○				
合唱	31118	大森(由)・大江	2												1	○	1	○
器楽Ⅰ	31126	熊沢・大江	2								1	○	1	○				
器楽Ⅱ	31127	熊沢・大江	1												1	○		
小計			14	0							4	3	5	2				
合計			14										14					

【国語コース】

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係						開講時期及び単位数				備考			
			必修	選択	小免	幼免	司教	レク	秘書	情報	ビシ	1年前期	1年後期	2年前期		2年後期		
国文学各論(古典)	31226	山田	2												1	○	1	○
近現代文学	31218	林(正)	2								①	○	①	○				1年夏季・冬季集中講義
児童文学	31219	中島(良)	2								1	○	1	○				
国文学各論(文学史)	31220	山田	4								2	○	2	○				
国文法(口語)	31222	木戸	1												1	○		
日本文学研究	31223	山田・木戸	2								①	○					①	○
国語表現法	31225	山田	2														2	○
小計			15	0							5	4	2	4				
合計			15										15					

【体育コース】

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係						開講時期及び単位数				備考			
			必修	選択	小免	幼免	司教	レク	秘書	情報	ビシ	1年前期	1年後期	2年前期		2年後期		
体育社会学	31306	杉山(道)	2														2	○
運動生理学	31307	古田	2															2年夏季集中講義
学校保健	31308	古田	2										2	○				スポーツ医学を含む
体育学演習	31309	古田	1								①	○						1年夏季集中講義
スポーツ指導論	31310	奥村	2												2	○		
実技Ⅰ	31315	天野・伊藤・桑原(信)・小林	2								1	○					1	○
実技Ⅱ	31316	伊藤・桑原(信)	1														1	○
実技Ⅲ	31317	天野・杉山(道)	1								1	○						陸上・バドミントン
実技Ⅳ	31318	近藤	1										1	○				ダンス
レクリエーション概論	71001	野村(敏)	2								2							
レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱ	71002	桑原(信)・武藤(祐)	1								(Ⅰ)		(Ⅱ)					フォークダンス・スポーツ・ゲーム・レクナツク 通年で受講すること
レクリエーション現場実習Ⅰ・Ⅱ	71004	野村(敏)・長縄	1								(Ⅰ)		(Ⅱ)					1は1年夏季集中・Ⅱは2年前期 Ⅰ・Ⅱともに受講すること
小計			14	4									1					
合計			18															

【心理学コース】

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係						開講時期及び単位数				備考			
			必修	選択	小免	幼免	司教	レク	秘書	情報	ビシ	1年前期	1年後期	2年前期		2年後期		
家族心理学	31610	岩館	2												2	○		
社会心理学	31611	小野寺	2														2	○
児童心理学	31613	神谷(か)	2										2	○				
青年心理学	31614	小野寺	2										2	○				
性格心理学	31615	岩館	2														2	○
臨床心理学	31616	岩館	2								2	○						
心理学概論	31622	小野寺	2								2	○						
心理学特論Ⅰ	31623		1								①	○						
心理学特論Ⅱ	31624		1										①	○				特論はすべて集中講義
心理学特論Ⅲ	31625		1												①	○		
心理学特論Ⅳ	31626		1														①	○
小計			18	0							5	5	3	5				
合計			18											18				

手話

手話概論	74001	鈴木(文)	2								2							
手話演習	74002	鈴木(文)	1									1						
手話実技	74003	鈴木(文)	1										1					
小計			0	4														
合計			4															

【教育情報コース】

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係						開講時期及び単位数				備考			
			必修	選択	小免	幼免	司教	レク	秘書	情報	ビシ	1年前期	1年後期	2年前期		2年後期		
教育工学総論	31712	今井(昌)	4												2	○	2	○
教育情報処理Ⅱ	31715	今井(昌)	2												1	○	1	○
授業設計論	31717	石原(正)	2												2			実習 教免取得者必修
情報科学概論	31725	関根	4															
情報処理Ⅰ	31727	本橋	4								2	○	2	○				
プログラム言語Ⅰ	31728	金子	2								1	○	1	○				
プログラム言語Ⅱ	31729	金子	2												1		1	セロ免必修・通年で受講すること
情報処理Ⅱ	31730	本橋	2												1		1	セロ免必修・通年で受講すること
小計			16	6							5	5						
合計			22															

秘書学概論	70101	高木	2														2	
秘書実務	70102	赤尾	2														1	1
事務管理	70103	高木	2														2	
簿記会計学	70118	楓	2														1	1
小計			0	8														
合計			8															

注)秘書士を取得する場合は、ビジネス実務士を
せん。

平成11年度入学生 児童教育学科 幼児教育専攻 開講・履修登録表

東海女子短期大学

科目名	コード	教授者	単位		資格との関係				開講時期及び単位数				備考	
			必修	選択	保育士		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期				
					幼免	必修					選択	司書		
経済学	9101	神谷(真)		2					2					
歴史学	9602	脊古		2						2				
日本国憲法	9609	野々村(路)	2		○	△			2	○				10単位以上必修
物理の世界	9611	安藤		2					2					
自然と人間	9617	今井(秀)・富田(晃)・寺嶋(昌)		4								2	2	
情報基礎	9620	松尾・杉山(喜)		2								1	1	
英語	9301	長谷部	2		○	△			1	○	1	○		
英会話海外研修Ⅰ	9306			1										CAB3-ロッチ研修参加者に認定
英会話海外研修Ⅱ	9307			2										CAB3ヶ月語学研修参加者に認定
体育講義	9401	桑原(信)・小林(和)・古田	1		○	△				1	○			1年後期後半
体育実技	9402	桑原(信)・小林(和)・古田	1		○	△			1	○				1年前期から1年後期前半
小計			6	15										
合計			2	1										

専	教育原理	32157	白幡・池谷		2	○	△			2					
	発達心理学	32127	神谷(か)		2	○	△			2					
門	学級経営論	32128	小栗		2	○					2				
	教育工学	32129	今井(昌)・杉原		2	○							2		
科	保育課程総論	32130	飯尾		2	○				2					
	保育内容	健康Ⅰ	32172	天野・奥村・伊藤		1	○	△			1				
		人間関係	32132	渡辺(寿)		1	○	△			1				
		言葉	32133	長谷部		1	○	△			1(12)	1(34)			1・2組は前期/3・4組は後期開講
		環境	32134	渡辺(寿)		1	○	△					1		〃
		表現Ⅰ	32158	若杉・水谷(重)・竹腰		1	○	△				1			
		健康Ⅱ	32173	天野・奥村・伊藤		1	○					1			
	表現	Ⅱ	32159	篠田(美)		1	○				1				
		Ⅲ	32160	若杉・篠田(美)		1	○								Ⅰ・Ⅱの合同
		保育援助論	32162	小川		2	○					1	1		
	実習概説	32151	小栗・佐々木・長縄		1	○	△					①			各実習毎に集中
	教育実習(幼)	32138			4	○						④			前期1年1月・後期2年6月
	音楽	幼児音楽Ⅰ	32169	篠田・平田・内藤 他	2		○	△		1	○	1	○		
	図画工作	幼児美術	32121	若杉・杉山(章)		2	○	△				1	1		
	体育	幼児体育	32163	桑原(信)・三橋・原田		2	○	△					2		通年で受講すること
国語	児童文学	32124	中島(良)		2	○					2				
目	社会福祉Ⅰ	32101	静間		2		△			2	○				
	社会福祉Ⅰ	ケースワーク	32102	藤田・林(喬)		1		△				1			
		グループワーク	32103	藤田・林(喬)		1		△					1		
	児童福祉Ⅰ	32165	静間		2		△				2				
	保育原理	32150	白幡		4		△					2	○	2	○
	養護原理Ⅰ	32105	長縄		2		△				2				
	教育心理学	32142	秋山		2		△				2	○			
	小児保健	32109	野村(春)		4		△			2	○	2	○		
	小児保健実習	32110	西尾・竹内		1		△			①					1年夏季集中講義
	小児栄養	32112	曾我部		2		△			2	○				
	小児栄養実習	32113	曾我部		1		△				1				
	精神保健	32111	森川		2		△						2		
	保育内容総論	32145	篠田(美)・飯尾		1		△			1					
	乳児保育Ⅰ	32114	水谷(容)		2		△				2				
	保育実習Ⅰ	(保)	32146			2		△				②			1年春休み10日間
(施)		32147			2		△					②		2年夏休み10日間	
児童福祉Ⅱ	32166	長縄		2			▲				1	1			
臨床心理学	32141	岩館		2			▲				1	1			
乳児保育Ⅱ	32143	佐々木		2			▲				1	1			
障害児保育	32167	池谷		2			▲					2			
家庭管理	32152	須田		2			▲					2			
音楽	幼児音楽Ⅱ	32170	篠田(美)・熊沢		2			▲		1	1(34)	1(12)			
	Ⅲ	32174	篠田(美)・大森(由) 他		2			▲				1	1		
保育実習Ⅱ	(保)	32148			2			▲						2年冬休み	
保育実習Ⅲ	(施)	32149			2			▲						2年冬休み	
保育総合演習	32168	幼児教育専攻全教員		2						2	○			2コマ	
小計			18	66											
合計			2	4											

(注) 保育士資格を取得するためには、保育士必修科目に加え保育士選択科目のうち5科目11単位以上取得しなければならない。

司書資格科目	図書館概論	50018	首藤		2			□		2					
	図書館資料論	50002	首藤		2			□			2				
	情報サービス概説	50019	小林(純)		2			□				2			
	レファレンスサービス演習	50020	小林(純)		2			□					2		
	資料組織概説	50021	児玉(孝)		2			□				2			
	資料組織演習	50022	児玉(孝)		2			□					2		
	図書館サービス論	50023	児玉(孝)		2			□				2			
	児童サービス論	50024	安田		1			□	①						1年夏季集中講義
	資料特論	50025	佐橋		1			□			1				同時開講
	専門資料論	50028	佐橋		1			□			1				
	情報検索演習	50026	小林(純)		2			□					2		
	図書館経営論	50027	児玉(孝)		1			□	①						1年夏季集中講義
	生涯学習論	50029	原		1			□	①						1年夏季集中講義
	情報処理演習	50030	松尾		1			□			①				1年冬季集中講義
	図書館演習・実習	50031	児玉(孝)		2			□					②		2年夏季・冬季集中講義
小計			0	24											
合計			2	4											

編集後記

平成 11 年度自己点検評価を取りまとめて公表した。

本学の歴史は 39 年の長きに亘っているため、その歴史的事項は略述したとしても膨大なものになるので、出来る限り割愛し、近年の事項を中心に据えて記述することとした。現在、教学は3つの学科によって行われているが、学長の言葉にもあるとおり、激動の時代の影響を受けて、これらの学科の性格、内容が変革を迫られるという時期に直面している。例えば、家政学科は平成 12 年度からは生活学科に改編され、学科の内容も著しく刷新されるという状況下にある。そういった意味合いでは、我々はこの時点で一つの締めくくりをして、新たなスタートラインに立ったといえるのかもしれない。今回の自己点検評価が、次回のものを読み比べられるとき、その変化の大きさに驚かれることであろう。

高校生の4大志向に伴う短大離れという現象があると一般にいわれている。また、女子短大という制約の中にも我々はいる。しかしながらそうした事象や限定を乗り越えて、なおかつ多数の学生を我々は毎年学園の中に迎えている。『学生の受入れ』や『学生生活への配慮』は、そうした状況の中にあって本学を選び入学した学生への、学園としての姿勢の一端を示したものであるが、紙面の関係上、重要な部分も一部省略されてることを付記しておかねばならない。また、こうしたデータの収集分析は、今後とも継続して行く必要があるのは当然のことである。

管理、運営の機構そのものは、形態的には大学間で余り大きな違いはないように思う。しかし、いかに機構が立派であり、精細緻密を極めていたとしても、実際に機能しなければ画餅にすぎない。要はその実施に当たっていかに魂をいれるかである。学生数が漸減する中で、生き残りを計っていくためには、教学、研修についてはいうに及ばず、教職員自らが、自らを管理し、運営に参画する気構えを持つことが真っ先に要請されるであろう。このたびの点検評価には、まだ手の加わっていない部分が若干残っている。中でも『授業評価』は極めて重要な部分である。こうした点を今後の課題として、新たな決意を持って取り組んでいきたい。

1999 年 9 月

東海女子短期大学

副学長 黒川 秀子

1999年度版 自己点検・自己評価報告

1999年9月発行

編集：東海女子短期大学自己評価検討委員会

発行：東海女子短期大学

〒504-8504 岐阜県各務原市桐野町

TEL：(0583)82-1148・(058)246-0490

FAX：(0583)83-5455

印刷：合同印刷株式会社